ESMPRO®/AC Advance Ver5.6
セットアップカード

Express5800 シリーズ

UL1046-A06

第１章 製品内容

第２章 セットアップの準備

第３章 セットアップの方法

第４章 AMC 機能

第５章 スケジュール運転の設定

第６章 ジョブの登録方法

第７章 障害発生時には

第８章 注意事項

第９章 用語集

第６版

2025 年６月

© NEC Corporation 2025

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AC Advance Ver5.6をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。 ESMPRO/AC Advance Ver5.6をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

更新履歴

版数	更新日付	更新内容
第１版	2024/06/06	新規作成
第２版	2024/12/27	文書全般のフォントおよび文字間隔の調整
第３版	2025/02/28	AMC 機能関連の注意事項を追加
第４版	2025/04/28	「第２章 セットアップの準備」に記載の DELL PowerEdge のサポート機種追加
第５版	2025/06/16	「３．２ ESMPRO Platform Management Kit からのインストール」に PMK 1.007.01 の注意(3)を記載
第６版	2025/06/30	社外 HP のリンク情報を更新

目次

第１章 製品内容 5

第２章 セットアップの準備 6

２．１　ESMPRO/AC Advance のセットアップ環境 6
２．２　ESMPRO/AC Advance の構成例 8

第３章 セットアップの方法 9

３．１　ESMPRO/AC Advance のインストール 9
　３．１．１　新規インストールの場合 10
　３．１．２　上書きインストールの場合 14
　３．１．３　バージョンアップインストールの場合 18
３．２　ESMPRO Platform Management Kit からのインストール 22
３．３　ESMPRO/AC Advance のアンインストール 23
　３．３．１　『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール 23
　３．３．２　[コントロール パネル] を用いたアンインストール 28

第４章 AMC 機能 31

４．１　AMC 機能を使用するためのセットアップ 32
４．２　マルチサーバ構成の運用例 39

第５章 スケジュール運転の設定 42

５．１　制御端末のスケジュール設定 42
５．２　連動端末のスケジュール設定 48
　５．２．１　Windows 連動端末への直接設定 48
　５．２．２　Windows 連動端末へ設定ファイルを送信 52
５．３　スケジュール一括設定 56
　５．３．１　配信用のスケジュール作成方法 57
　５．３．２　スケジュール一括設定方法 59
　５．３．３　スケジュール有効化 63

第６章 ジョブの登録方法 64

６．１　制御端末のジョブの設定 65
６．２　連動端末のジョブの設定 65
　６．２．１　ジョブ登録画面の起動方法 65
　６．２．２　電源投入時のジョブ登録方法 67
　６．２．３　電源切断時のジョブ登録方法 70
　６．２．４　ジョブ登録の保存 74

第７章 障害発生時には 75

７．１　マルチサーバ構成でのログ採取方法 76

第８章 注意事項 80

８．１　セットアップ関連 80
８．２　AMC 機能関連 80
８．３　運用時における注意 81

第９章 用語集 83

第１章　製品内容

ESMPRO/AC Advance Ver5.6のパッケージの内容は、製品に同梱されている構成品表に記載されています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

第２章　セットアップの準備

ESMPRO/AC Advance は ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品です。ESMPRO/AC Advance Ver5.6 をご使用になるためには、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6 もあわせてセットアップが必要です。

２.１　ESMPRO/AC Advance のセットアップ環境

ESMPRO/AC Advanceをセットアップするためには、次の環境が必要です。

①　ハードウェア

・対象機種　　: Express5800シリーズ
DELL PowerEdge
R760 / R760xs / R660 / R660xs
R750 / R750xs / R650 / R650xs / R550 / R450 / R350

最新の対応 H/W 状況は、以下をご参照ください。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_environment.html
→　動作環境
→　動作環境一覧

・メモリ　　: 14.0 MB 以上
ESMPRO/AutomaticRunningControllerと合計すると
37.0 MB 以上

・固定ディスクの空き容量　: 40.0 MB 以上
ESMPRO/AutomaticRunningControllerと合計すると
100.0 MB 以上

・HW/BIOS機能（＊）　: 制御端末のリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL(Wake On LAN)機能を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

（＊）
機種によっては、Wake On LAN機能が提供されていない場合があります。機能が提供されていない機種は、BIOSにWake On LANの設定メニューがないため、Wake On LAN機能を有効にすることができません。そのため、リモート起動を含め自動運転の起動機能は実現できません。
これらの機種は、リモート起動を含め自動運転の起動機能は実現できません。また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。この場合には、その後の自動起動も出来ません。
これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存するため、導入の際には、あらかじめ使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。
（同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合もあります。）

② ソフトウェア

Windows Server 2022 Standard/Datacenter/Essentials
Windows Server 2019 Standard/Datacenter/Essentials
Windows Server 2016 Standard/Datacenter/Essentials
Windows 11 Pro
Windows 10 Pro

最新の対応 OS 状況は、以下をご参照ください。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_environment.html
→ 動作環境
→ 対応 OS 一覧

＊AMC(AC Management Console)機能によりマルチサーバ構成で制御される連動端末（非制御端末）には、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがセットアップされている必要があります。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerおよび各オプションパッケージ製品のアップデートを下記サイトに公開しています。未適用のアップデートがございましたら、ダウンロードし適用してください。

https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx
→ 修正物件ダウンロード
→ 製品名・カテゴリから探す
→ ESMPRO/AutomaticRunningController

ESMPRO/ACにて仮想マシンの順序シャットダウン／順序起動を行う場合は、下記資料をご参照ください。

https://jpn.nec.com/esmpro_ac/ac_download.html
→ ダウンロード
→ 各種資料
→ 仮想マシン順序設定マニュアル

ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/ServerManager Ver. 7.12と連携する場合は、ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AC AdvanceまたはESMPRO/AC Advance Ver5.6を組み合わせてご利用願います。

ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AC Advance をインストールした場合、ライセンスキーの登録を行うことなく ESMPRO/AC Advance をインストールすることが可能ですが、ライセンスキーを登録しない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。無停電電源装置(UPS)の管理以外の機能を使う場合には、以下のライセンスキーをご購入の上で、ライセンスキーの登録をお願いします。

UL1046-A06

２．２　ESMPRO/AC Advance の構成例

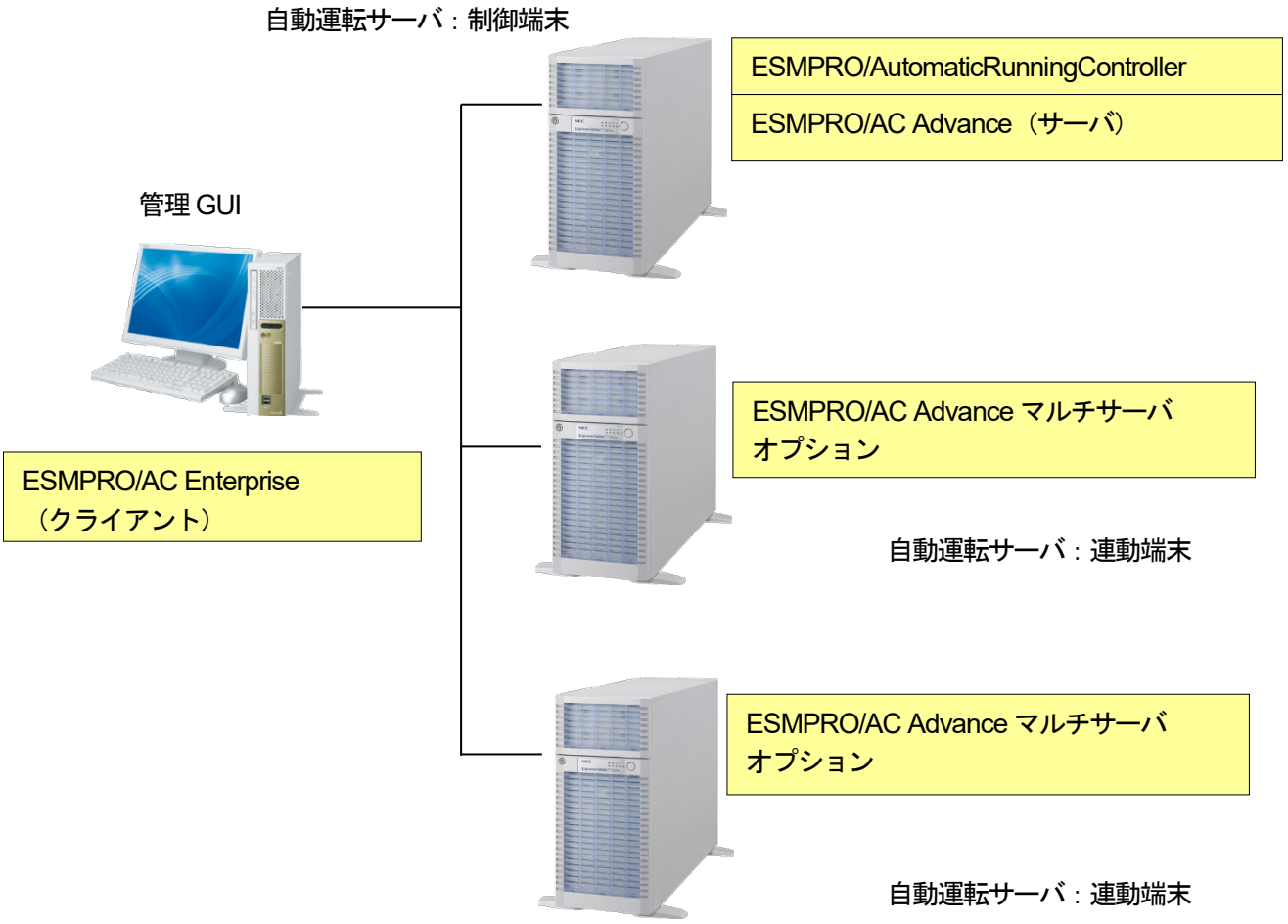


図 2.2-1

第３章　セットアップの方法

３.１　ESMPRO/AC Advance のインストール

Administratorもしくは Administrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

注意

- ESMPRO/AutomaticRunningController の HP より最新のパッチ/修正モジュールを確認し、最新のアップデートを適用願います。
  https://jpn.nec.com/esmpro_ac/update.html?
- 上位バージョンがインストールされている場合は、インストールは行えません。エラーとなります。
- CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』の内容で iso イメージファイルを作成しマウントしてインストールを行ってください。
- ESMPRO/AC Advance Ver5.6 は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6 がインストールされたサーバ上でのみ動作します。ESMPRO/AC Advance Ver5.6 をインストールする場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.6 をインストールするソフトウェアに追加してください。
- 他のオプション製品をインストールする場合は、Setupac.exe からインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。
- 上書きインストール、バージョンアップインストールでは、これまでの運用で設定した情報を保持したまま、モジュールのコピーを行います。
- セットアップの実行中に「終了」および「キャンセル」ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで「終了」ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。

３．１．１　　新規インストールの場合

（１） CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

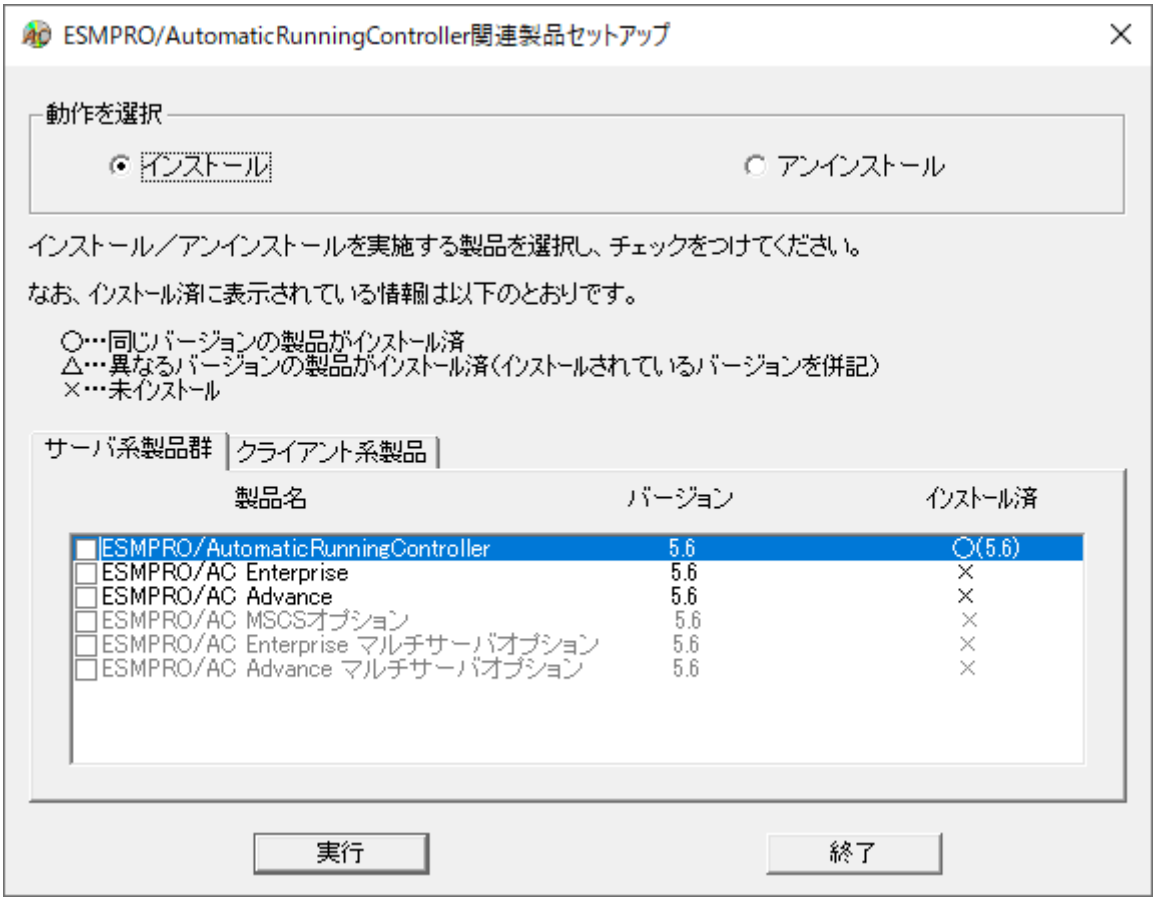


図 3.1-1

（2） 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

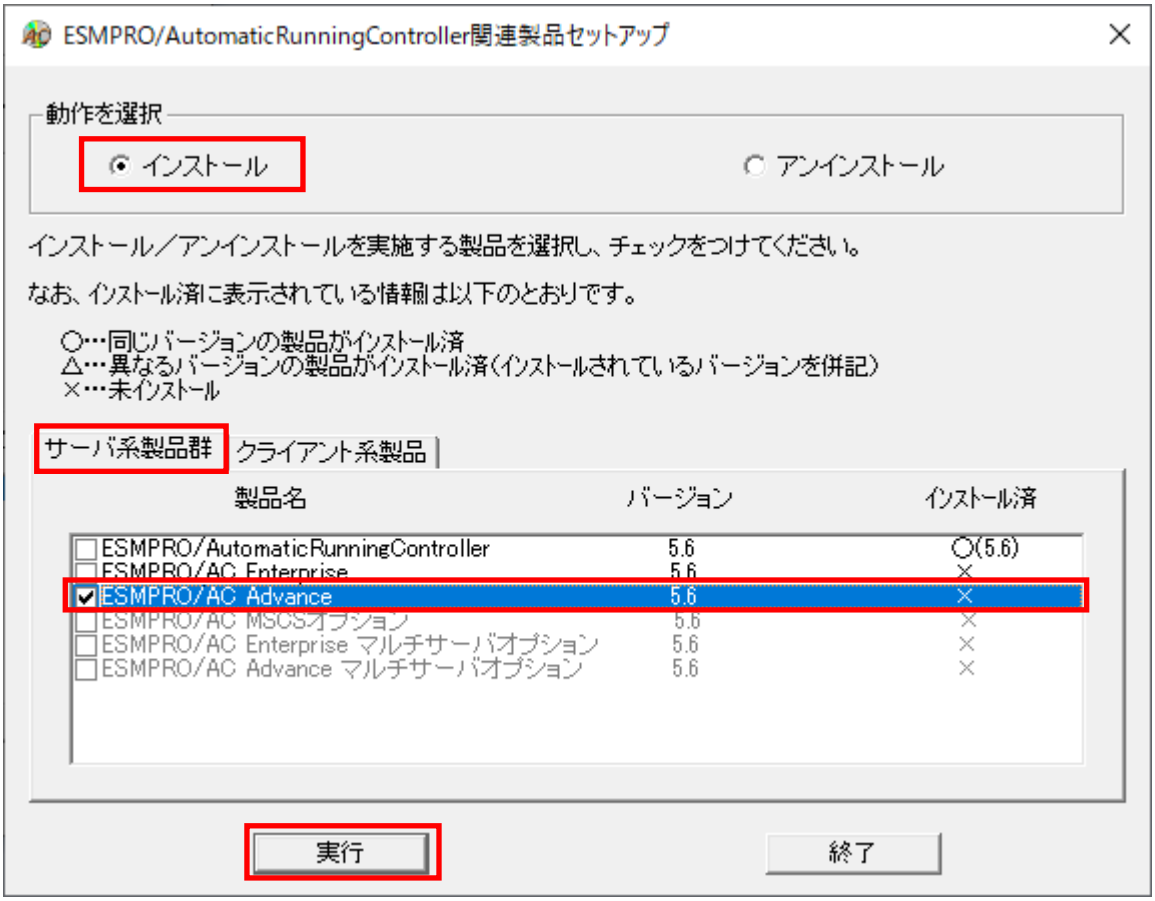


図 3.1-2

（3） 「実行」ボタンを選択します。

（4） 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.1-3

（5） サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

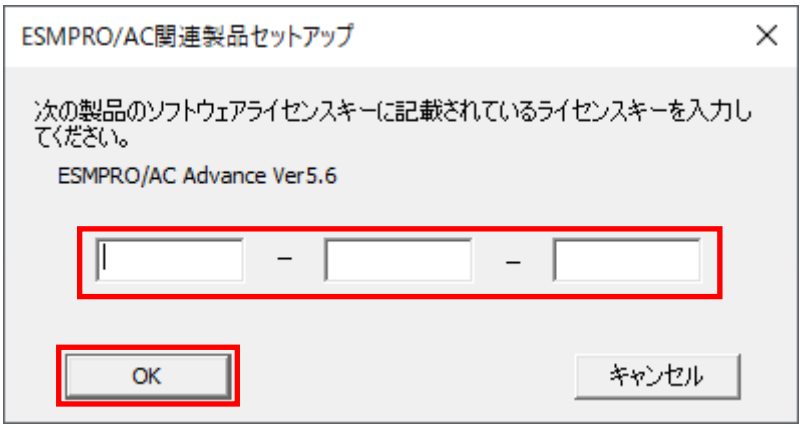


図 3.1-4

（6） ファイルの転送が開始されます。

（7） 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

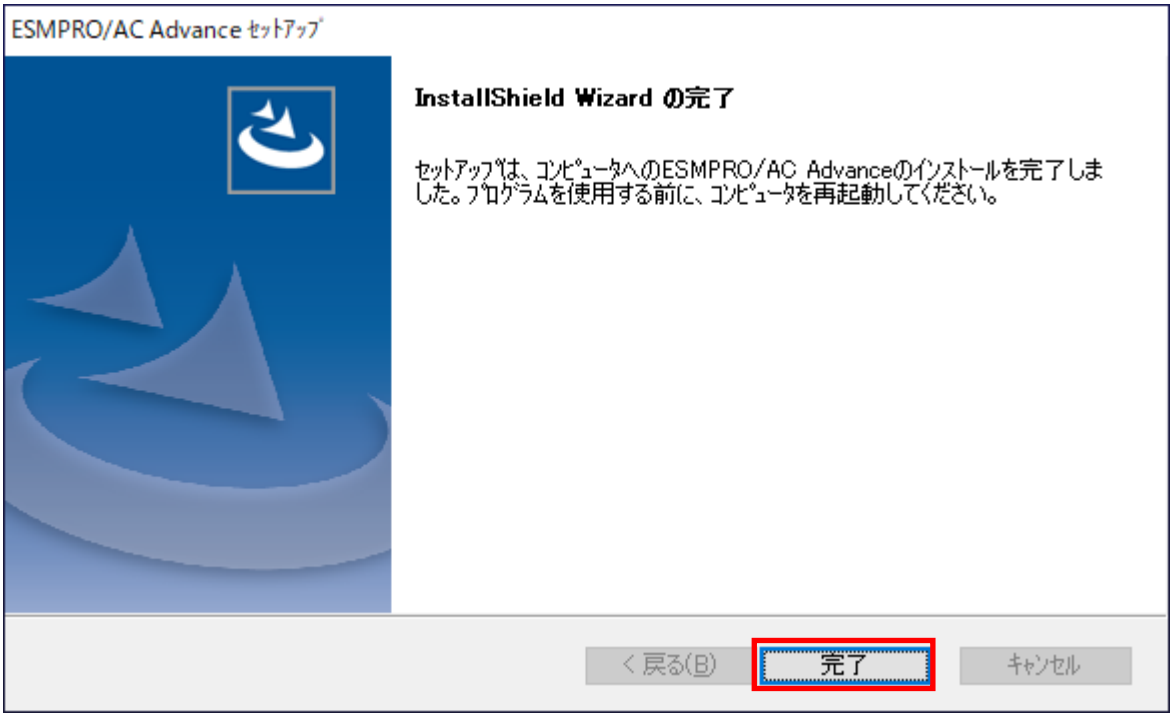


図 3.1-5

（8） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advance のインストール済欄に〇およびバージョンが表示されていることを確認します。

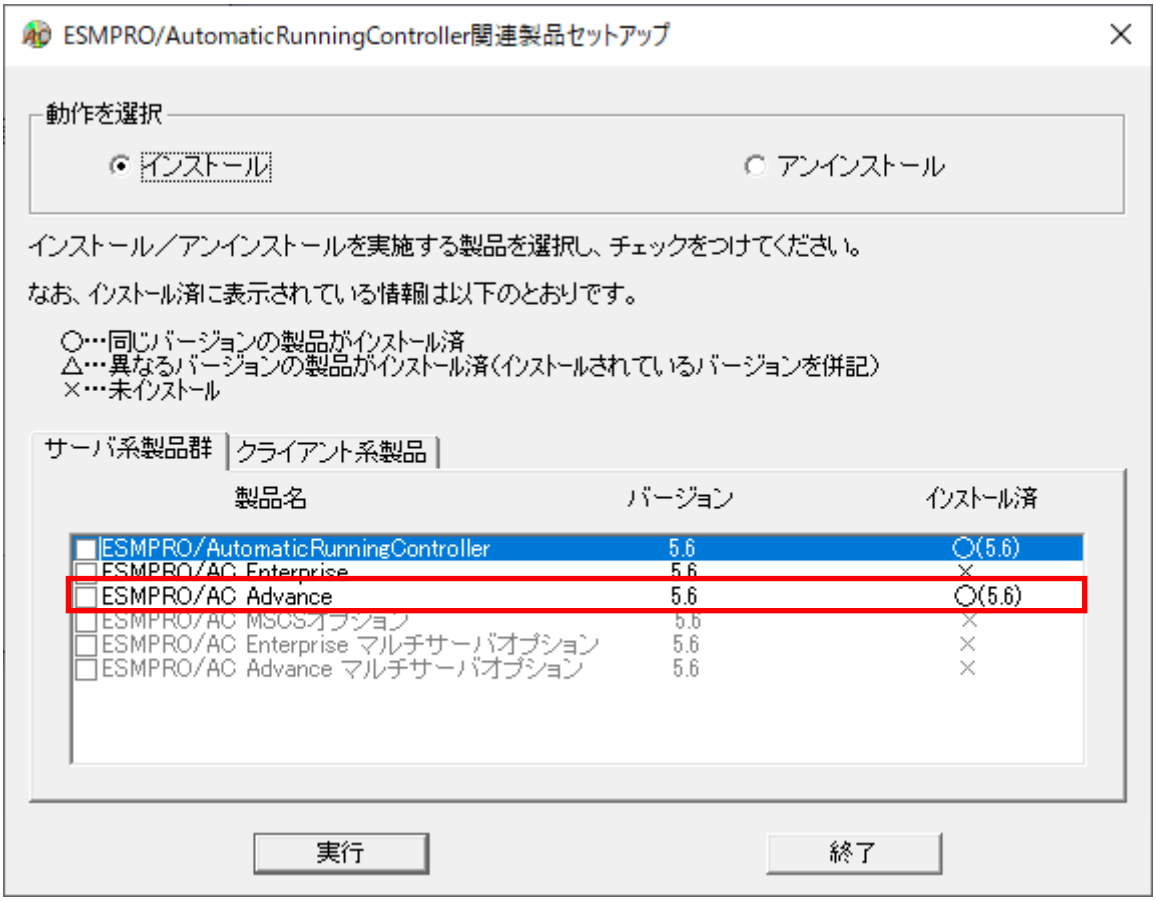


図 3.1-6

３．１．２　　上書きインストールの場合

（１） CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

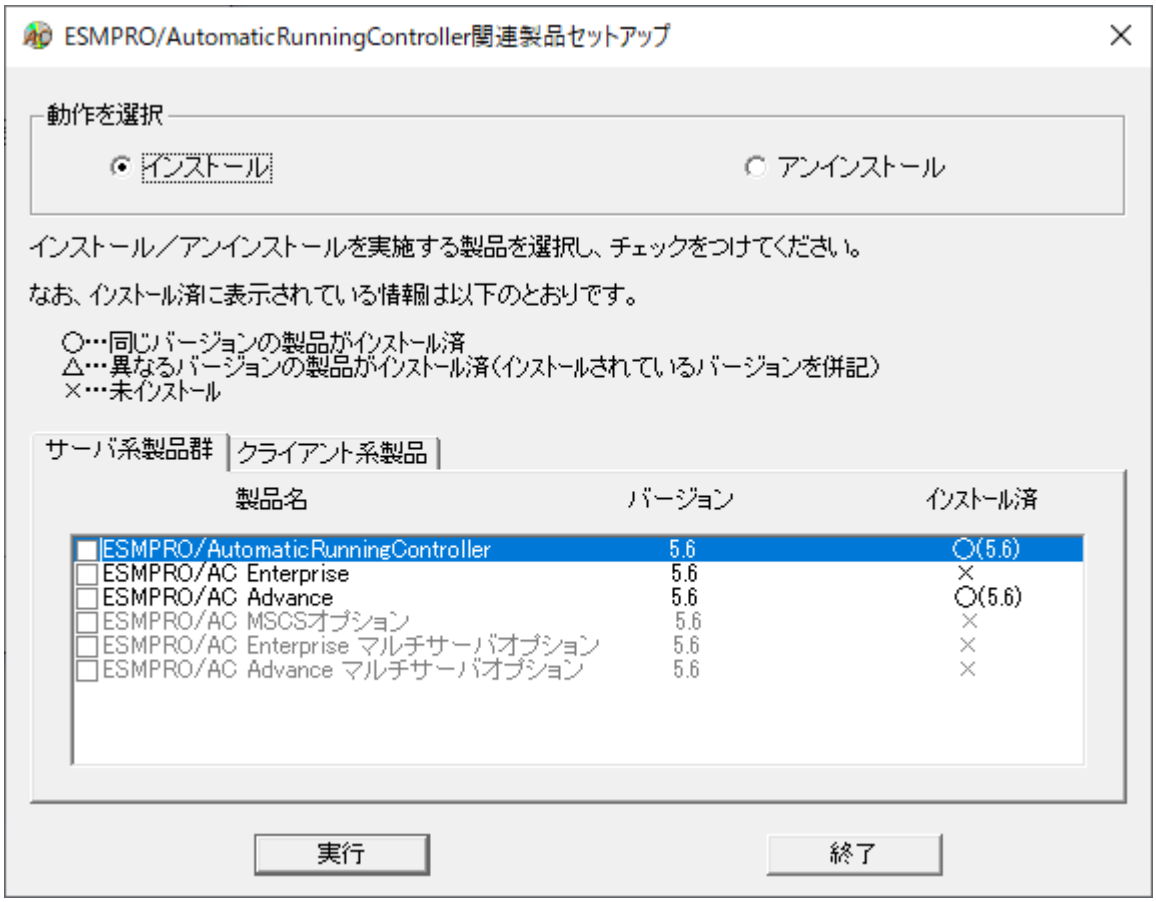


図 3.1-7

（2） 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

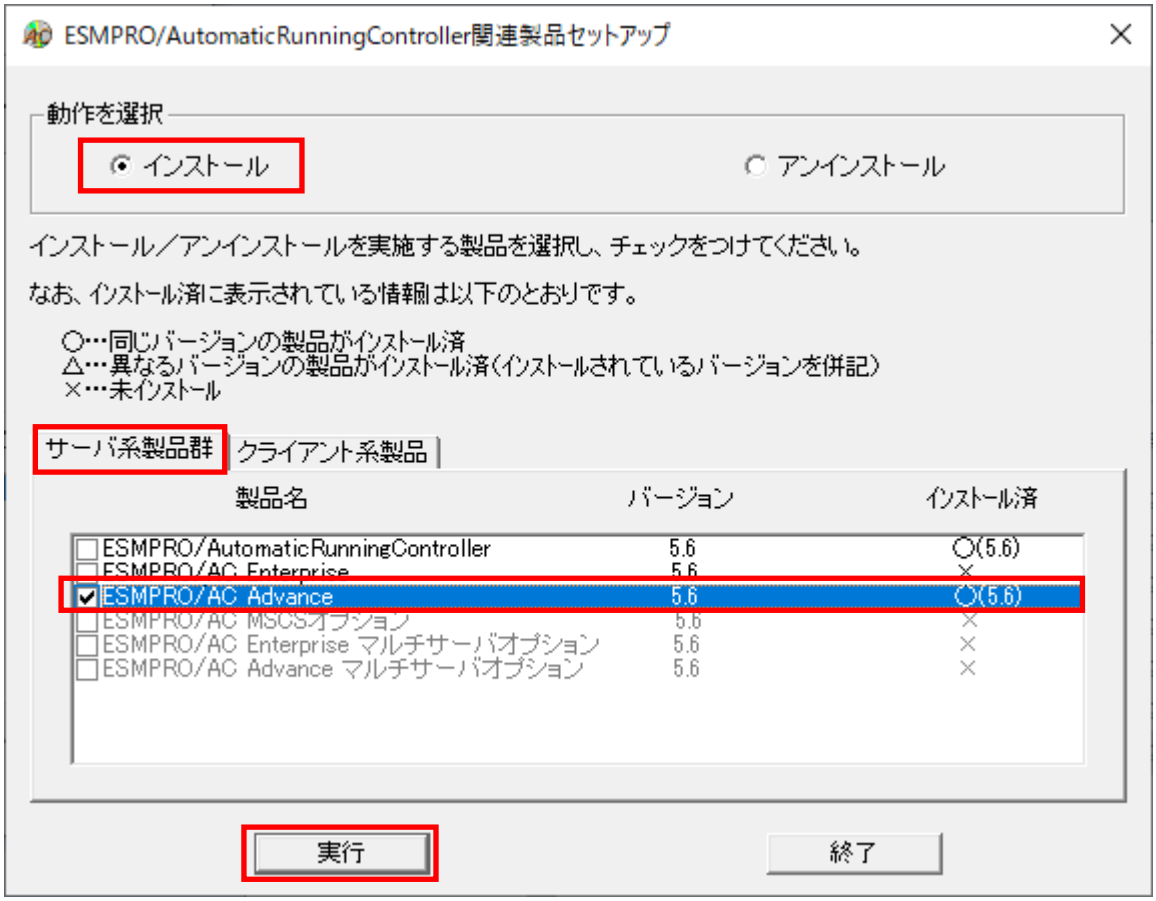


図 3.1-8

（3） 「実行」ボタンを選択します。

（4） 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.1-9

（５） ESMPRO/AC Advanceのセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。
インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

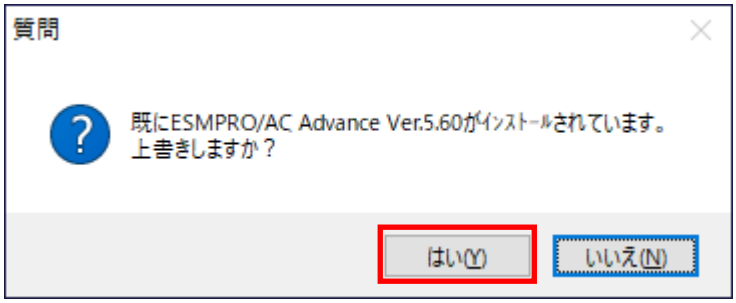


図 3.1-10

（６） ファイルの転送が開始されます。

（７） 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

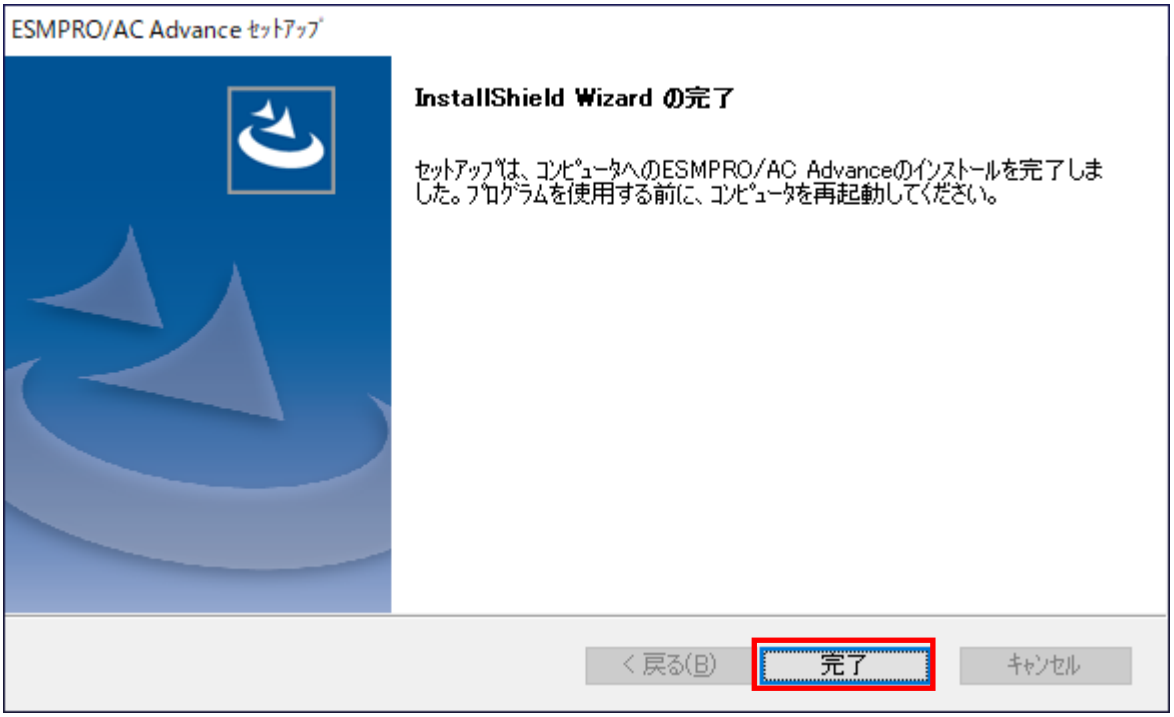


図 3.1-11

（8） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advance のインストール済欄に○およびバージョンが表示されていることを確認します。

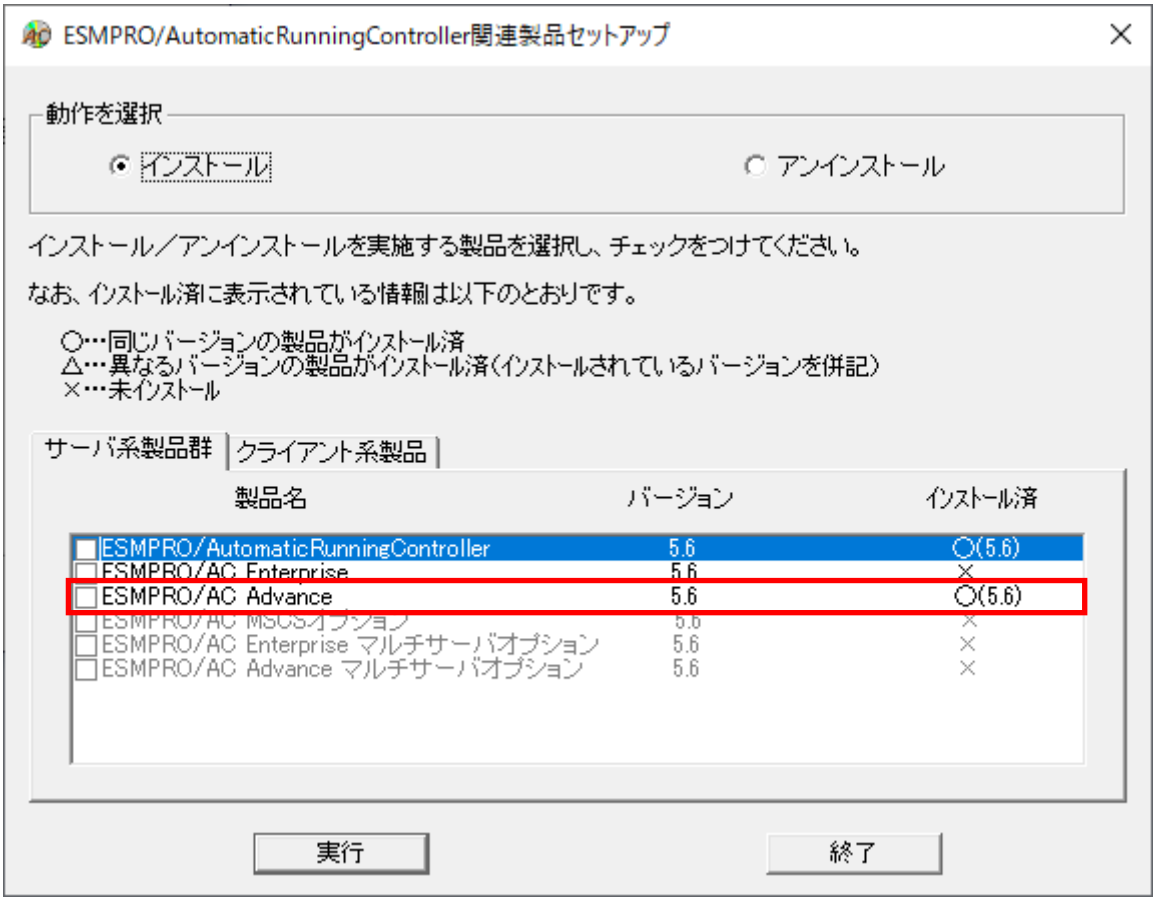


図 3.1-12

３．１．３　　バージョンアップインストールの場合

（１） CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

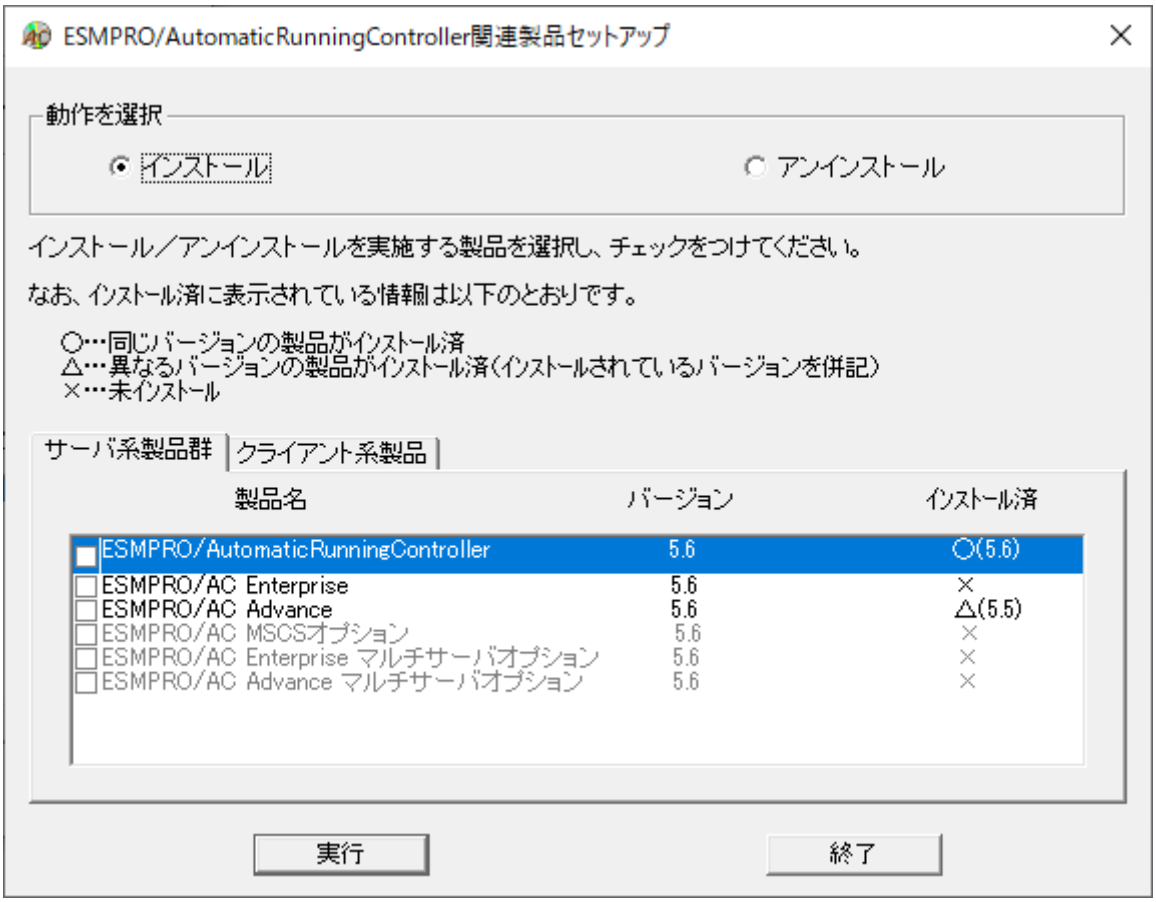


図 3.1-13

異なるバージョンの製品がインストールされている場合、インストール済の欄に△(バージョン)が表示されています。

下位バージョン(Ver5.0以上)からのバージョンアップインストールを実施される場合は、通常のインストールと同様に行ってください。その際、設定内容はそのまま引き継がれます。

（2） 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中から ESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

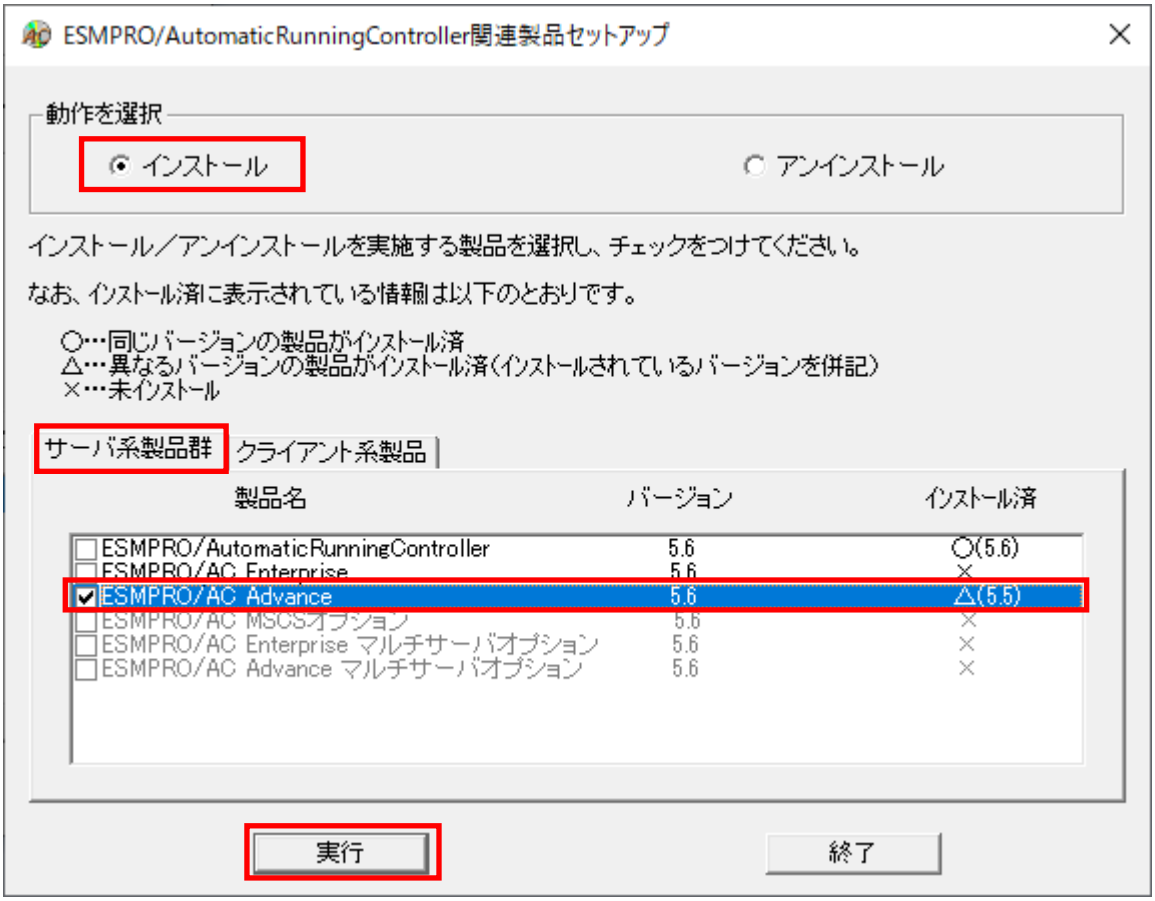


図 3.1-14

（3） 「実行」ボタンを選択します。

（4） 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.1-15

（5） サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

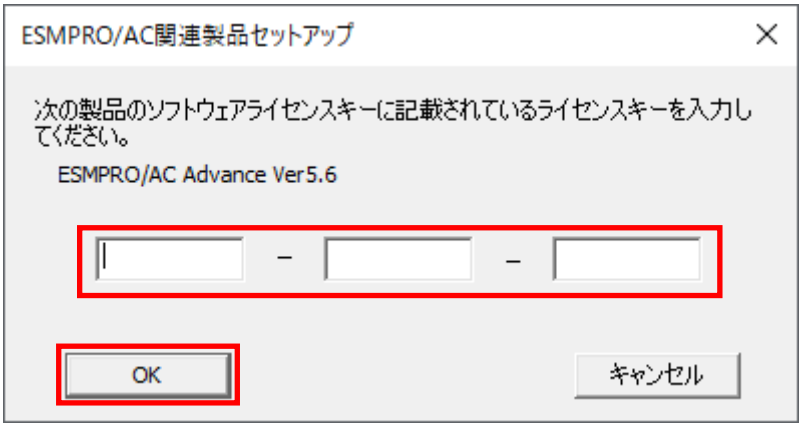


図 3.1-16

（6） ESMPRO/AC Advanceのセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

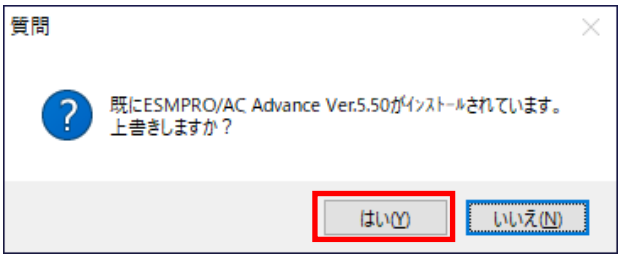


図 3.1-17

（7） ファイルの転送が開始されます。

（8） 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

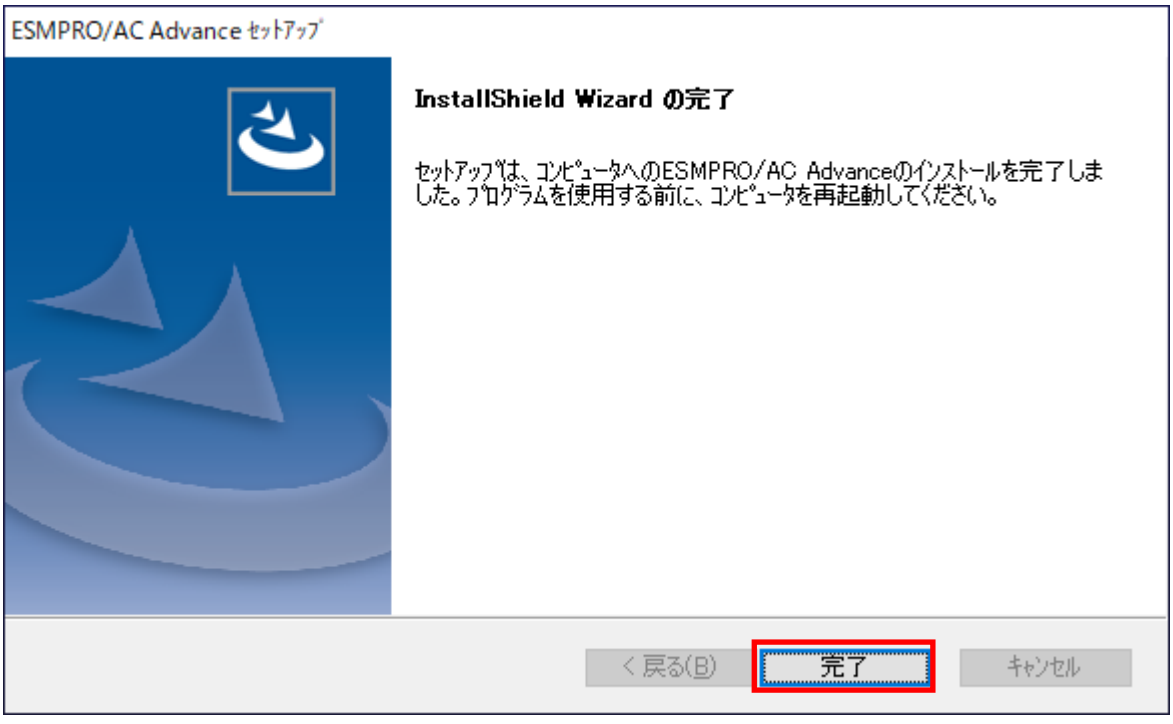


図 3.1-18

（9） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advance のインストール済欄に〇およびバージョンが表示されていることを確認します。

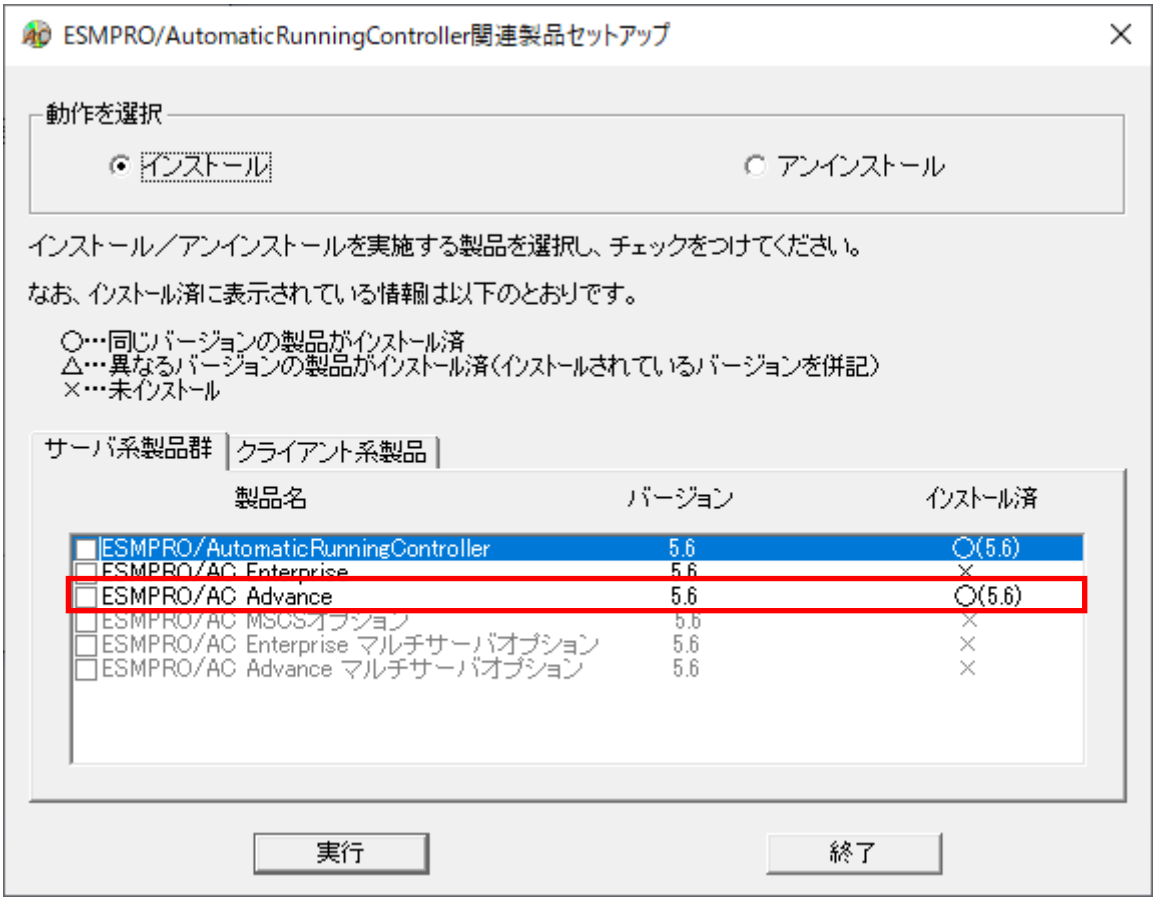


図 3.1-19

３.２ ESMPRO Platform Management Kit からのインストール

「ESMPRO Platform Management Kit v1.006」または「ESMPRO Platform Management Kit v1.007」より「ESMPRO/AC Advance Ver5.6」をインストールされる場合は「ESMPRO インストールツール ユーザーズガイド」を参照願います。

注意

(1) ライセンスキーの登録を行わない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。旧バージョンよりのアップデートインストールを行い、ライセンス適用を行わない場合、アップデート前の動作と同じにならないため、システム運用に問題が発生する可能性があります。アップデートインストールを行う場合は、アップデート完了後に新しいライセンスの適用を行ってからの運用を強く推奨します。

(2) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.003.01」以降の「ESMPRO インストールツール」「統合インストール」で、ライセンス適用済みの ESMPRO/AC Advance 環境に対してアップデートインストールを行うことはできません。項目(1)の注意をお読みの上、「各種アプリケーション」よりアップデートインストールを行ってください。

(3) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.007.01」でインストールした場合は、インストール後にインストールイメージの【アップデート格納ディレクトリ】中の『ESMARC56-01-241115.zip』を適用願います。ZIP ファイルを解凍し、ファイル解凍後の README.TXT にアップデート適用方法の詳細が記載されていますので、参照してください。

【アップデート格納ディレクトリ】
「software¥999¥win¥esmpro_arc¥update」

３.３ ESMPRO/AC Advance のアンインストール

ESMPRO/AC Advance のアンインストールは、下記２つの方法があります。下記いずれかの方法にてアンインストールをしてください。

１. 『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール
２. [コントロール パネル] を用いたアンインストール

３．３．１『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』を用いたアンインストール

注意

・ESMPRO Platform Management Kit よりアンインストールを実行する場合は、「３.３.２ [コントロール パネル]を用いたアンインストール」を行ってください。

・CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』の内容で iso イメージファイルを作成しマウントしてアンインストールを行ってください。

（１） インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.6』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。

（２） CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

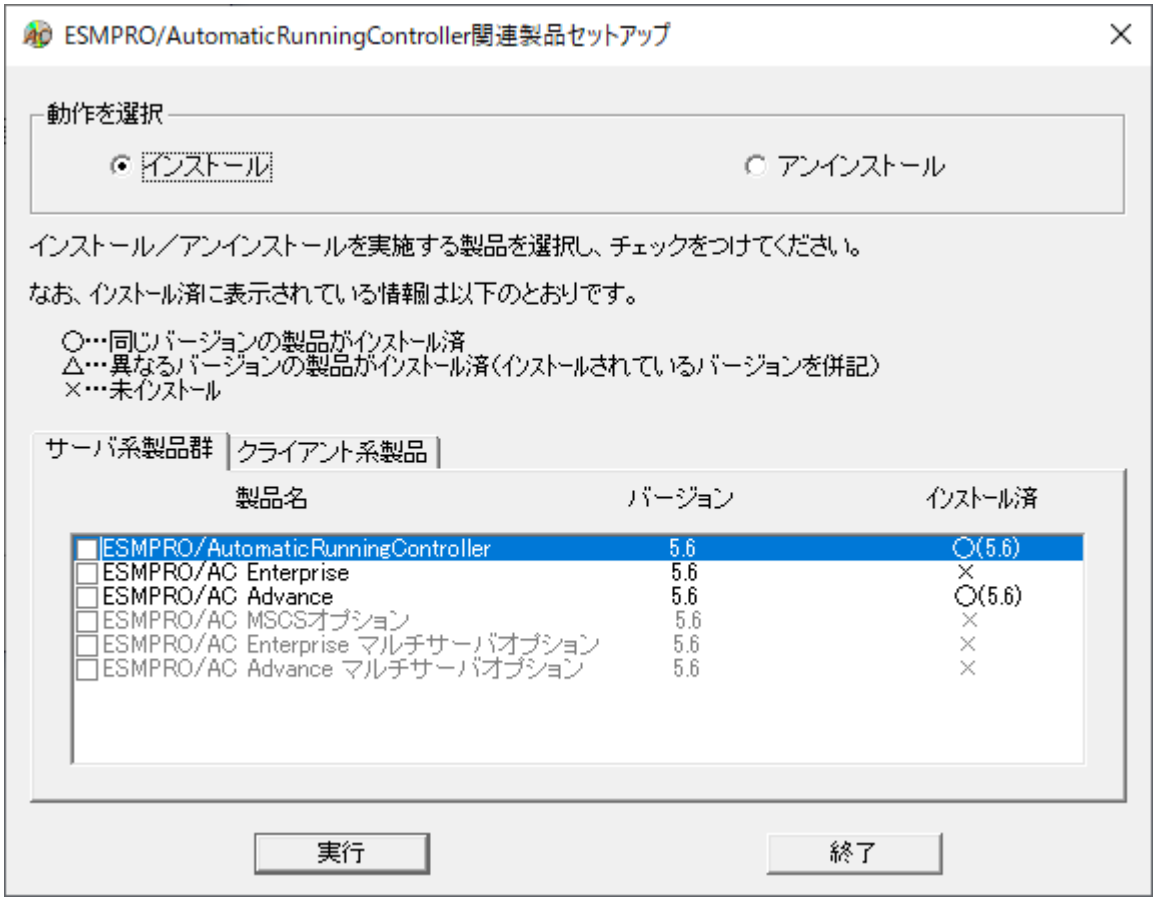


図 3.3-1

（３） 「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

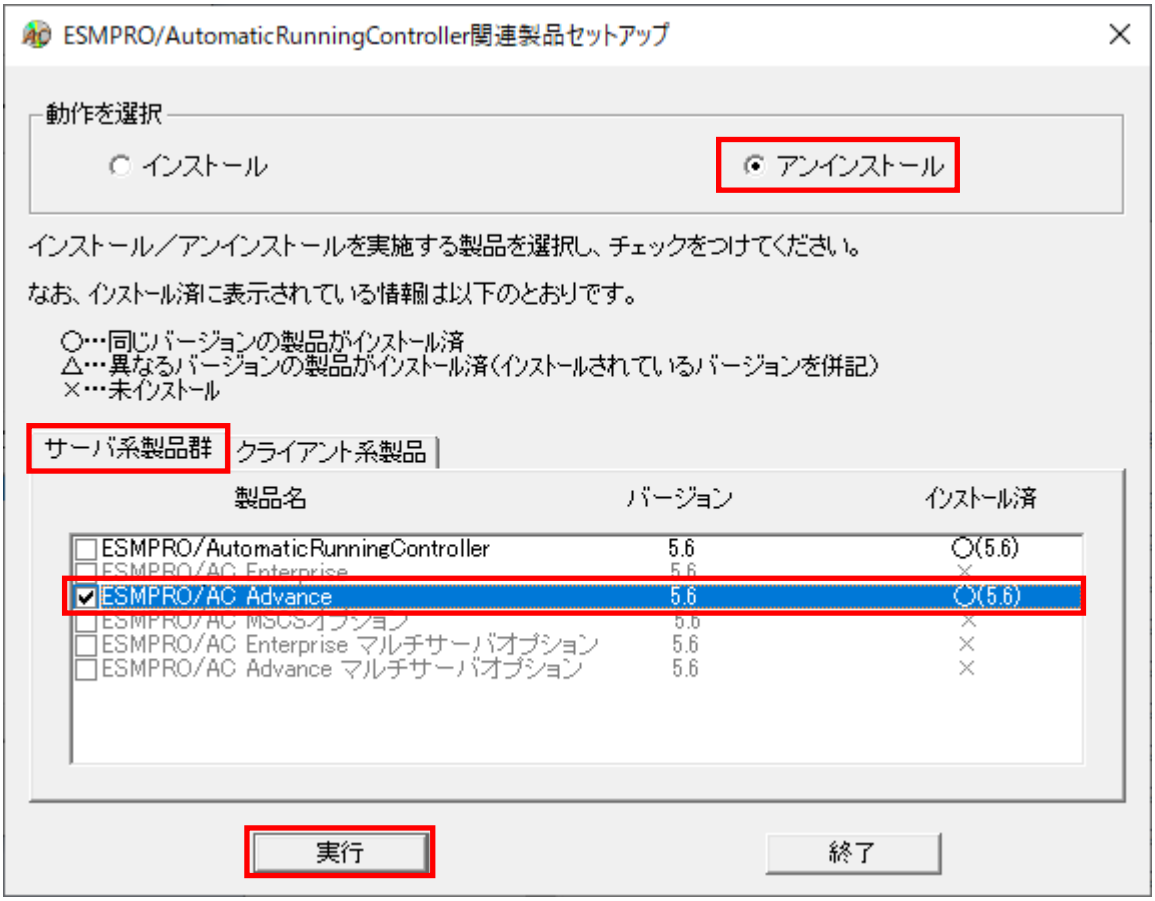


図 3.3-2

（４） 「実行」ボタンを選択します。

（５） 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

図 3.3-3

（6） インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

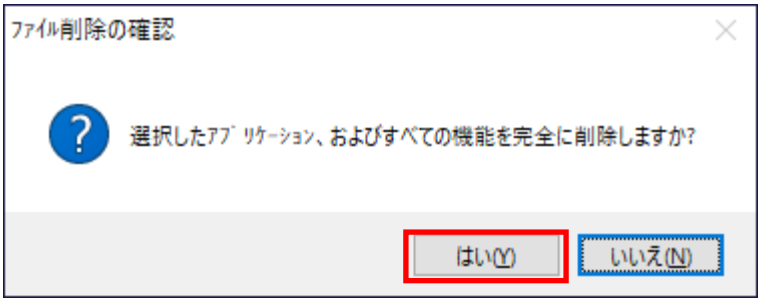


図 3.3-4

（7） ファイルの削除が行われます。

（8） 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

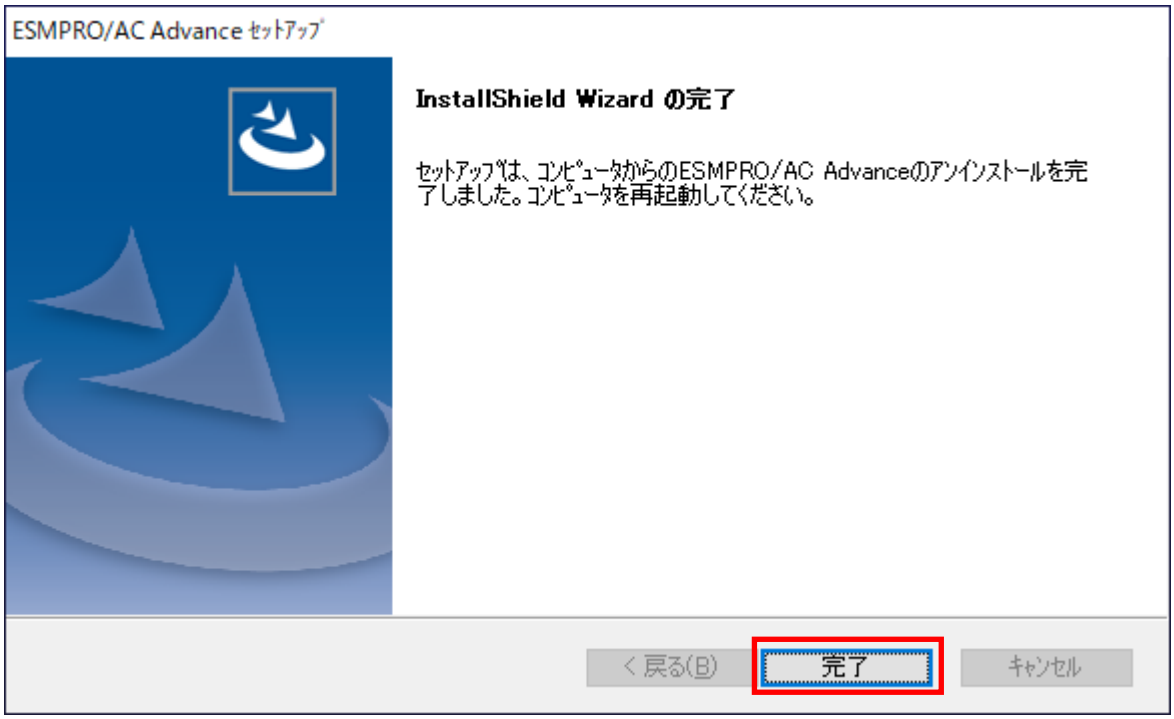


図 3.3-5

（９） 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advanceのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。

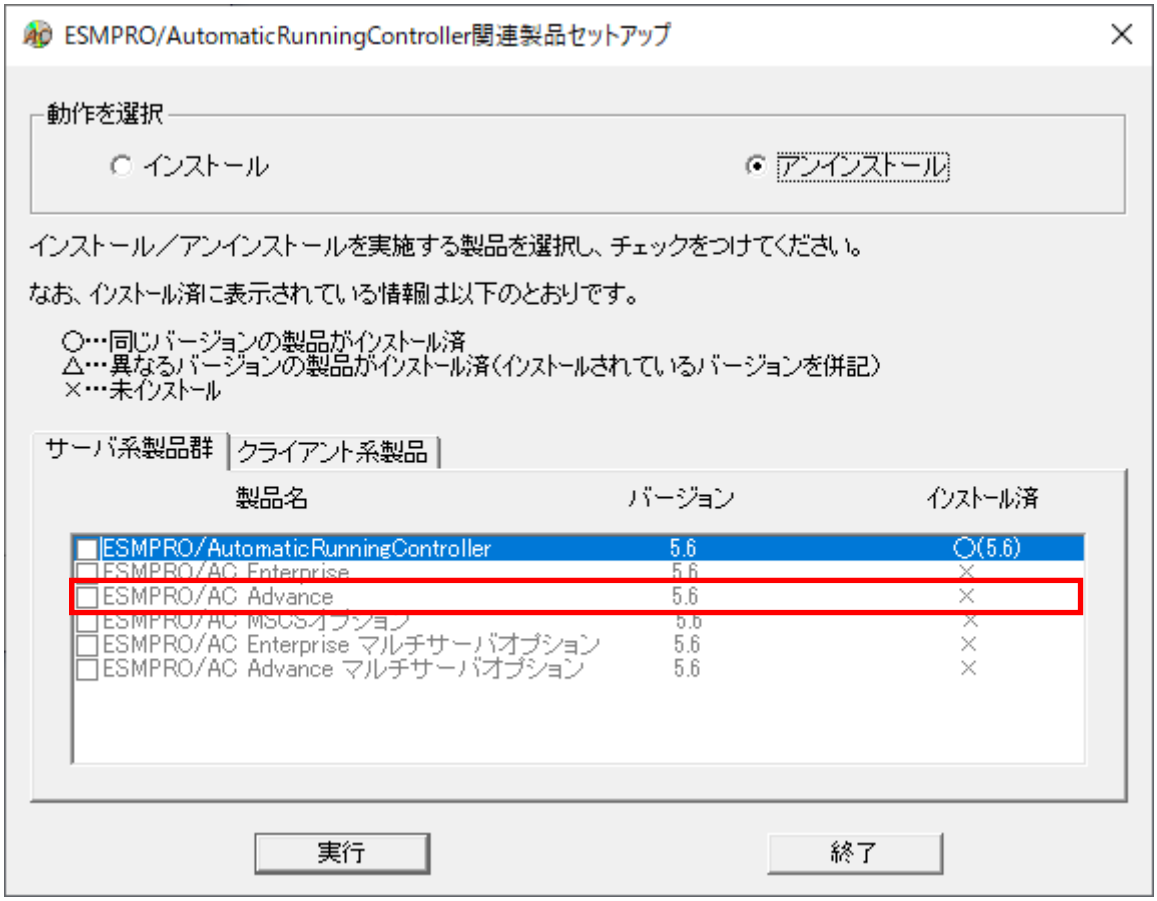


図 3.3-6

（１０） アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

３．３．２［コントロール パネル］を用いたアンインストール

（１）インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。

（２）タスクバーの検索ボックスに ”コントロール” と入力し、検索結果の [コントロール パネル] をクリックします。

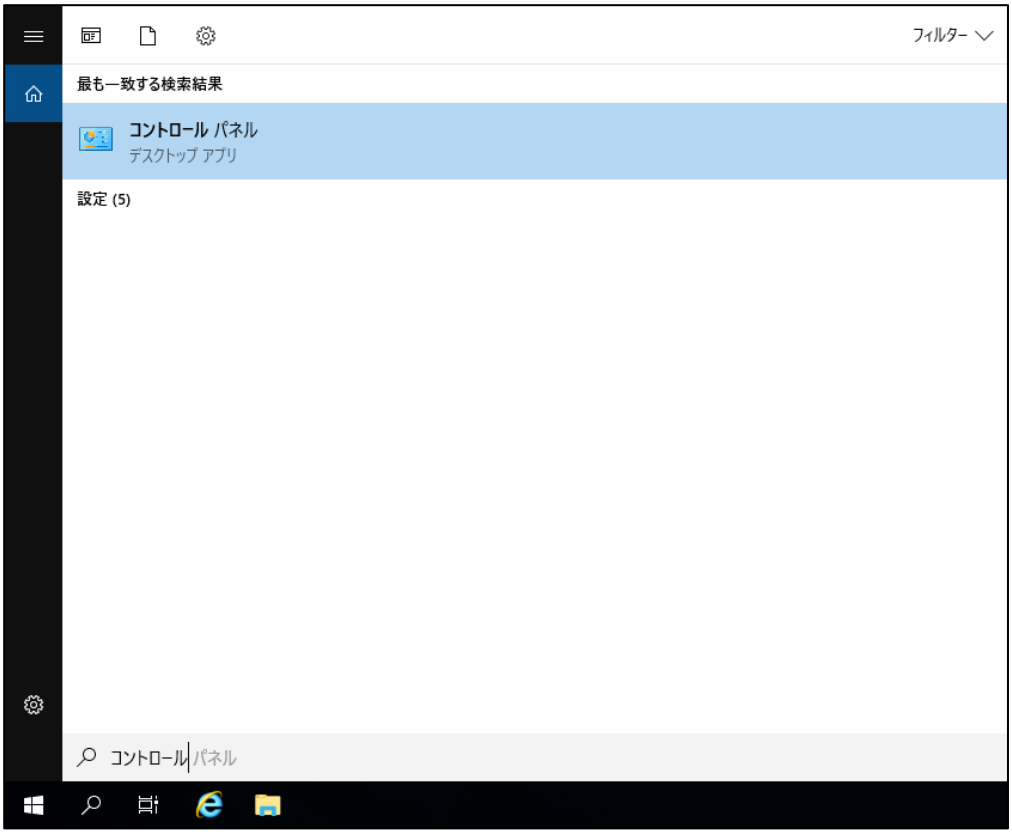


図 3.3-7

（3）コントロールパネルから [プログラム] → [プログラムと機能] をクリックします。

図 3.3-8

（4）ESMPRO/AC Advanceをクリックした後、[アンインストール] をクリックします。

図 3.3-9

（5）インストーラが起動され、確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

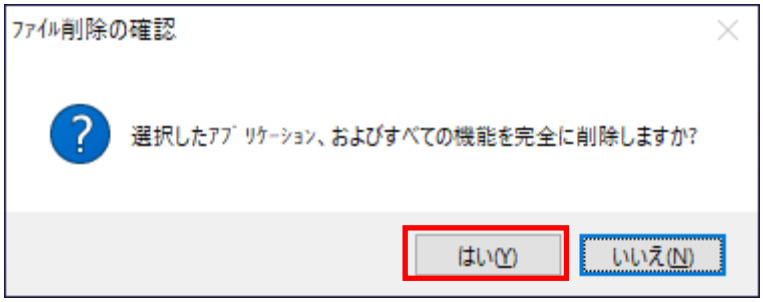


図 3.3-10

（6）ファイルの削除が行われます。

（7）次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

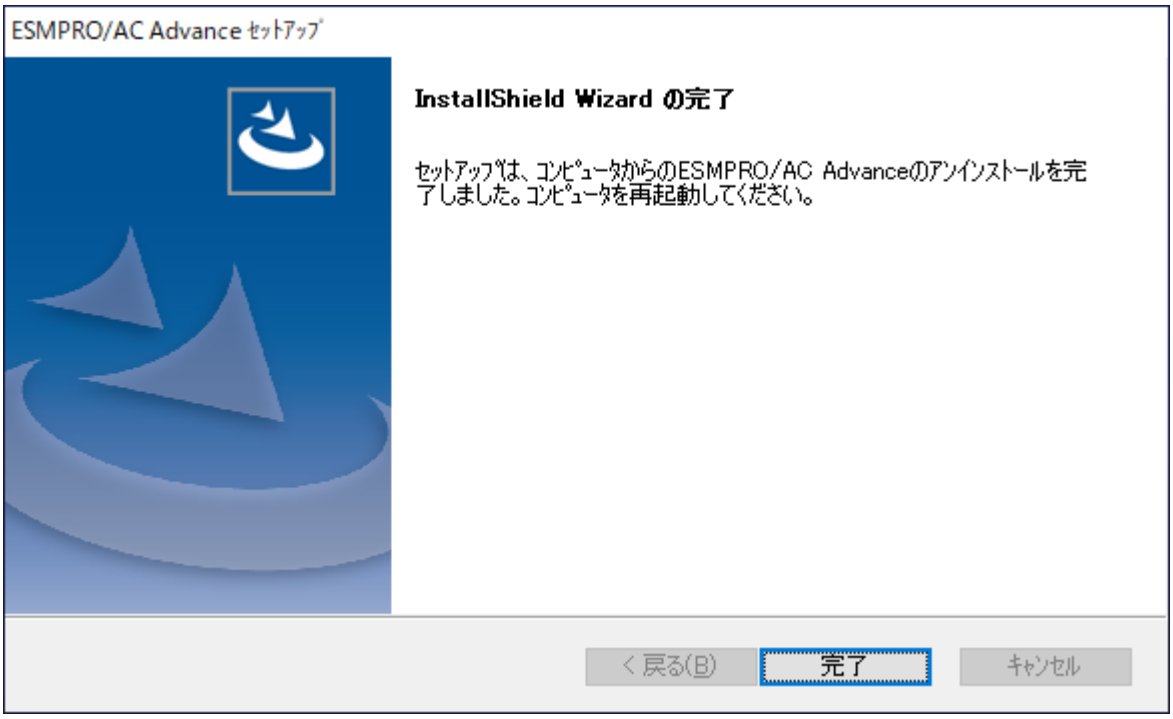


図 3.3-11

（8）アンインストール後は、システムを再起動してください。

第４章　AMC 機能

ESMPRO/AC Advance では、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされたサーバの統合管理を実現させるため、AMC (AC Management Console) 機能を搭載しています。

注意：

製品ライセンス適用が行われていない場合、AMCは無停電電源装置(UPS)の管理に関連する設定のみに制限されます。

【制限項目】

・４.１ AMC機能を使用するためのセットアップ

「ESMPRO_AC 環境ウィザード」は起動できません。

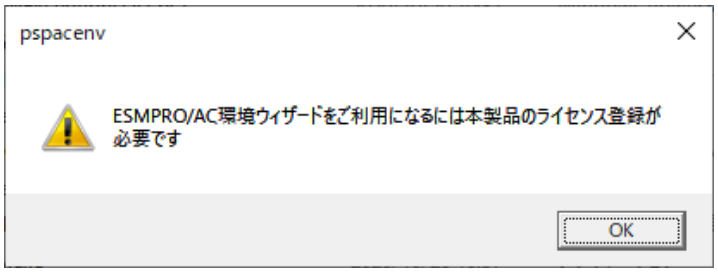


図 4-1

・４.２ マルチサーバ構成の運用例

→連動端末の新規登録および編集はできません。

４．１　AMC 機能を使用するためのセットアップ

[スタート]ー[ESMPRO_AutomaticRunningController] から「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動し、「環境設定ウィザード」を選択します。

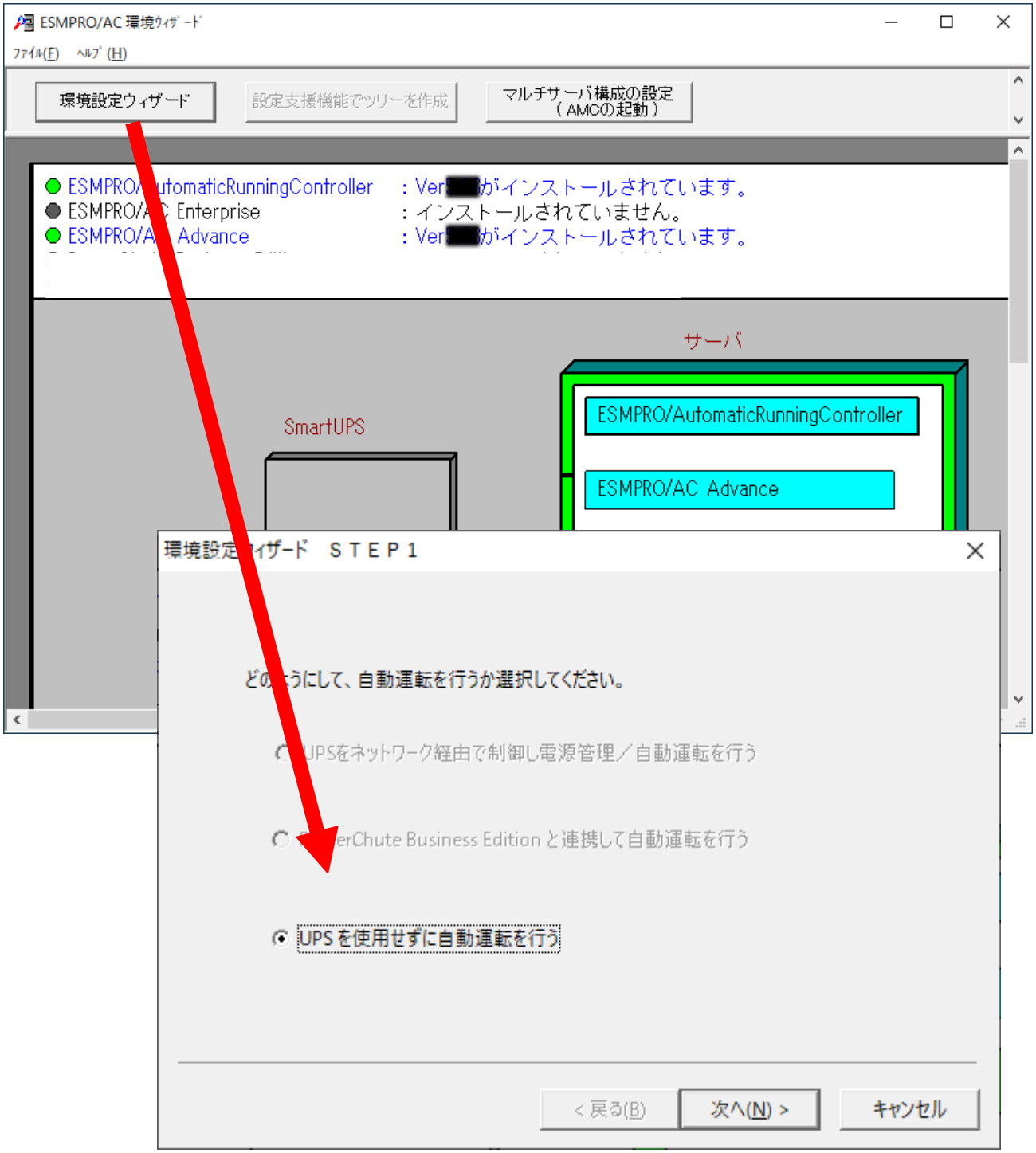


図 4.1-1

“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択し、「次へ(N)>」ボタンを押します。

図 4.1-2

「完了」ボタンを選択すると、以下のようなメッセージが表示されます。

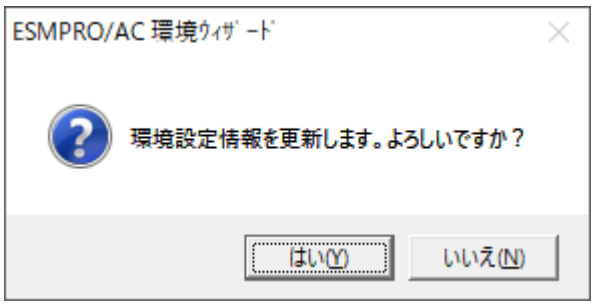


図 4.1-3

「はい(Y)」を選択すると、AMC の起動を確認するダイアログが表示されます。

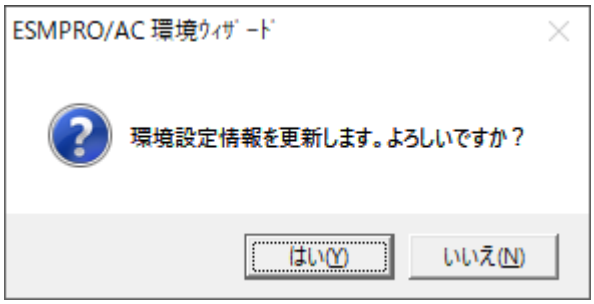


図 4.1-4

AMC を起動します。

「編集」メニューから「電源制御グループ作成」を選択し、グループ名を入力します。

※ 「電源装置」、「連動装置」、「制御端末」、「連動端末」は予約された文字列です。

グループ名を登録する際には、これらの予約された文字列と完全一致する文字列を指定しないでください。

また、登録済のサーバ名、UPS 名称、グループ名と同一の文字列も使用しないでください。

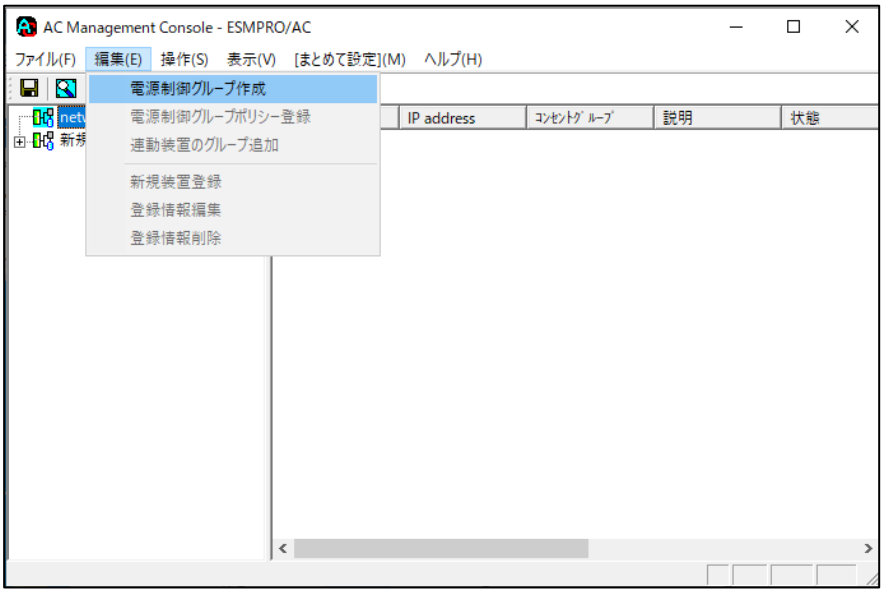


図 4.1-5

作成したグループ配下のアイコンをクリックすると、グループポリシーの入力画面が表示されます。制御端末が複数台のときは制御端末に届くローカルブロードキャストアドレスを入力します。制御端末が１台のみのときは ESMPRO/AC Advance をインストールした制御端末の IP アドレスを入力します。

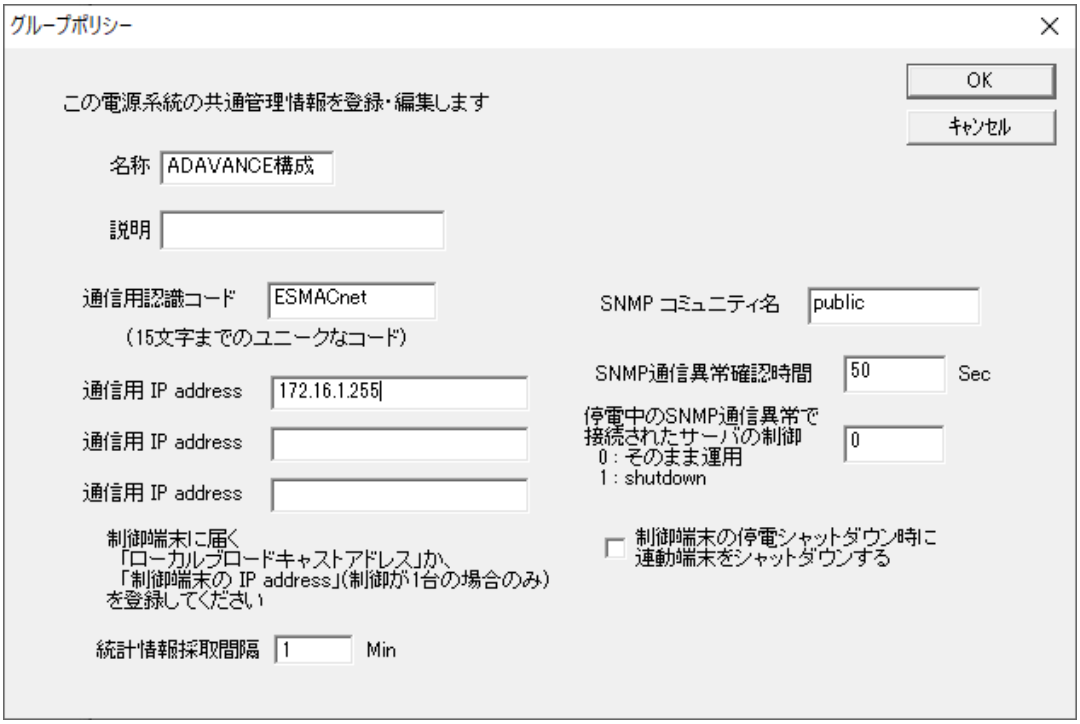


図 4.1-6

次に、ツリー上の「制御端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。

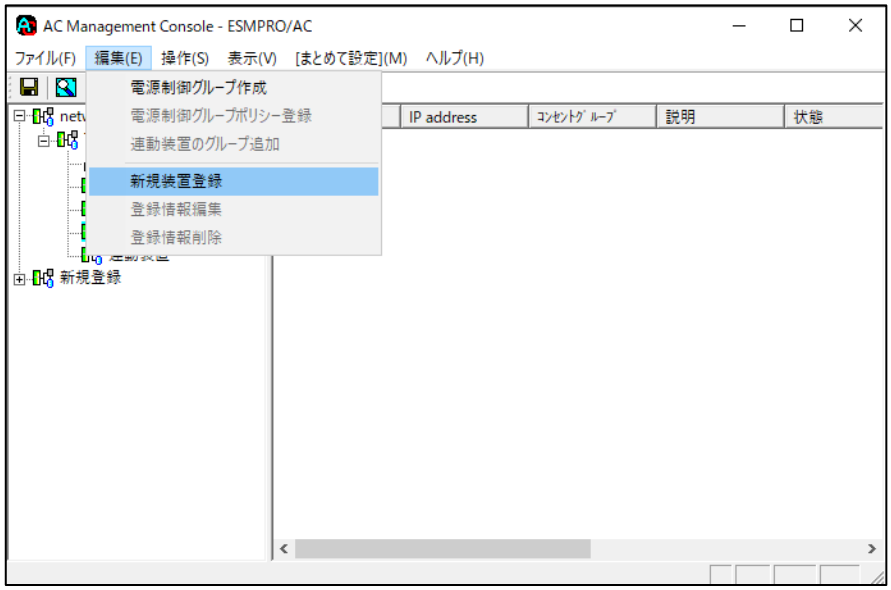


図 4.1-7

「制御端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、制御端末（サーバ）の情報を入力します。

制御端末をリモート起動する場合は、Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。MAC address は、コマンドプロンプトから“ipconfig /all” と入力し、出力結果に表示されている物理アドレス（OS により Physical Address と表示されます）を入力します。

リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC アドレスを入力します。

※ AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定による仮想 MAC の設定を行っている場合、いずれかの物理的な MAC アドレスを登録する必要があります。物理 MAC アドレスと異なるユニークな MAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。

この操作を繰り返すことにより、複数の制御端末（サーバ）を登録することができます。

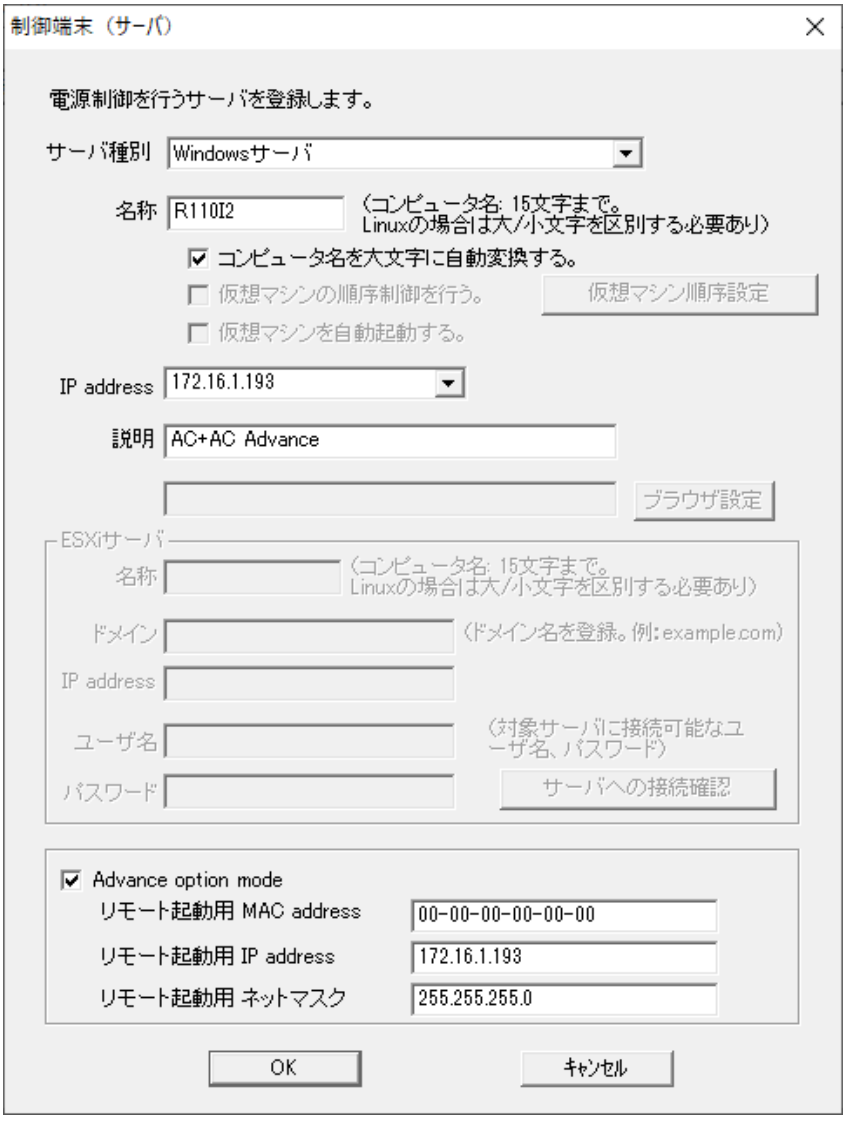


図 4.1-8

次に、ツリー上の「連動端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。

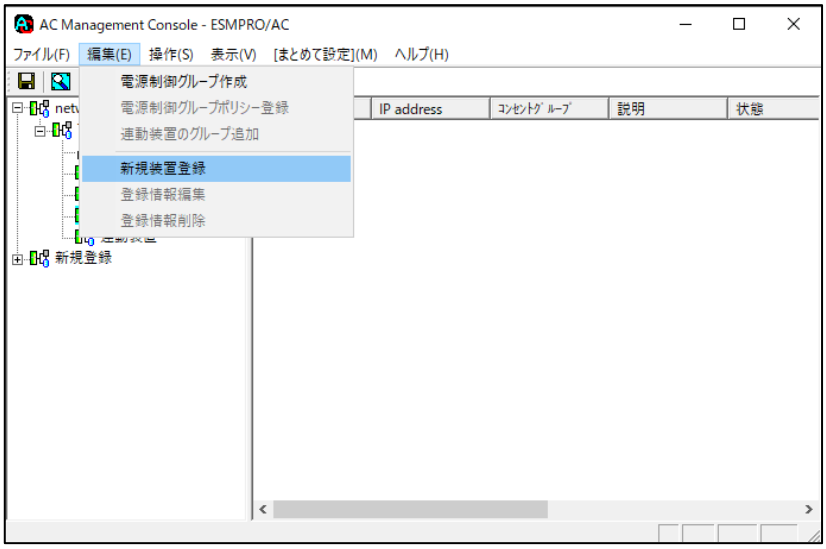


図 4.1-9

「連動端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた連動端末（サーバ）の情報を入力します。

Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。連動端末の MAC address は、連動端末にてコマンドプロンプトから“ipconfig /all” と入力し、出力結果に表示されている物理アドレス（OS により Physical Address と表示されます）を入力します。
リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC アドレスを入力します。

※連動端末（サーバ）の起動は、制御端末から Wake On LAN パケットを受信して行われます。この際、制御端末から連動端末への Wake On LAN パケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。

※AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定による仮想 MAC の設定を行っている場合、いずれかの物理的な MAC アドレスを登録する必要があります。物理 MAC アドレスと異なるユニークな MAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。

この操作を繰り返すことにより、複数の連動端末（サーバ）を登録することができます。

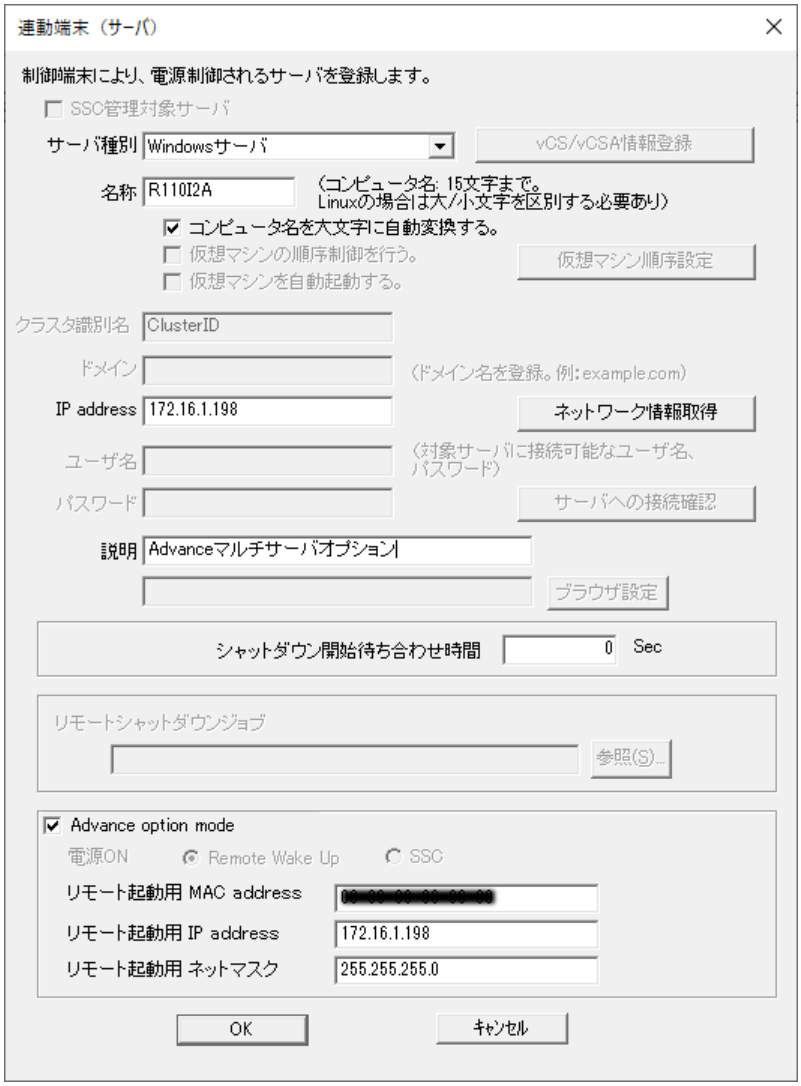

連動端末（サーバ）
制御端末により、電源制御されるサーバを登録します。
SSC管理対象サーバ
サーバ種別
Windowsサーバ
vCS/vCSA情報登録
名称
R110I2A
（コンピュータ名: 15文字まで。
Linuxの場合は大/小文字を区別する必要あり）
コンピュータ名を大文字に自動変換する。
仮想マシンの順序制御を行う。
仮想マシンを自動起動する。
仮想マシン順序設定
クラスタ識別名
ClusterID
ドメイン
（ドメイン名を登録。例:example.com）
IP address
172.16.1.198
ネットワーク情報取得
ユーザ名
（対象サーバに接続可能なユーザ名、
パスワード）
パスワード
サーバへの接続確認
説明
Advanceマルチサーバオプション
ブラウザ設定
シャットダウン開始待ち合わせ時間
0
Sec
リモートシャットダウンジョブ
参照(S)...
Advance option mode
電源ON
Remote Wake Up
SSC
リモート起動用 MAC address
リモート起動用 IP address
172.16.1.198
リモート起動用 ネットマスク
255.255.255.0
OK
キャンセル

図 4.1-10

４.２　マルチサーバ構成の運用例

AMC では、制御端末に ESMPRO/AC Advance がインストールされたサーバ、連動端末に ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた端末を登録します。

（１） 制御端末１台、連動端末１台の場合

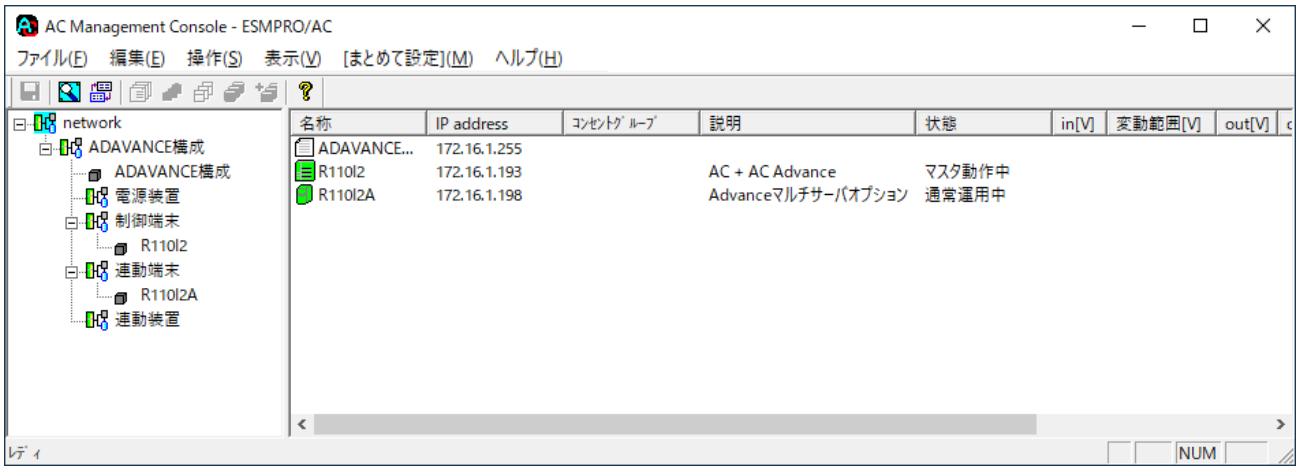


図 4.2-1

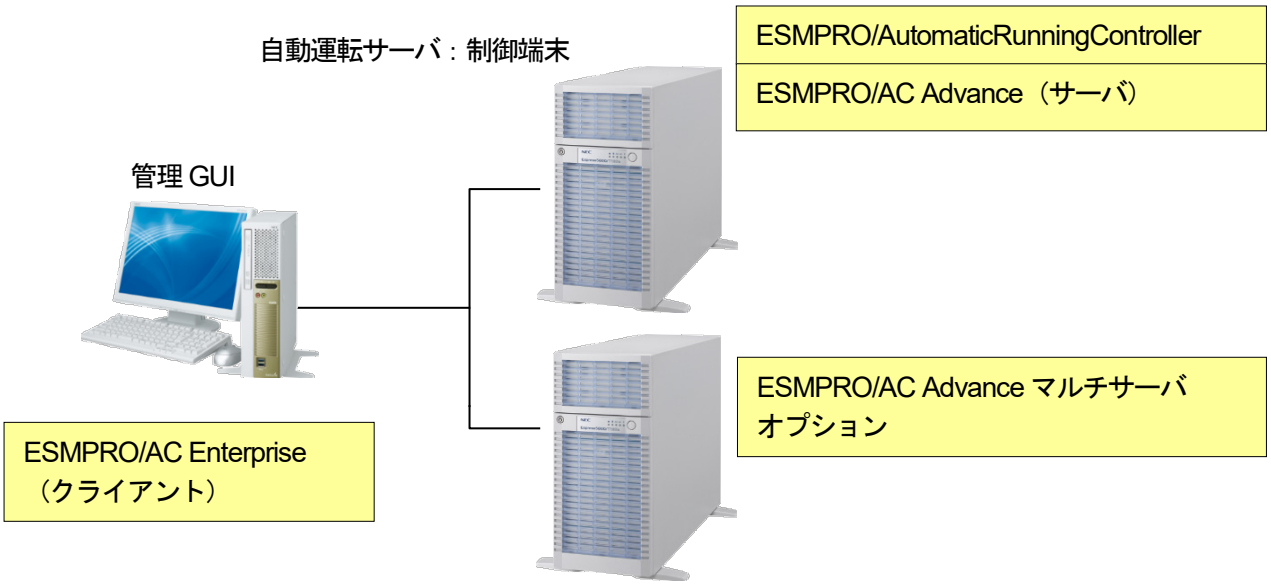
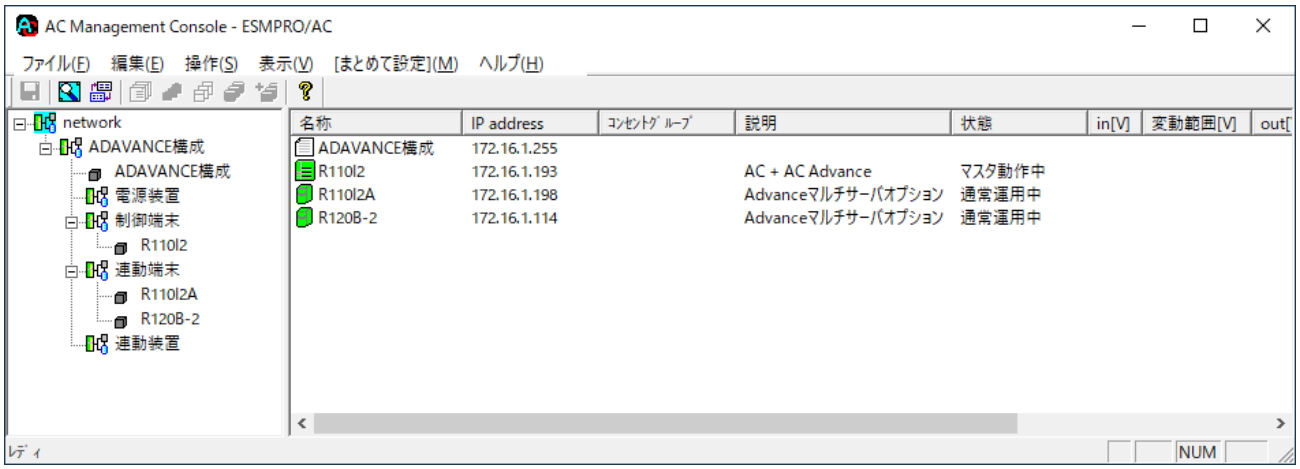


図 4.2-2

（２） 制御端末１台、連動端末２台の場合



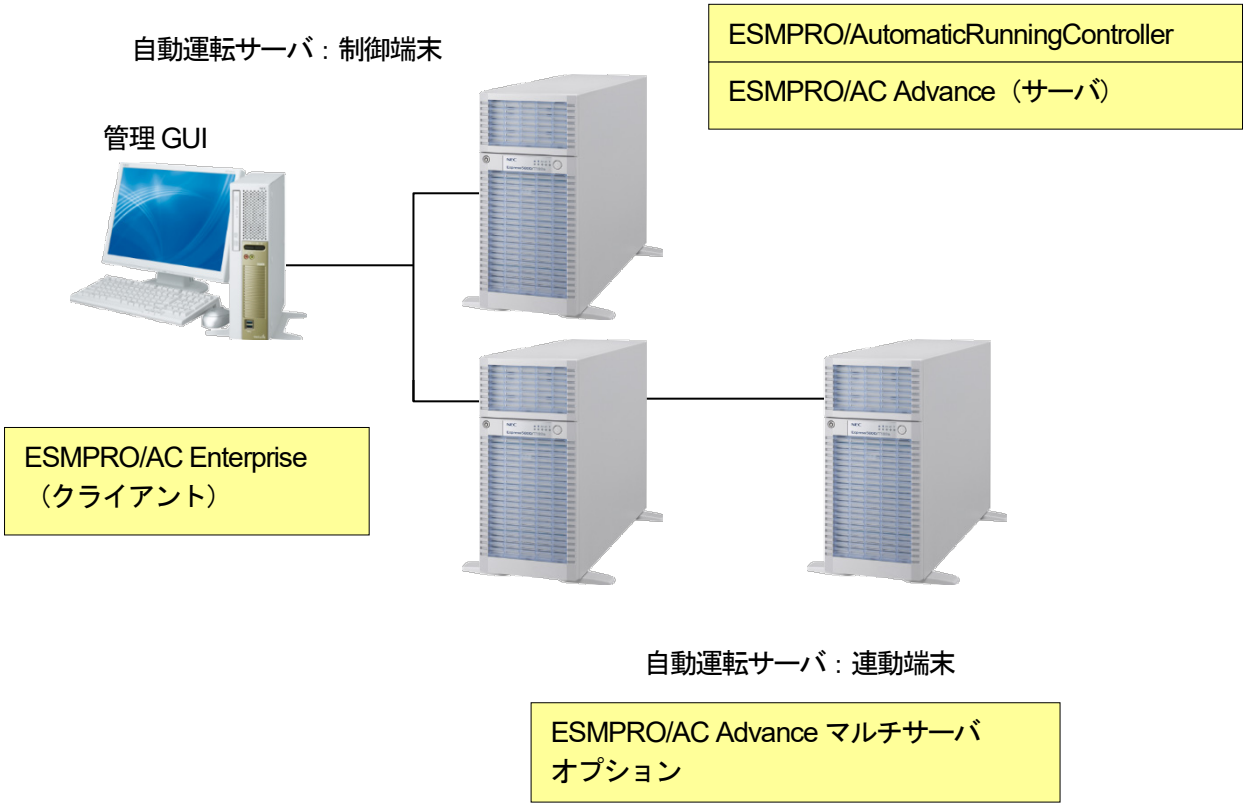


図 4.2-3

（3） 制御端末２台、連動端末２台の場合

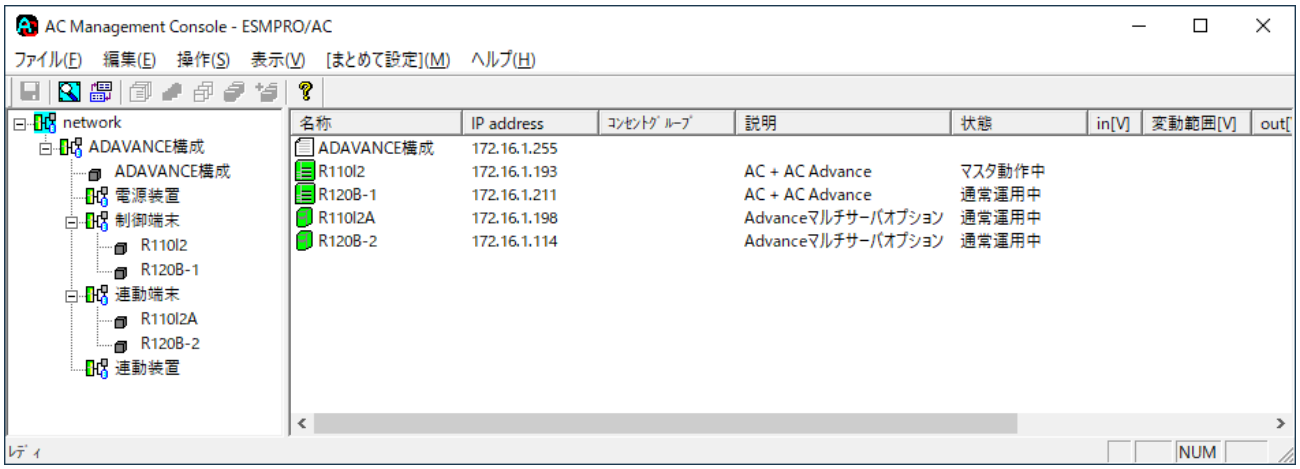


図 4.2-4

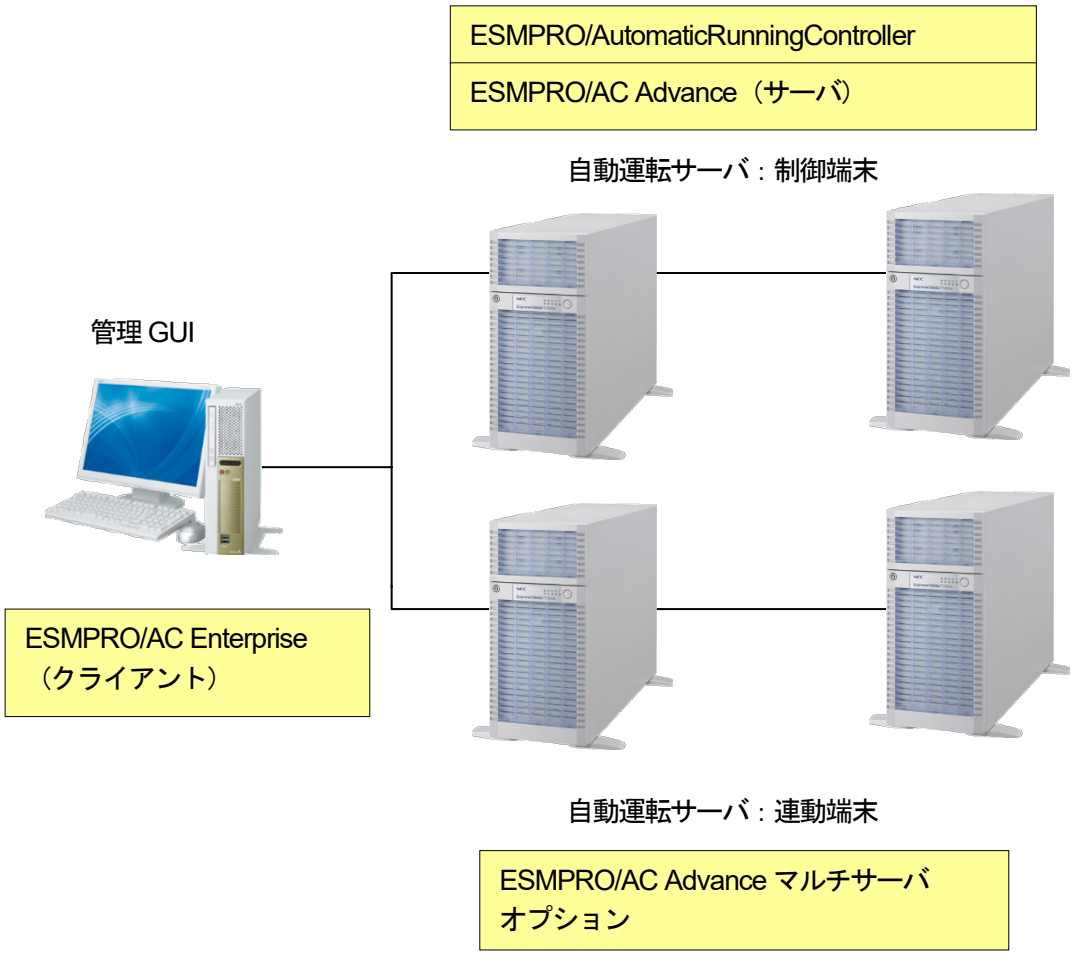


図 4.2-5

第５章　スケジュール運転の設定

５．１　制御端末のスケジュール設定

制御端末のスケジュール登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』の設定を行う必要があります。

以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。
①月曜日から金曜日までは、23時00分 にリブート。
②土日祝は、運用しない。

（１）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動
[スタート] メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC] を起動してください。
起動すると以下のような画面が表示されますので「スケジュール」ボタンを選択してください。

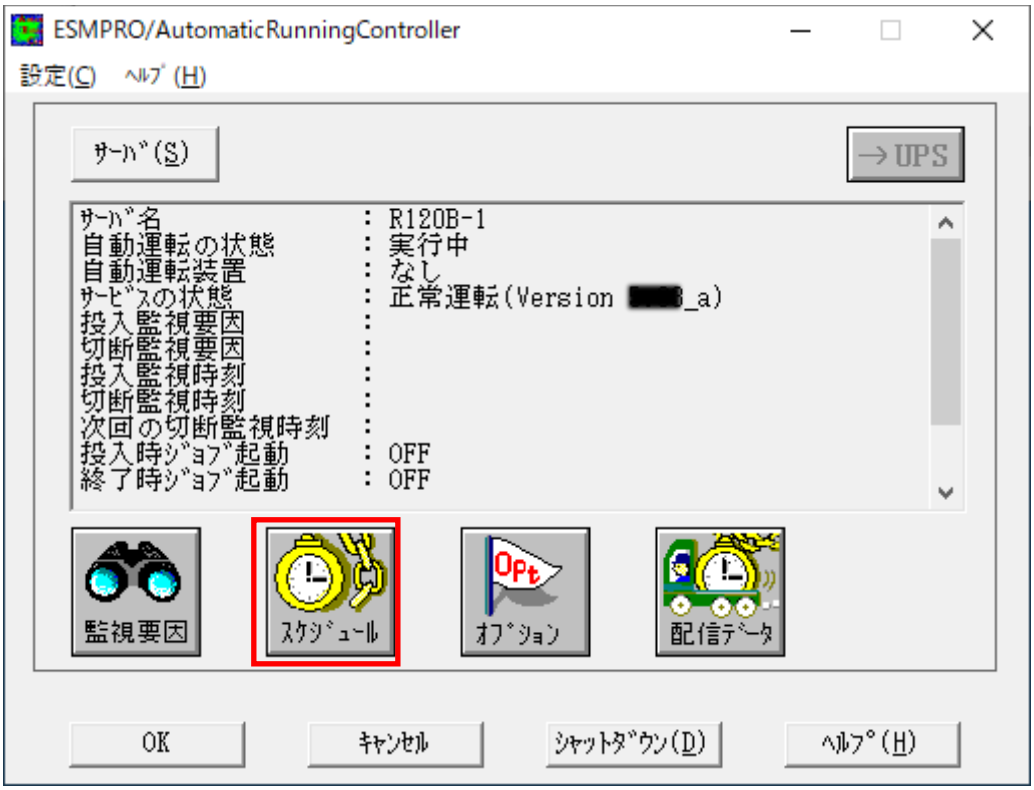
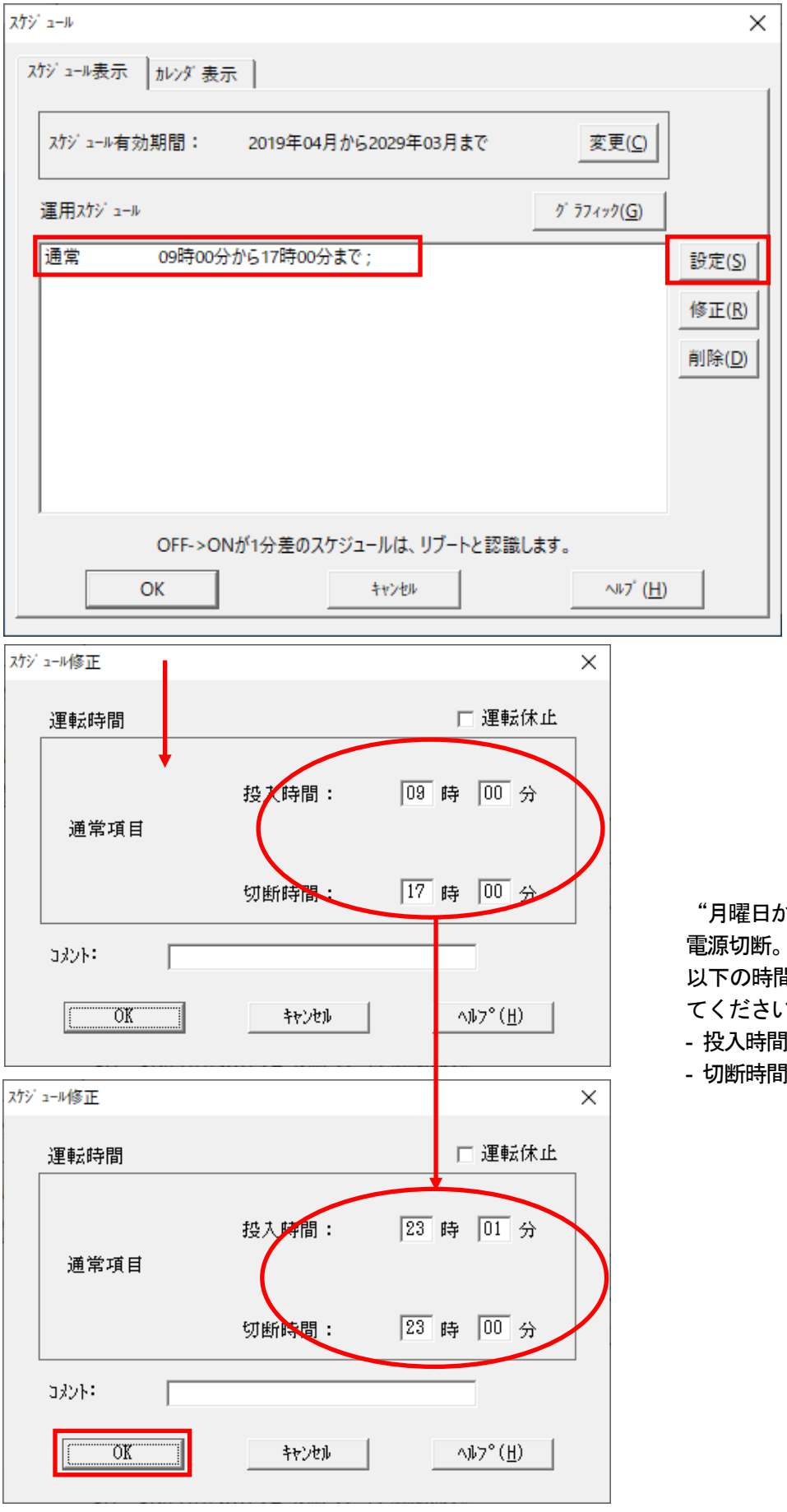


図 5.1-1

（2）　「スケジュール」画面が表示されますので、画面内の
“通常 09時00分から17時00分まで ”（赤枠）を選択し「修正」ボタンを選択してください。



“月曜日から金曜日までは、23 時 00 分 に電源切断。”の設定を行います。
以下の時間に変更し「OK」ボタンを選択してください。
- 投入時間　9 時 00 分 → 23 時 01 分
- 切断時間 17 時 00 分 → 23 時 00 分

図 5.1-2

（３） 「スケジュール」画面に戻りますので、（２）で変更した時間が反映されているか確認を行います。
問題なければ、「設定」ボタンを選択して、“②土日祝は、運用しない。”の設定を行います。

①「設定」画面が表示されましたら「祭日休日指定」タブを選択します。赤枠内すべてのチェックを有効にします。
②次に「曜日指定」タブを選択します。
同じく赤枠内のように、「複数曜日」と「日」、「土」、「運転休止」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択してください。
③「スケジュール」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択してください。
④青枠のようなメッセージ画面が表示されますので、すべて「はい」または「OK」ボタンを選択してください。

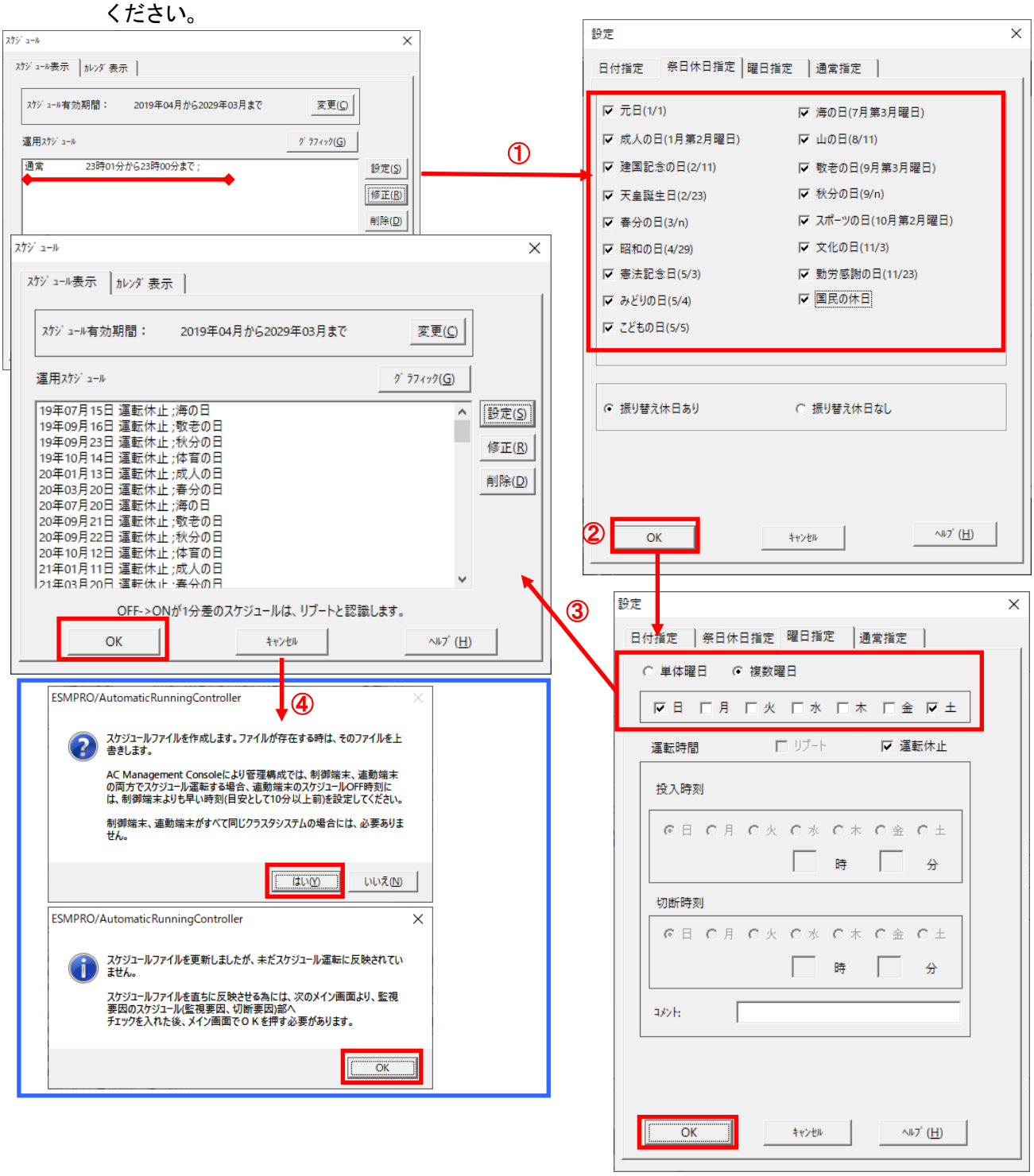


図 5.1-3

（4） 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

① 以下のような画面が表示されましたら、「切断要因」タブ内にある、“基本部”欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。その後「OK」ボタンを選択してください。
② メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

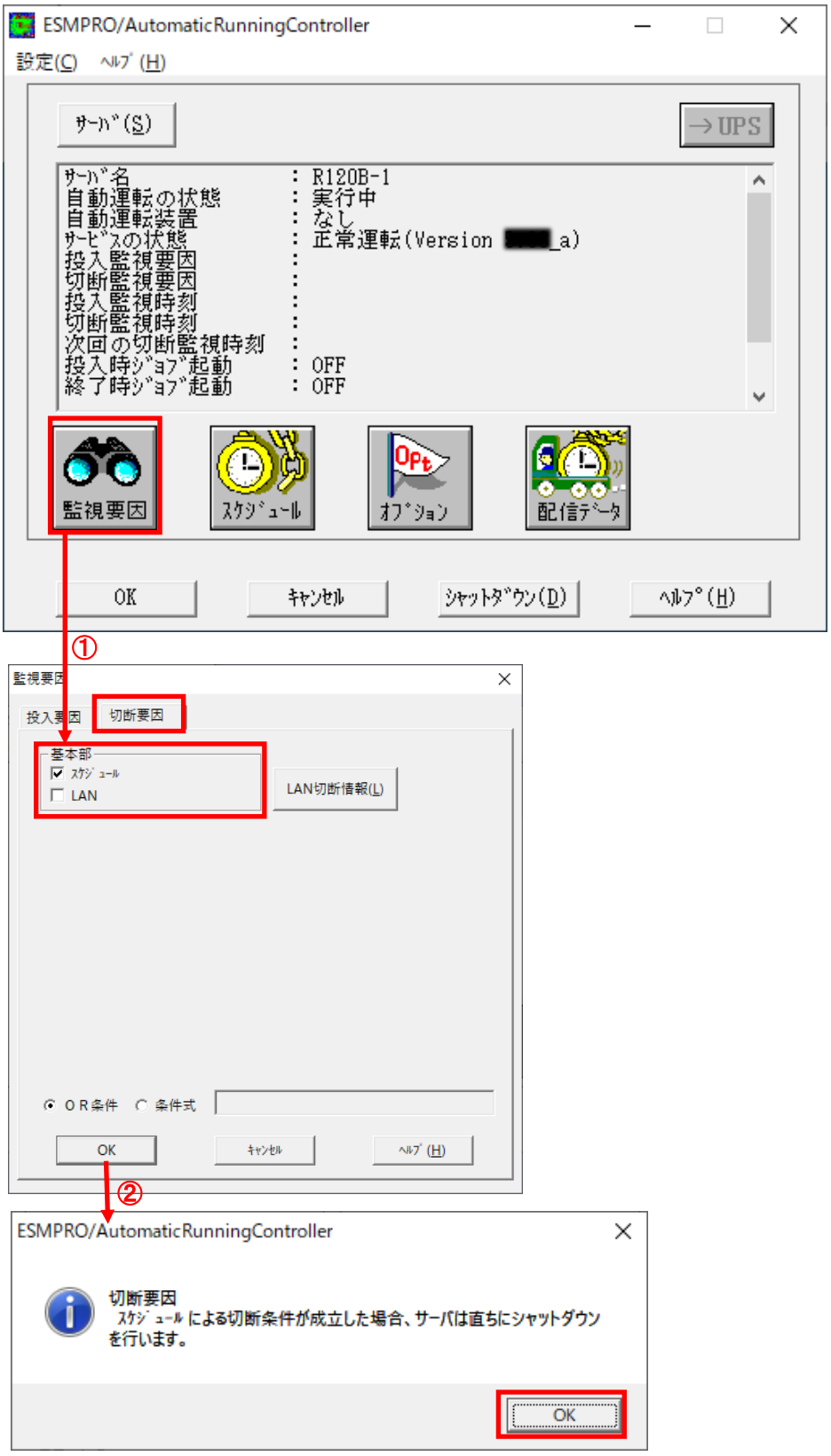


図 5.1-4

（5） 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。

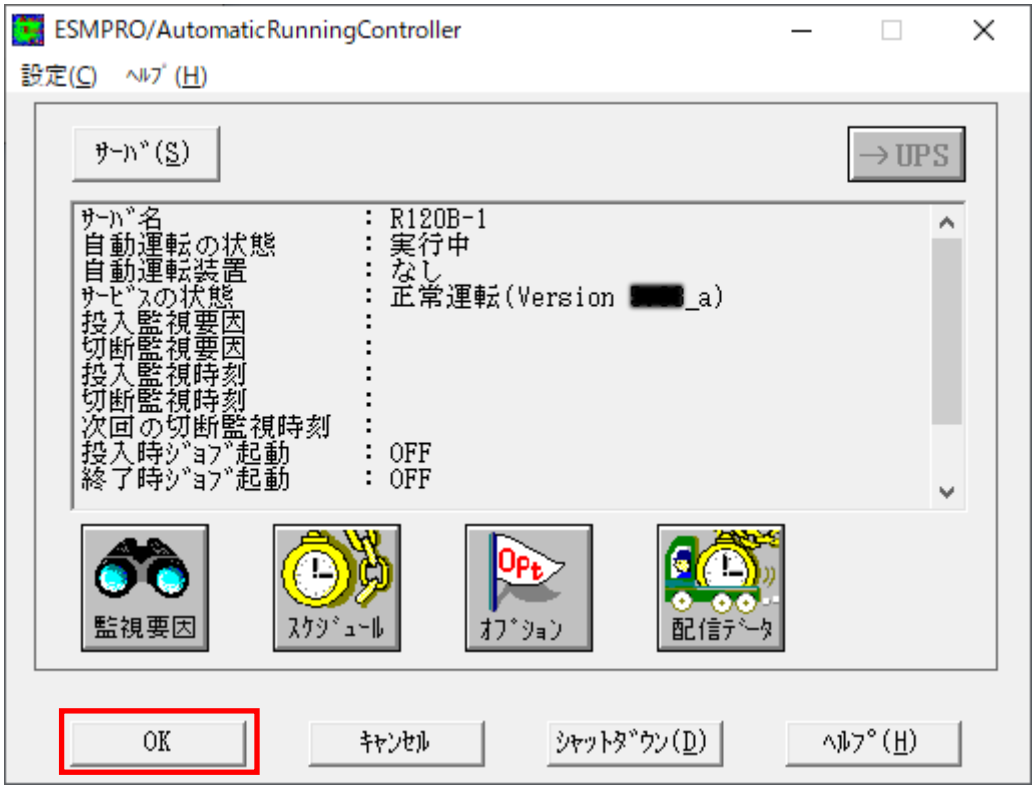


図 5.1-5

以下のようなメッセージ画面が表示されます。
「OK」ボタンを選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。
「キャンセル」ボタンを選択すると、切断監視要因、切断監視時刻、次回の切断監視時刻に、
スケジュール運転情報が表示されます。

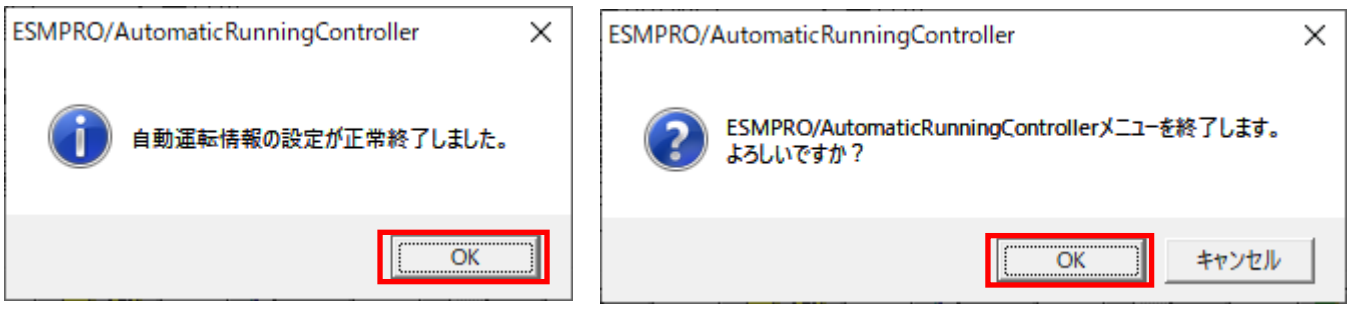


図 5.1-6

（6） 「スケジュール」ボタンを選択し、グラフィック表示やカレンダ表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

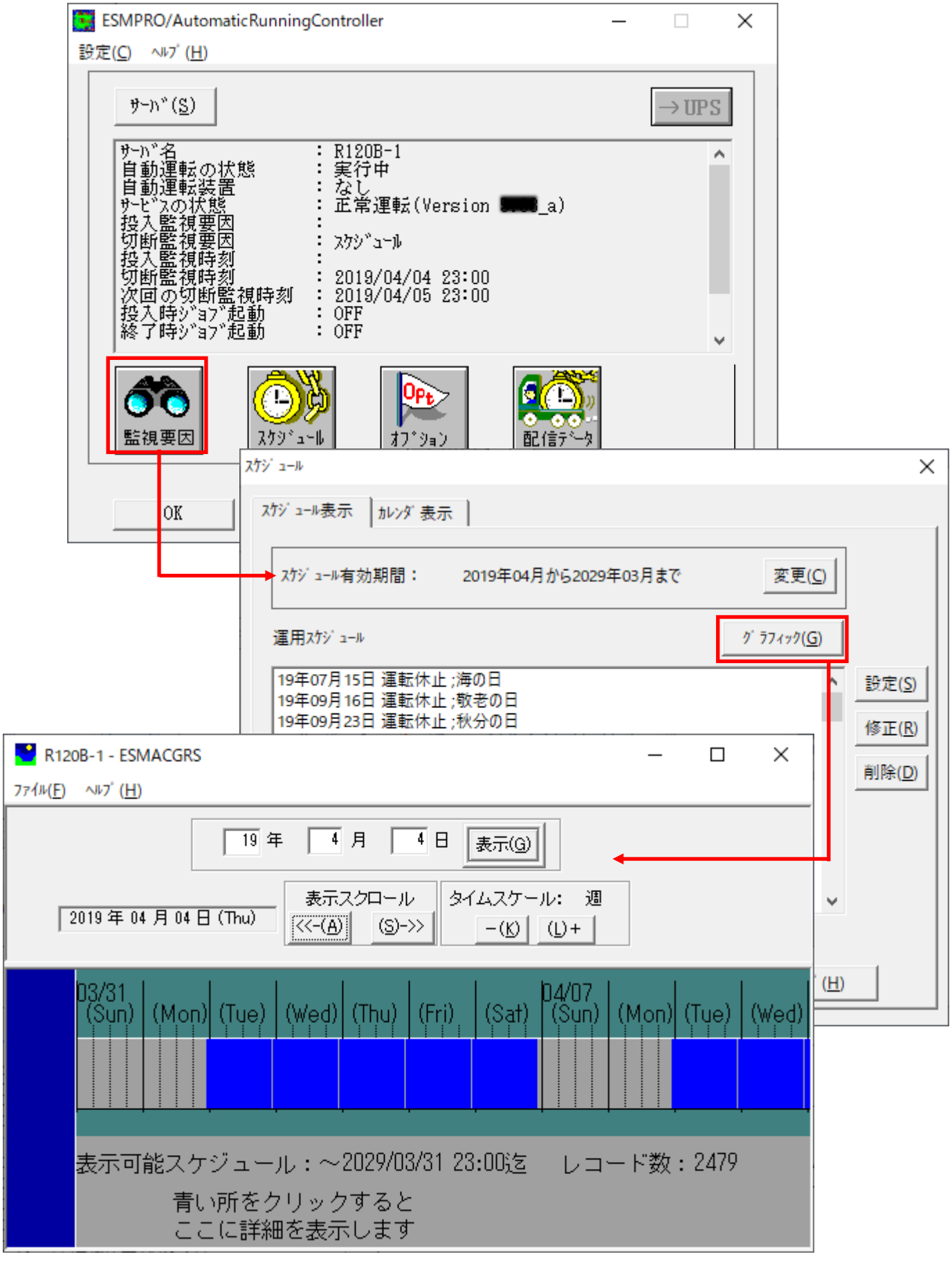


図 5.1-7

５．２　連動端末のスケジュール設定

連動端末でスケジュール運転を行うための手順としては、制御端末上の ESMPRO/AC GUI にて連動端末へ接続し、直接連動端末のスケジュール運転の設定を行う方法と、制御端末上で設定ファイルを作成し、そのファイルを Windows 連動端末へ送信する二種類の方法があります。以下に手順を記載します。

以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。
①月曜日から金曜日までは、8時00分 に電源投入。17時00分 に電源切断。
②土日祝は、運用しない。

５．２．１　Windows 連動端末への直接設定

（１）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動。
[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [AC Management Console] を起動してください。
起動すると以下のような画面が表示されますので、AC Management Consoleのツリー上で設定を行う対象となるサーバ（以下の画面の場合は、連動端末の R120B-1）を選択し、右クリックメニューの［指定サーバの設定］を選択して、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。

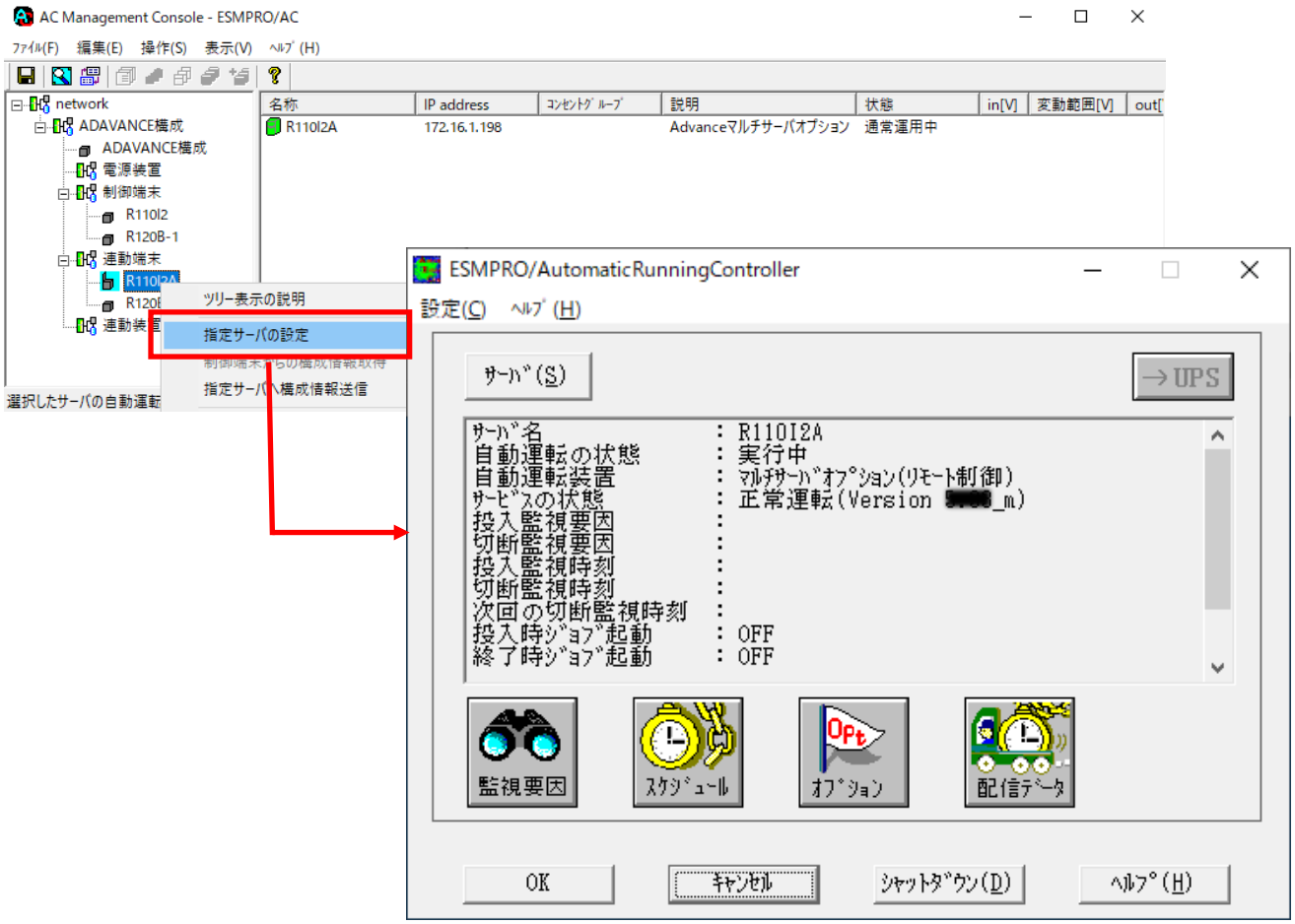


図 5.2-1

（２）　スケジュールの設定は「5.1 制御端末のスケジュール設定（２）（３）」と同様の方法でスケジュール運転の設定を行ってください。

（3） 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

① 以下のような画面が表示されましたら、「切断要因」タブ内にある、“基本部”欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。
その後「OK」ボタンを選択してください。

② メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

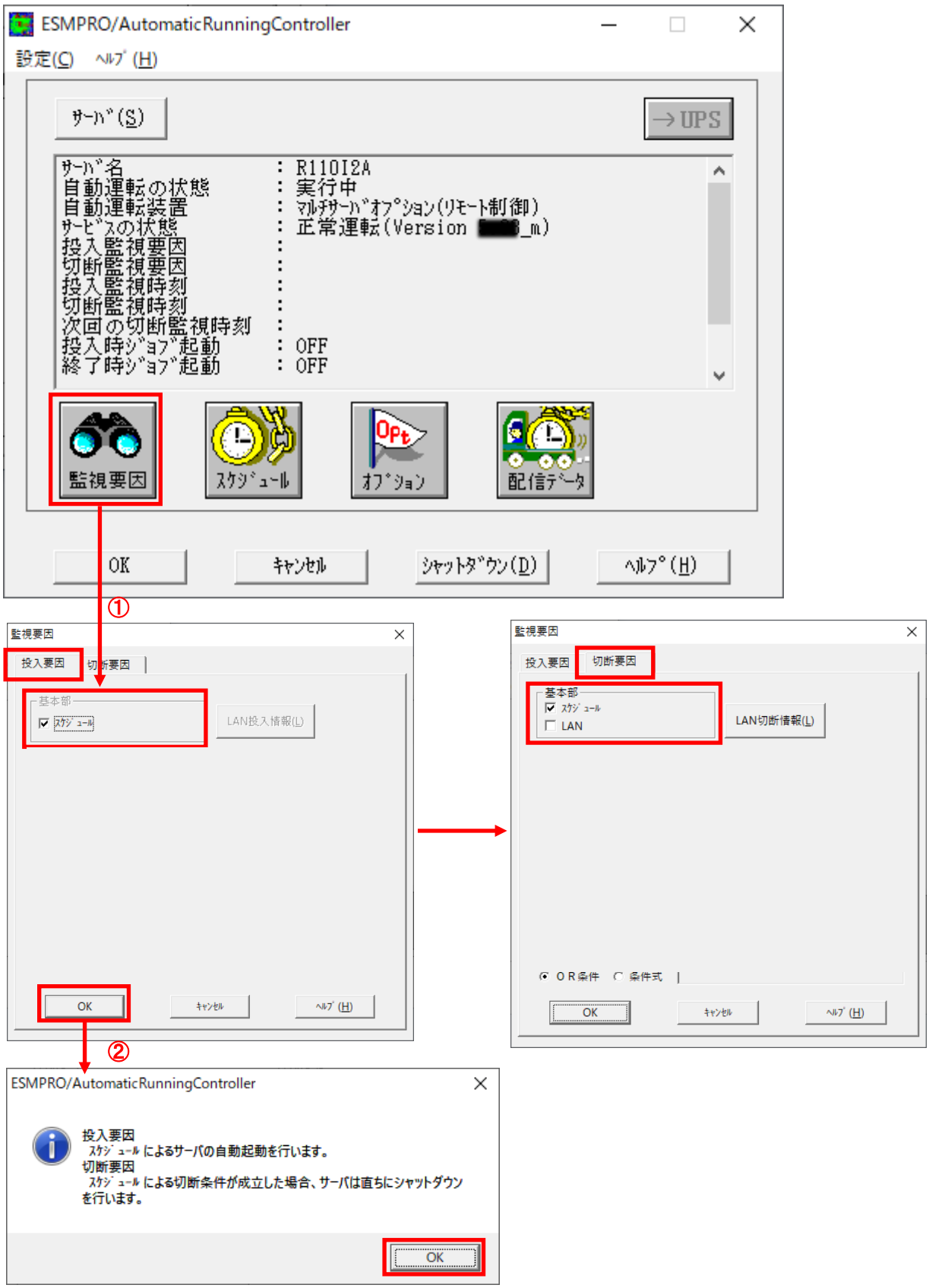


図 5.2-2

（4） 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。

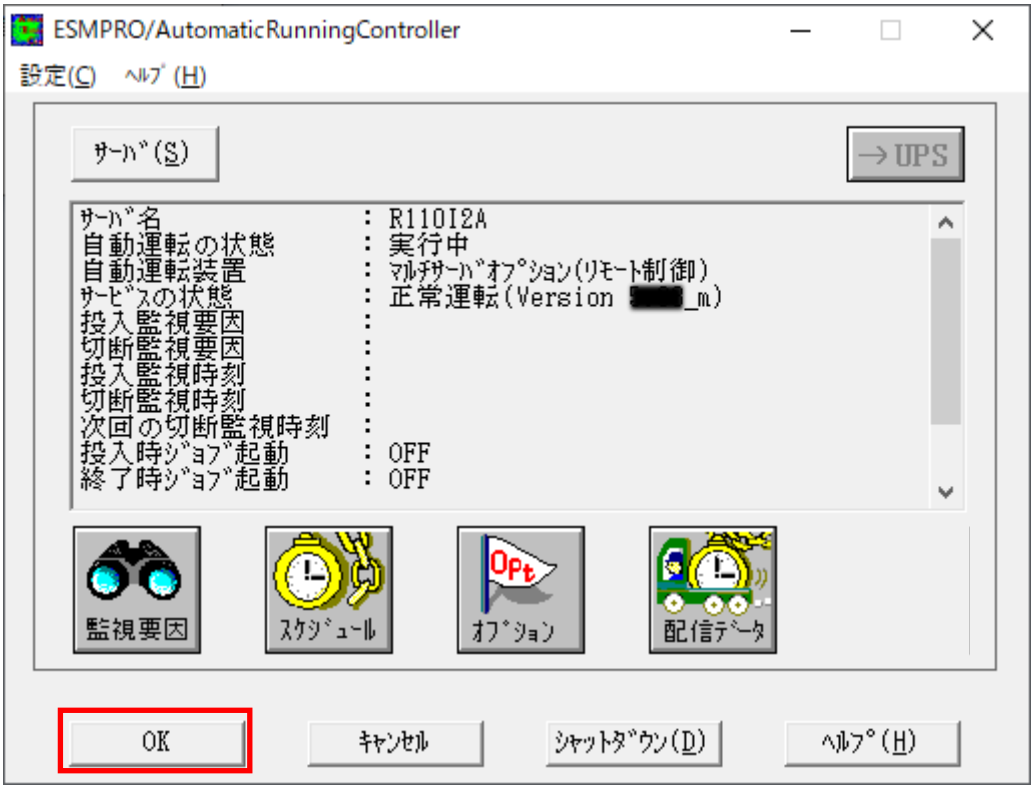


図 5.2-3

以下のような画面が表示されます。
「OK」ボタンを選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。
「キャンセル」ボタンを選択すると、投入監視要因、切断監視要因、投入監視時刻、
切断監視時刻、次回の切断監視時刻に、スケジュール運転情報が表示されます。

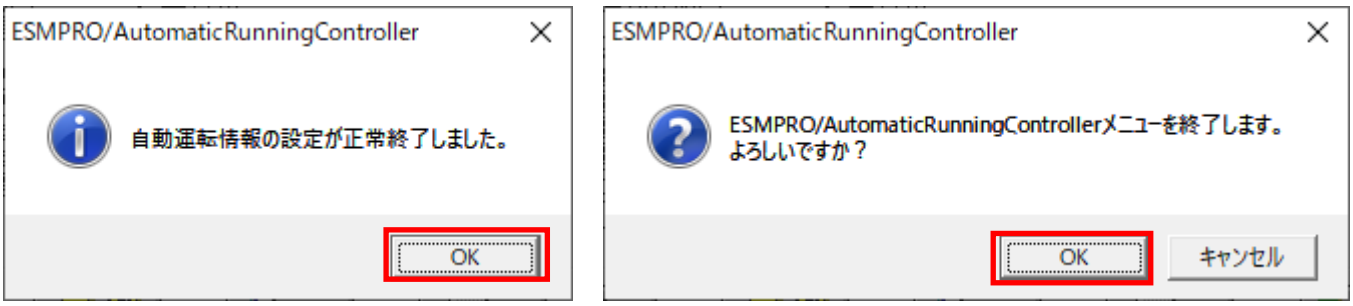


図 5.2-4

（５） 「スケジュール」ボタンを選択し、グラフィック表示やカレンダ表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

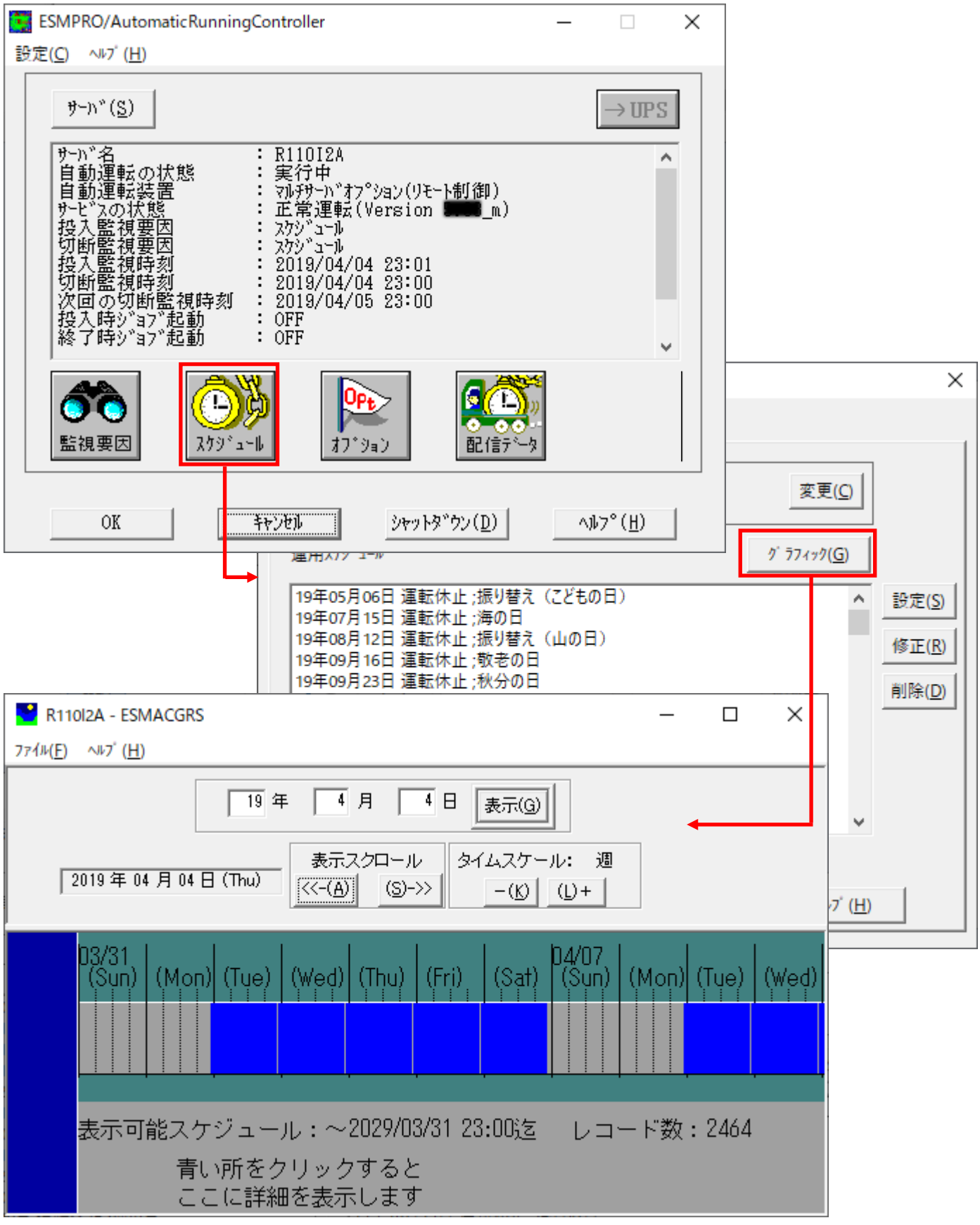


図 5.2-5

５.２.２ Windows 連動端末へ設定ファイルを送信

注意

本節に記載している設定ファイルの送信方法は、ESMPRO/AC Enterprise クライアントを用いた送信方法になります。
ESMPRO/AC Enterprise クライアントのインストール・アンインストール方法は、ESMPRO/AC Enterprise のセットアップカードを参照してください。

(１) ［マルチサーバ構成データ編集］の起動
[スタート] メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AC_E Client] → [マルチサーバ構成データ編集］を起動してください。

(２) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI の起動
[マルチサーバ構成データ編集] → [ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動] を選択して、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。

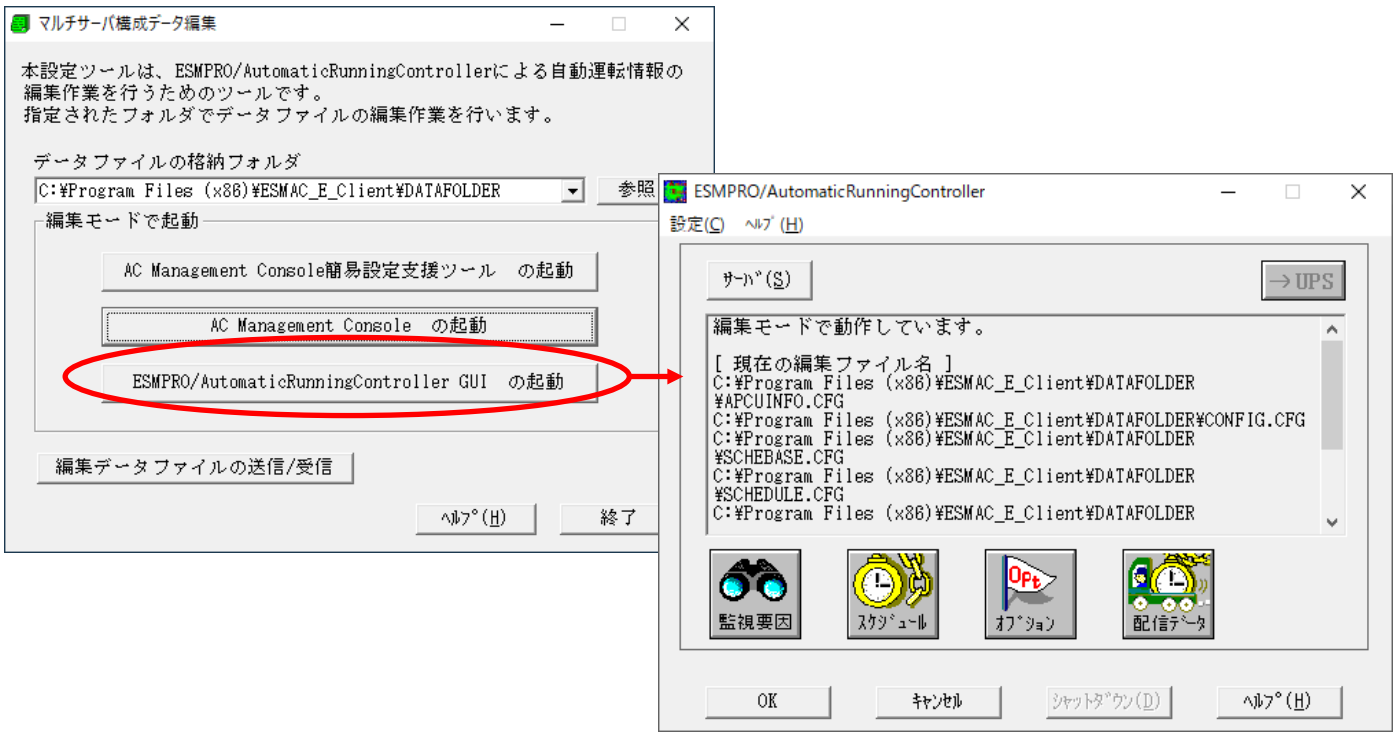


図 5.2-6

(３) スケジュールの設定/監視要因の設定の反映
「５.１ 制御端末のスケジュール設定（２）（３）0（５）」と同様の方法でスケジュール運転の設定を行ってください。Windows連動端末側のESMPRO/ARCサービス（ESMPRO/ARC Service）の再起動は不要です。

(4) Windows連動端末へ設定ファイルを送信

設定ファイルの更新が完了したら、以下の操作で設定ファイルをWindows連動端末へ送信することが可能です。

① データファイルの格納フォルダを指定し、「編集データファイルの送信／受信」を選択してください。
格納フォルダは、サーバ単位／グループ単位など、再度編集する際に管理しやすいよう任意に作成してください。

② ［Windowsサーバ］を選択し、「OK」ボタンを選択してください。
③ ［データファイルの送信］を選択し、必要なファイルのチェックを有効にして、
「ファイル転送 → Windowsサーバ」ボタンを選択してください。

④ 操作の実行確認で「はい」を選択してください。
⑤ ［サーバ名］に設定ファイルを送信したいサーバのコンピュータ名を入力し、「OK」ボタンを選択してください。

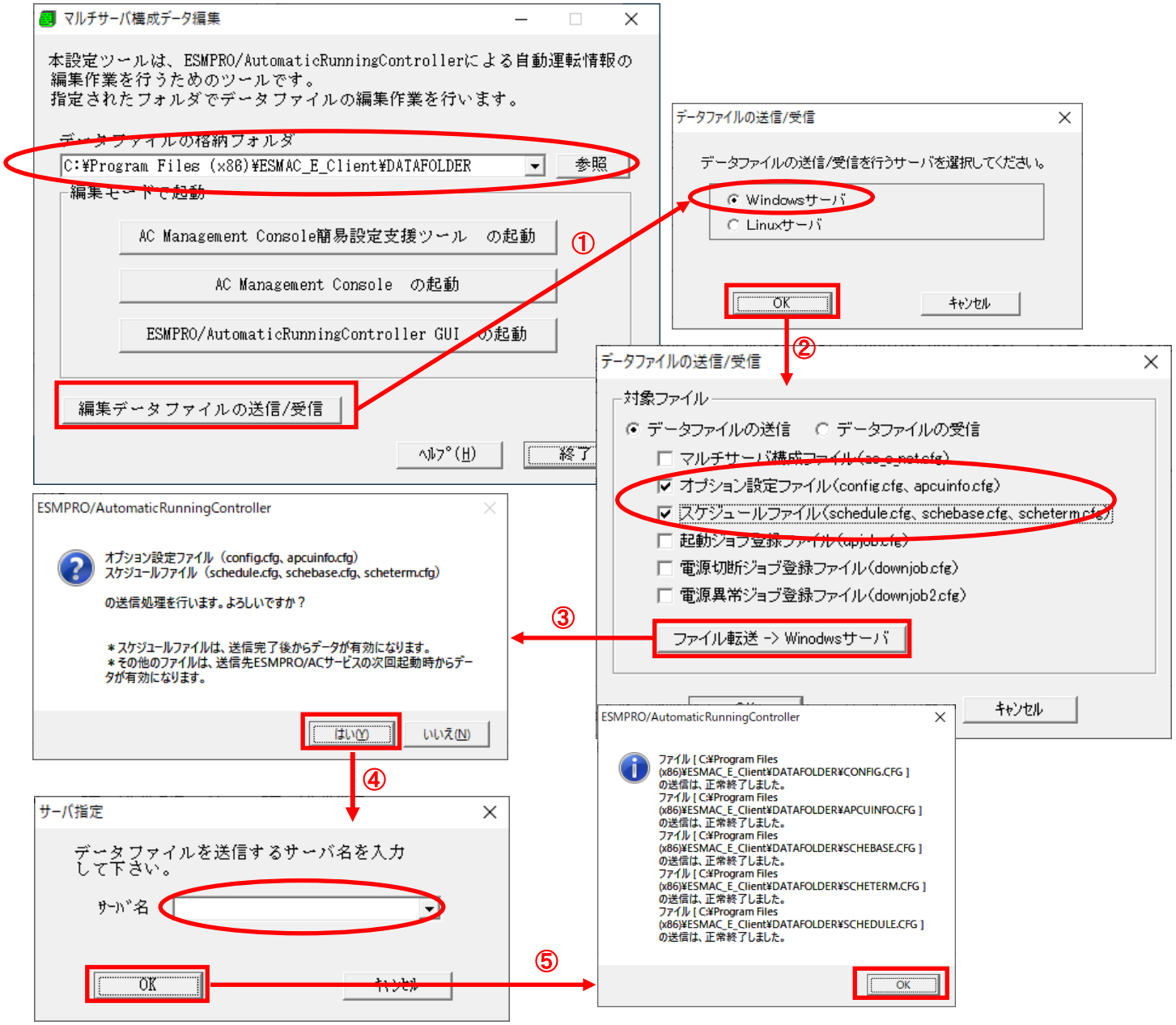


図 5.2-7

(5) サービスの再起動

連動端末の OS のサービス画面から ESMPRO/ARC サービス（ESMPRO/ARC Service）を再起動してください。

(6) Windows連動端末へ送信した設定ファイルの確認方法

「５.２.１Windows連動端末への直接設定（１）」の手順どおり連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動し、「スケジュール」ボタンを押して設定内容が正しく反映されているかをご確認ください。

<参考>

サーバから設定ファイルのコピー

すでに制御端末または Windows 連動端末のスケジュール運転の設定を行っている場合、以下の操作で設定ファイルを受信し、Windows 連動端末への設定のベースとして利用することが可能です。

① データファイルの格納フォルダを指定し、「編集データファイルの送信／受信」を選択してください。
② ［Windows サーバ］を選択し、「OK」ボタンを選択してください。
③ ［データファイルの受信］を選択し、必要なファイルのチェックを有効にして、「Windows サーバ → ファイル受信」ボタンを選択してください。
④ 操作の実行確認で「はい」選択してください。
⑤ ［サーバ名］にスケジュール運転の設定を行ったサーバのコンピュータ名を入力し、「OK」ボタンを選択してください。

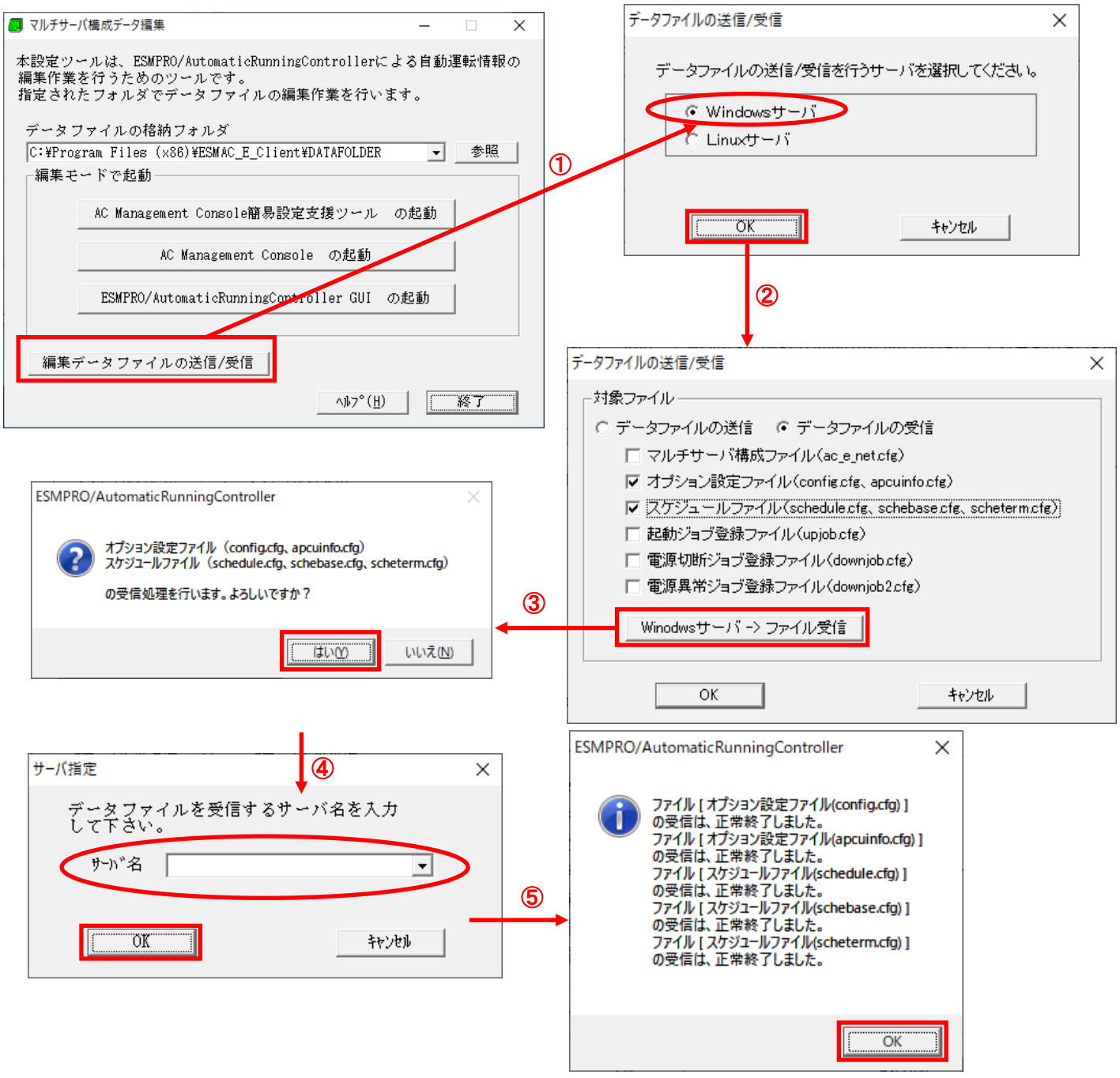


図 5.2-8

５．３　スケジュール一括設定

AC Management Console に登録されたサーバにスケジュール情報を一括で設定する機能です。
スケジュール一括設定は ESMPRO/AC GUI で配信用のスケジュールを作成し、AC Management Console の機能でスケジュール情報を転送します。

注意：
- 「マスタ動作中」の制御端末の AC Management Console からスケジュール一括設定を実施できます。
- ESMPRO/AC Enterprise クライアント版の AC Management Console からはスケジュール一括設定は実施できません。
- スケジュール情報の一括設定時は送信対象の端末が AC Management Console でサーバの状態が「マスタ動作中」、「通常運用中」または「通常運用中(クラスタ)」である必要があります。
- 連動端末毎にスケジュール情報転送時にアカウント情報の入力が求められることがあります。制御端末とスケジュール一括設定対象の Windows サーバの連動端末でサーバのログインユーザ名とパスワードは同じにしてください。
- 以下のメッセージが時間をおいても繰り返し発生する場合、ESMPRO/AC のインストールフォルダの DATA フォルダ配下にある SCHEDULE_CtlON.APCf ファイルを削除してから再度スケジュール一括設定を実行してください。

図 5.3-1

５．３．１　　配信用のスケジュール作成方法

（１）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動

[スタート] メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [AC Management Console]を起動してください。起動すると以下のような画面が表示されますので、AC Management Consoleのツリー上で適用なサーバを選択し、右クリックメニューの［指定サーバの設定］を選択して、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。

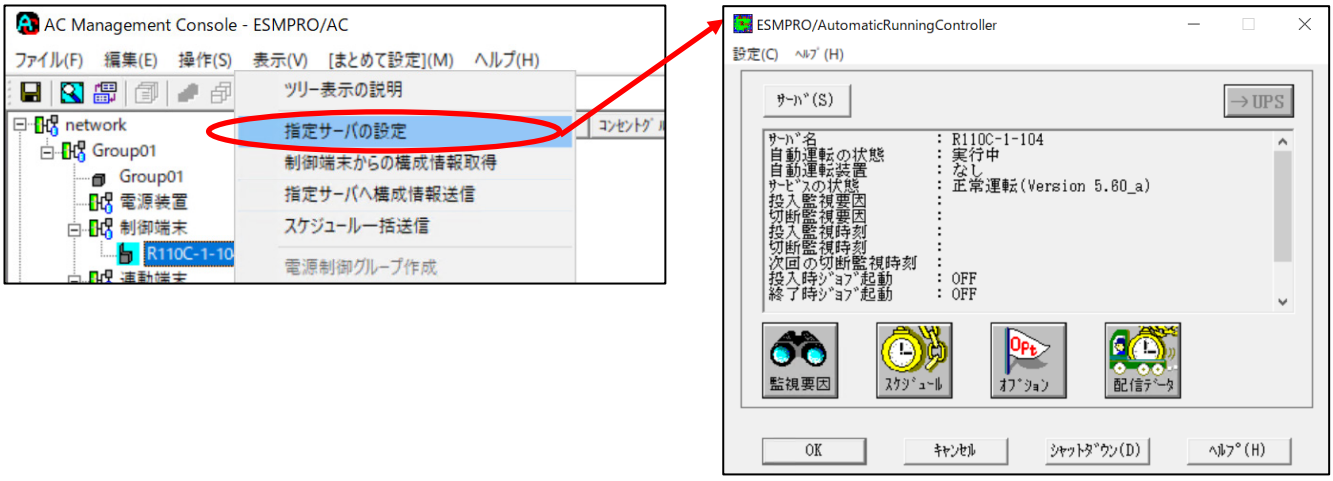


図 5.3-2

（２）　配信用スケジュール作成画面表示

「配信データ」ボタンを押下すると、配信データの画面が表示されるので「配信スケジュール編集」ボタンを押してください。

図 5.3-3

（３）　配信用スケジュール読込フォルダ指定

読込用のフォルダを指定します。

画面表示したタイミングでは C:¥Windows¥system32 のパスが入力された状態となります。画面中段に現在のパスのフォルダが表示されるので移動したいフォルダを選択指定してください。ドライブを移動したい場合は画面下段のドライブより選択してください。

ここでは **C:¥Program Files (x86)¥AUTORC¥DATA¥BAKDATA** に保存している配信用スケジュールファイルを読み込みます。

新規に配信用スケジュールを作成する場合は任意のフォルダを指定してください。

(保存時に再度保存するフォルダを選択する画面が表示されます。)

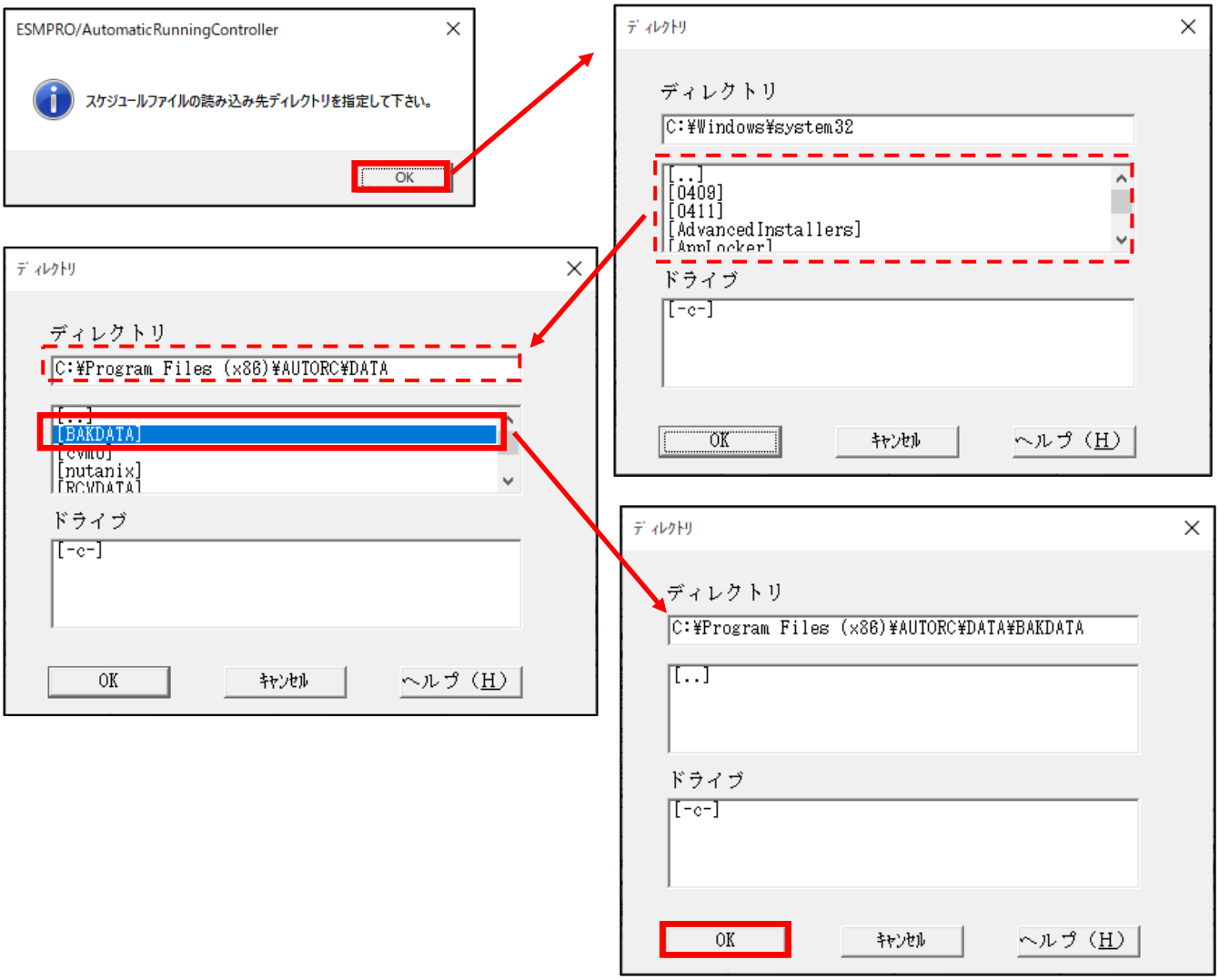


図 5.3-4

（4） 配信用スケジュール作成

以下のスケジュール作成画面が表示されるため、「５.１制御端末のスケジュール設定（２）（３）」と同様の方法でスケジュール運転の設定を行ってください。

図 5.3-5

（５） 配信用スケジュール保存フォルダ指定

「OK」ボタンを押すと以下の画面が表示されるので作成したスケジュール設定を保存するフォルダを指定します。

配信用スケジュールファイルの読込時に指定したパスが設定されている状態となるため、上書き保存する場合はそのまま「OK」ボタンを押してください。

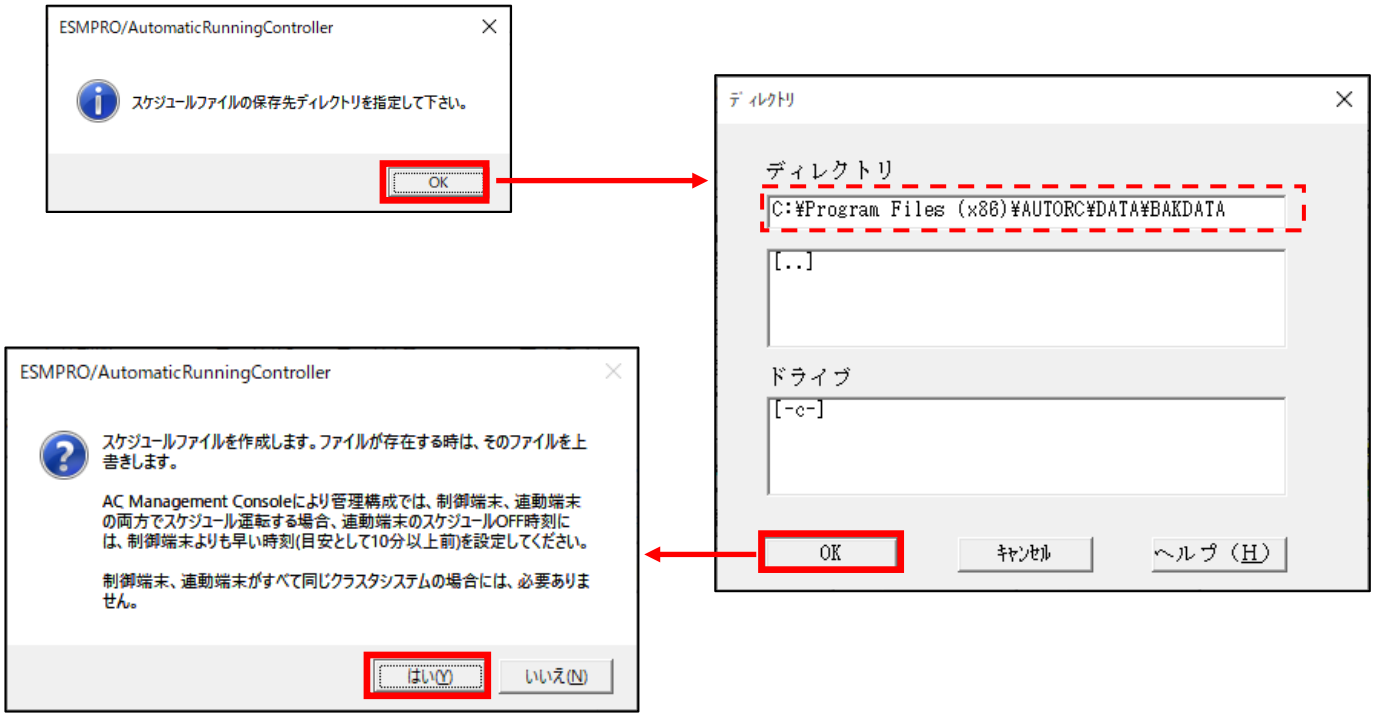


図 5.3-6

５．３．２ スケジュール一括設定方法

（１） AC Management Consoleの起動

[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [AC Management Console] を起動してください。

図 5.3-7

（２） スケジュール一括設定を起動

AC Management Console の右クリックメニューから「スケジュール一括送信」を選択してください。
スケジュール一括送信画面が開き、AC Management Console で右クリック時に選択されていたグループとその配下に登録されているグループのサーバがスケジュール一括設定の対象候補として表示されます。
AC Management Console で右クリック時に選択されていたグループのサーバはデフォルトでチェックが入った状態(スケジュール一括設定の対象)となります。

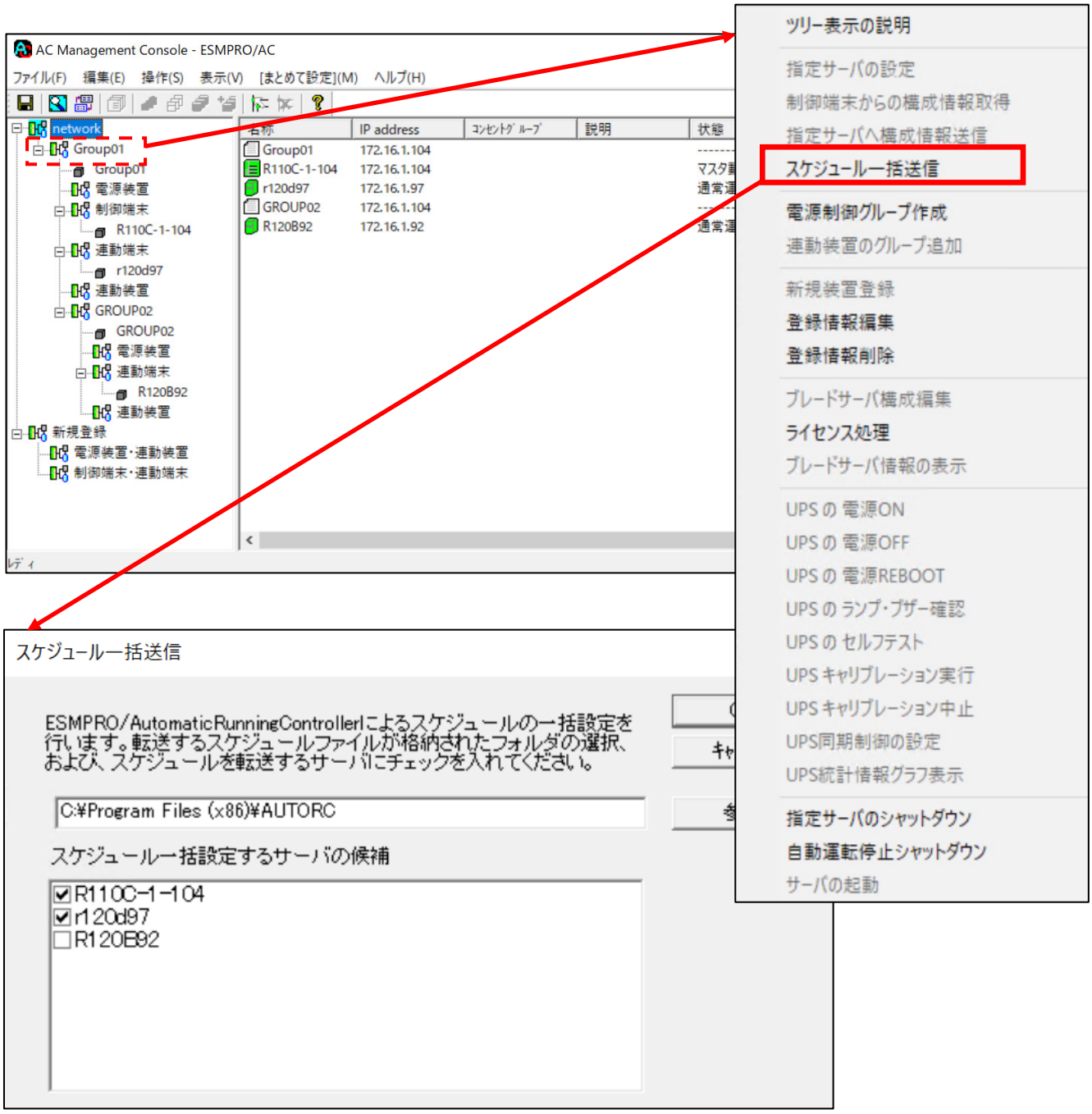


図 5.3-8

（3） 配信用スケジュールが格納されたフォルダ指定

スケジュールを設定するサーバを選択してください。
ひとつ前の節の「（5）配信用スケジュール保存フォルダ指定」で保存したフォルダパス
(例: **C:¥Program Files (x86)¥AUTORC¥DATA¥BAKDATA**)を指定してください。
テキストを直接編集するか、参照ボタンを押してフォルダを選択してください。

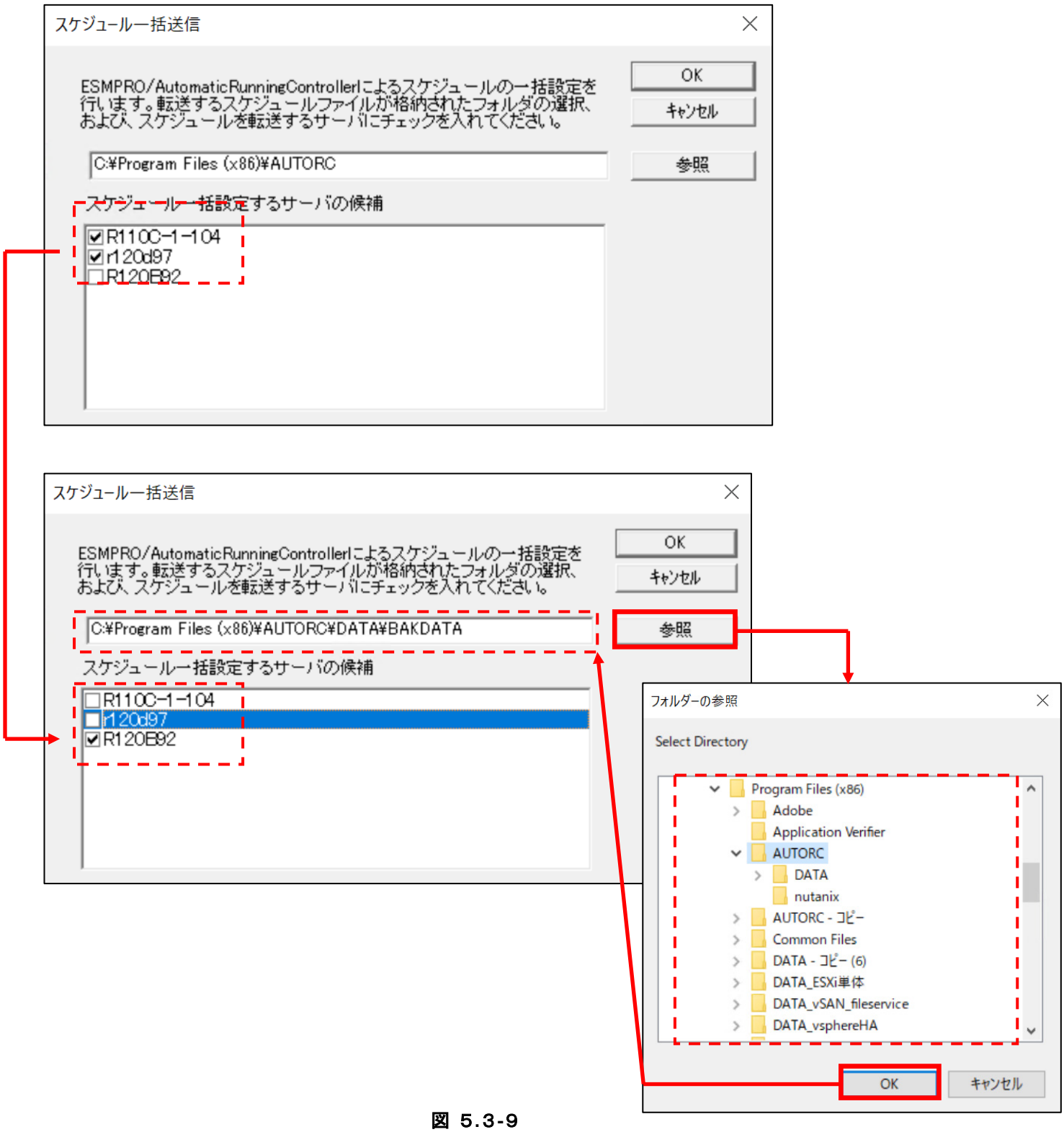


図 5.3-9

（４） スケジュール情報を連動端末に転送

「ＯＫ」ボタンを押下しスケジュール情報を転送します。

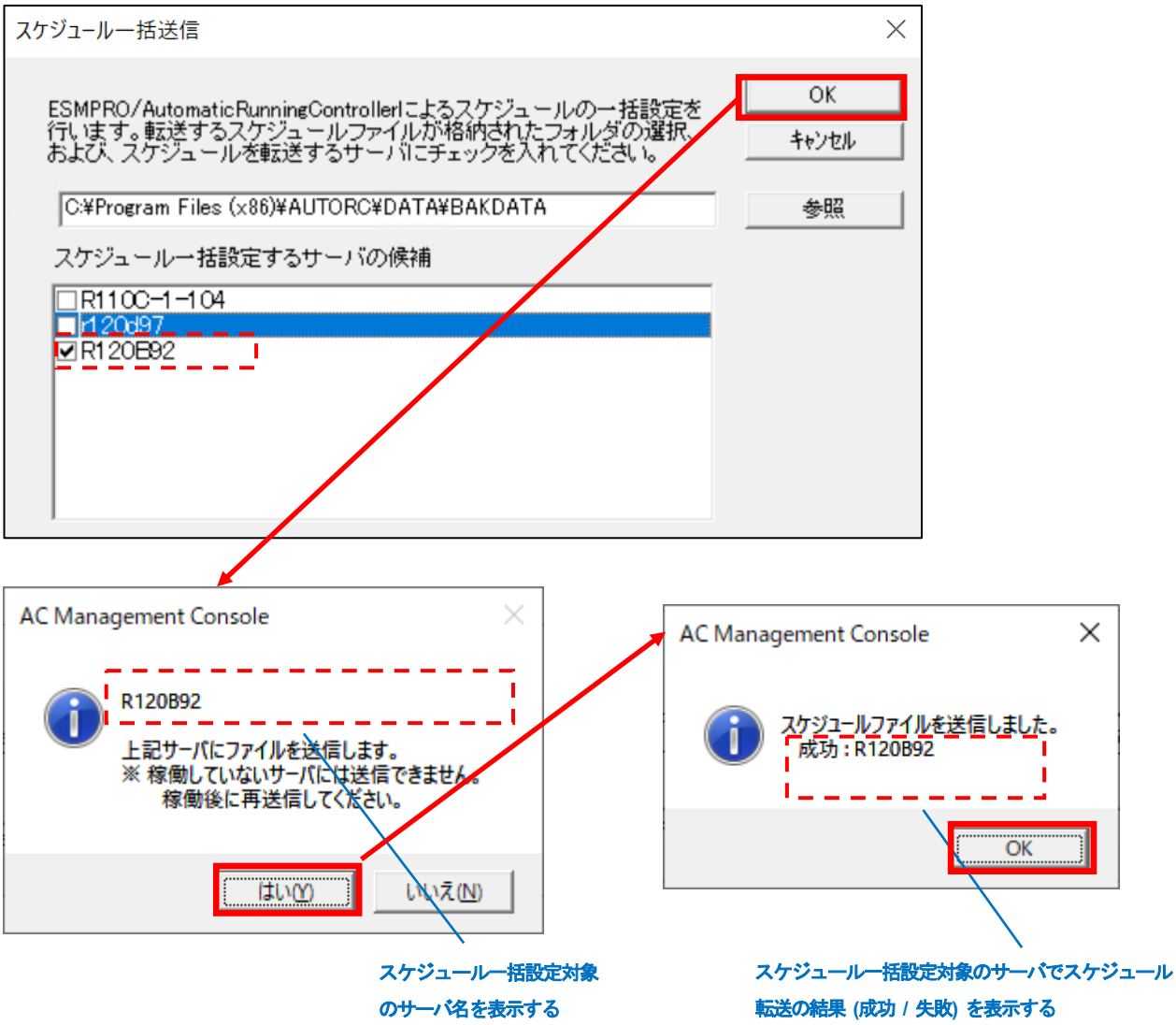


図 5.3-10

転送時にアカウント情報の入力を求められた場合は転送先サーバのアカウント情報を入力してください。

■転送先が Windows の画面表示

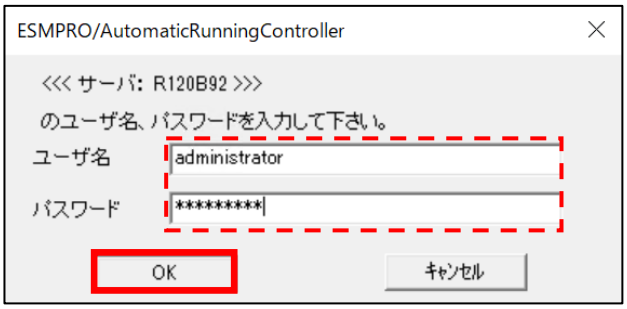


図 5.3-11

■転送先がLinuxサーバの場合の画面表示

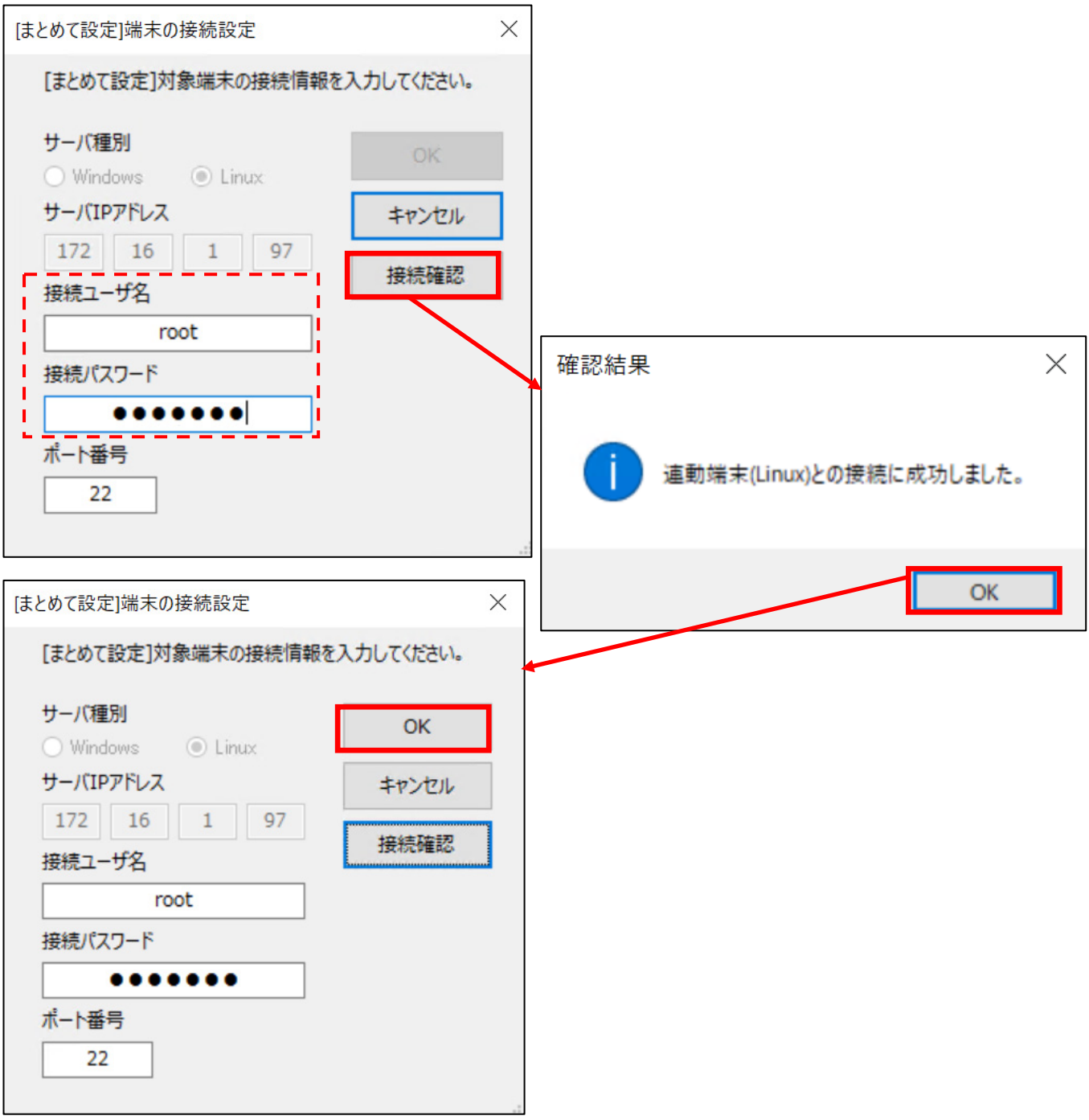


図 5.3-12

５．３．３　　スケジュール有効化

サーバ毎にスケジュールを有効化する必要があります。
「５.１制御端末のスケジュール設定（４）（５）」と同様の方法でスケジュール運転を有効にしてください。連動端末側のESMPRO/ARCサービス（ESMPRO/ARC Service）の再起動は不要です。

本手順を一度でも実施済みの場合は再度設定する必要はありません。スケジュール一括設定で設定したスケジュールに従って自動運転します。

第６章　　ジョブの登録方法

ジョブの登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』の設定を行う必要があります。

注意１

・登録されたジョブは、ESMPRO/ARC Service サービス（SYSTEM ユーザ）により実行されます。

・コマンドプロンプト上で実行した際に Yes / No などの入力を促されるコマンドをジョブとして登録した場合、ジョブが入力待ちの状態となり、正しく実行されないことがあります。あらかじめ入力内容を記載したファイルから読み込ませるなどして、入力待ちの状態にならないように工夫願います。

・ジョブ実行に関するお問い合わせの際、ジョブの内容に関してのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承願います。

ジョブの登録には、以下の３つがあります。
①電源投入時のジョブ登録
②電源切断時のジョブ登録
③電源異常切断時のジョブ登録

なお、ここではジョブの登録方法について説明します。

注意２

製品ライセンス適用が行われていない場合、ジョブ登録に必要な
「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI 」は起動できません。

図　6-1

６．１　制御端末のジョブの設定

制御端末のジョブの登録方法については ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップカードを参照してください。

６．２　連動端末のジョブの設定

連動端末のジョブの登録方法について記載します。

６．２．１　ジョブ登録画面の起動方法

（１）　ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動

[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [AC Management Console]を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので、AC Management Consoleのツリー上で設定を行う対象となるサーバ（以下の画面の場合は、連動端末の R110I2A）を選択し、右クリックメニューの［指定サーバの設定］を選択して、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。

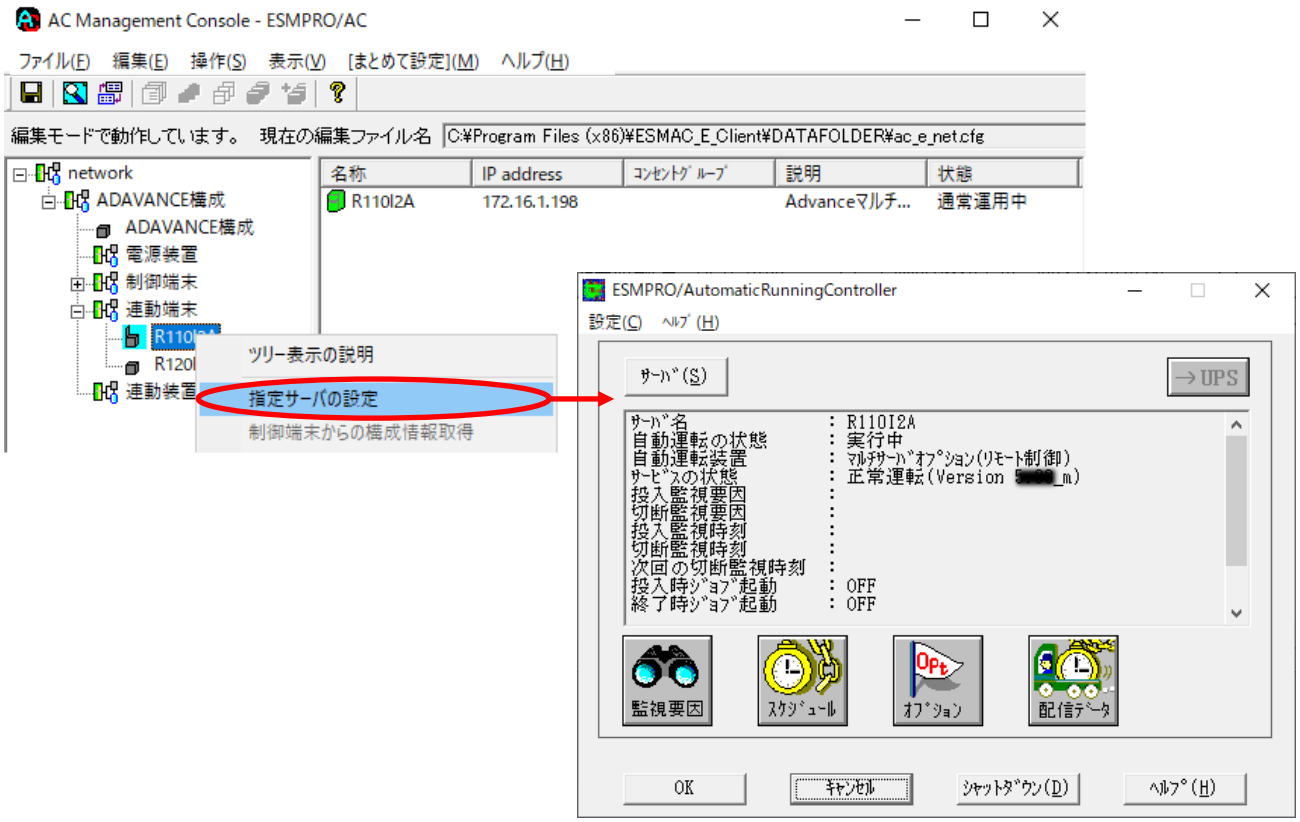


図 6.2-1

（2） 起動すると以下のような画面が表示されますので「オプション」ボタンを押してください。

図 6.2-2

（3） 「ジョブ起動」タブを選択しジョブの登録画面を表示してください。

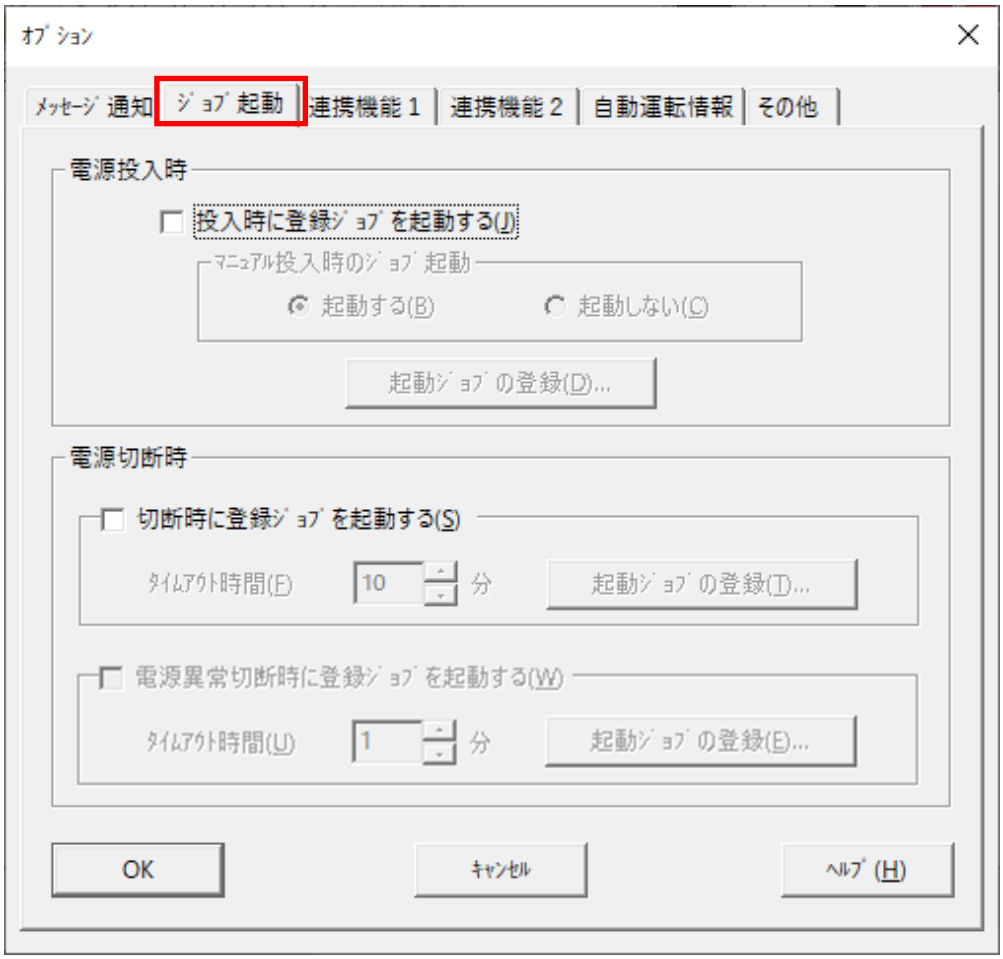


図 6.2-3

６．２．２　電源投入時のジョブ登録方法

投入条件が成立した後、電源を投入した後に、実行するジョブを登録します。

（１）　画面内の「電源投入時」－「電源投入時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(D)」ボタンを押せる状態にします。

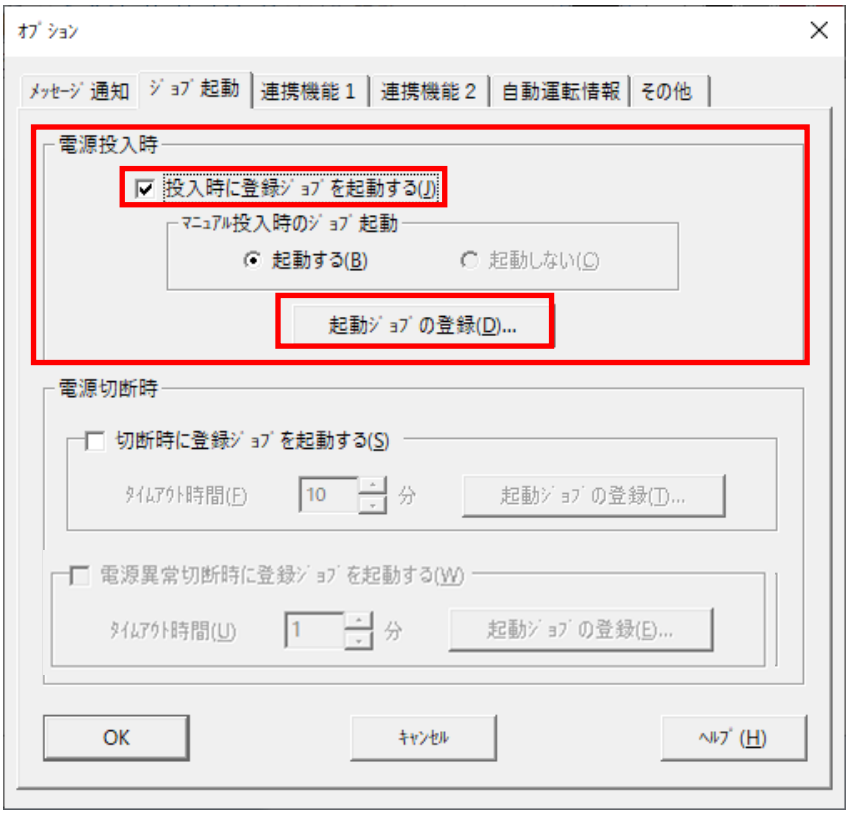


図 6.2-4

（２）　画面内の「電源投入時」－「起動ジョブの登録」ボタンを押して、起動時のジョブ登録画面を表示します。

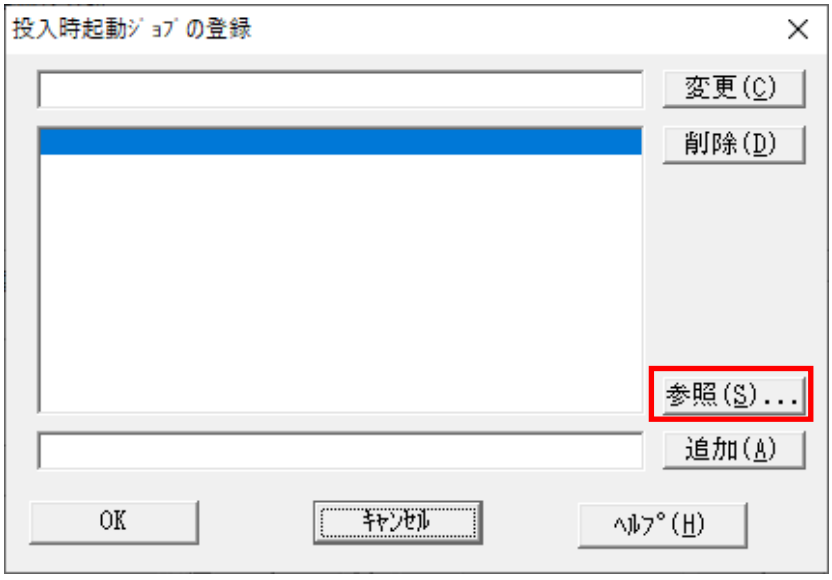


図 6.2-5

※登録時の注意事項

1．ジョブの起動順は、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に起動し、実行されます。ただし、実行は並列で実行されます。

＜ジョブ登録例＞ コマンドリスト

C:¥JOB1.EXE 1
C:¥WORK¥JOB2.EXE
D:¥TEMP¥JOB3.EXE /A /B
D:¥USER1¥BACKUP.EXE

上記登録例の場合、JOB1.EXE → JOB2.EXE → JOB3.EXE → BACKUP.EXE の順番に起動され、並列して実行されます。

2．連動端末にジョブを登録する場合、ジョブは連動端末に格納してください。

3．登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。

4．コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスで、直接入力してください。

5．登録できるジョブ数は、最大９９個です。

6．登録するジョブが複数ある場合は、（4）から（6）の手順を繰り返し実行してください。

（3） 画面下段にあるテキストボックスに直接入力をします。

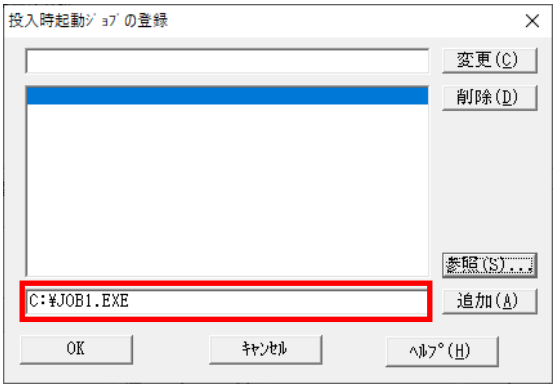


図 6.2-6

※「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示した場合、この時表示されるのは制御端末(ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が動作しているサーバ)のフォルダやファイルとなります。そのため、登録するジョブのコマンド名は手入力にて、連動端末に格納したジョブのドライブ名を含めたフルパスで指定してください。

（4） 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンドパラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例）コマンドパラメータとして１を入力した場合

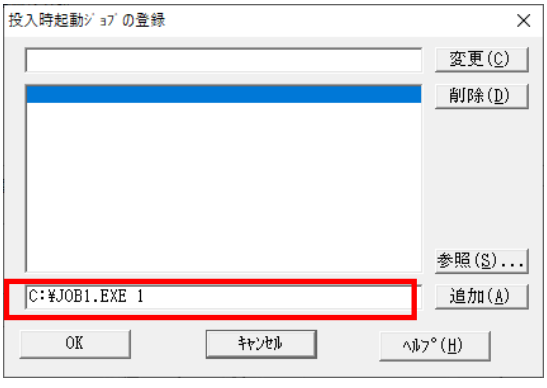


図 6.2-7

（５）　「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

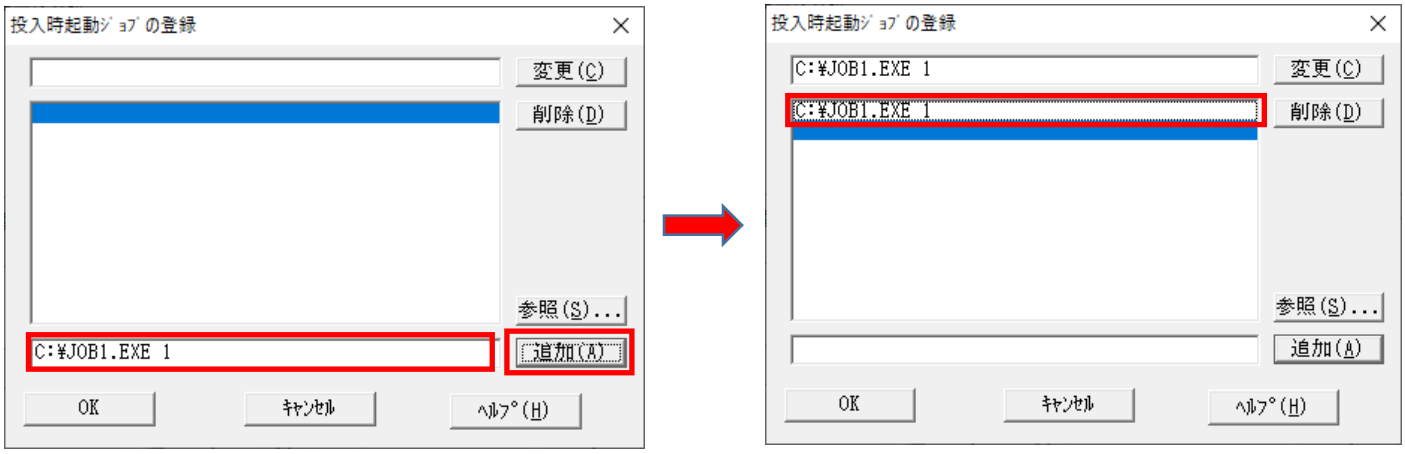


図 6.2-8

（６）　登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

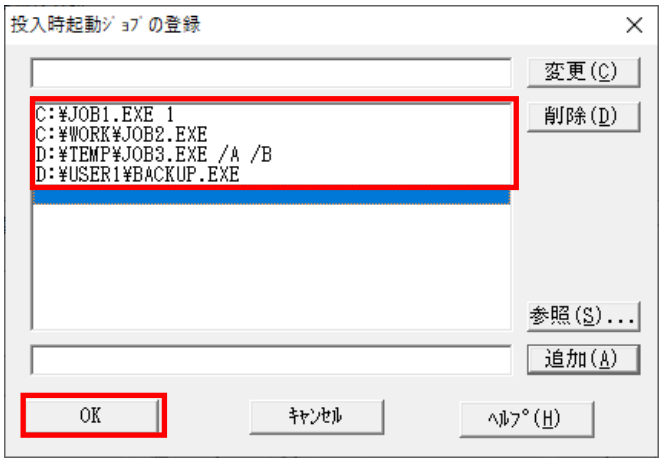


図 6.2-9

６．２．３　電源切断時のジョブ登録方法

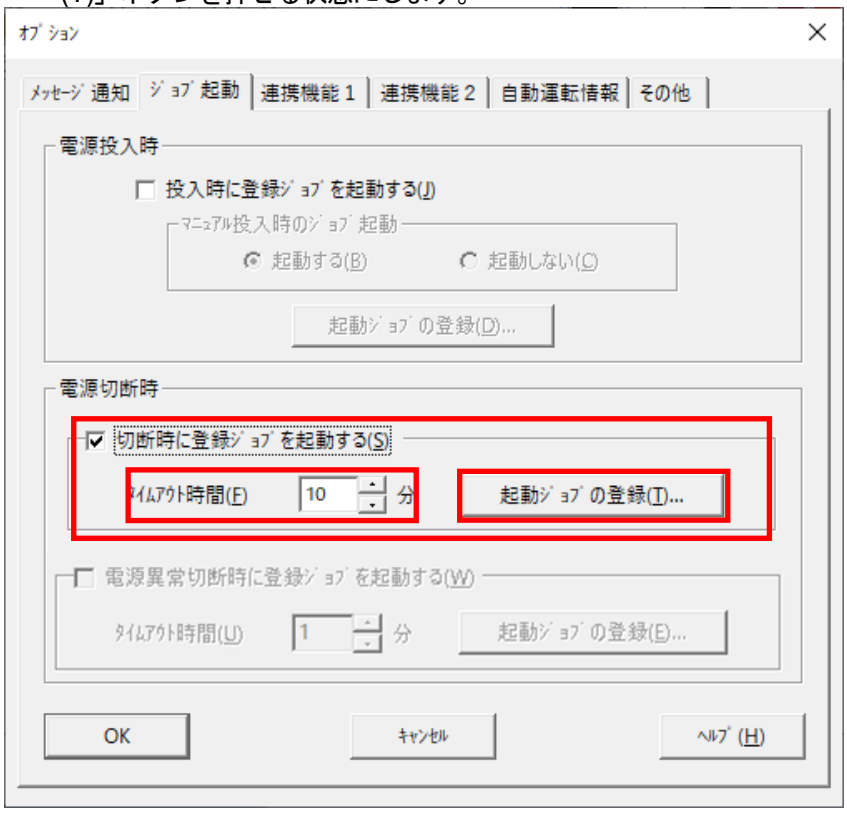
切断条件が成立した後、電源を切断する前に、実行するジョブを登録します。
電源切断時のジョブ登録には、以下の２つがあります。

1．切断時に登録ジョブを起動する場合
2．電源異常切断時に登録ジョブを起動する場合

6.2.3.1　切断時に登録ジョブを起動するジョブの登録方法

スケジュール運転や AC Management Console からのシャットダウン等、電源異常ではない場合のシャットダウンが開始する前に、登録ジョブが起動します。

（1）　画面内の「電源切断時」－「切断時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押せる状態にします。



（2） 画面内の「電源切断時」－「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押して、切断時起動ジョブの登録画面を表示します。

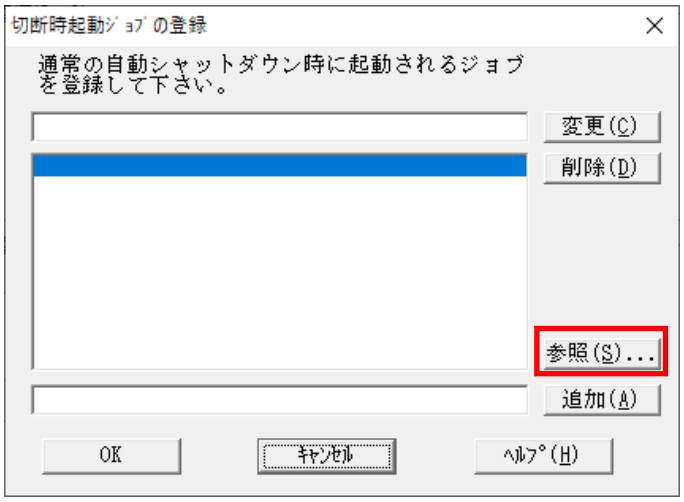


図 6.2-11

※登録時の注意事項

1．ジョブの起動順は、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に起動し、実行されます。
＜電源切断時のジョブ登録例＞ コマンドリスト
1 C:¥QUICKJOB.EXE
上記登録例の場合、QUICKJOB.EXE を実行します。
2．連動端末にジョブを登録する場合、ジョブは連動端末に格納してください。
3．登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
4．コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスで、直接入力してください。
5．登録できるジョブ数は、最大９９個です。
6．登録するジョブが複数ある場合は、（4）から（6）の手順を繰り返し実行してください。

（3） 画面下段にあるテキストボックスに直接入力をします。

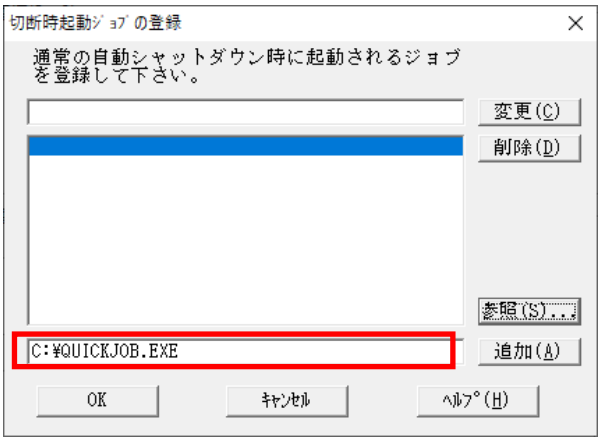


図 6.2-12

※「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示した場合、この時表示されるのは制御端末(ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が動作しているサーバ)のフォルダやファイルとなります。そのため、登録するジョブのコマンド名は手入力にて、連動端末に格納したジョブのドライブ名を含めたフルパスで指定してください。

（４） 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンドパラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例）コマンドパラメータとして１を入力した場合

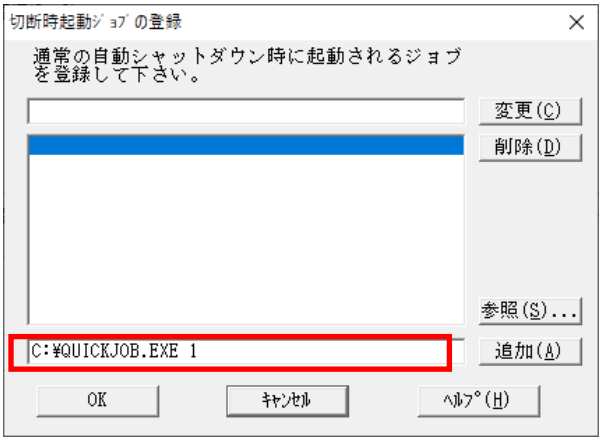


図 6.2-13

（５） 「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

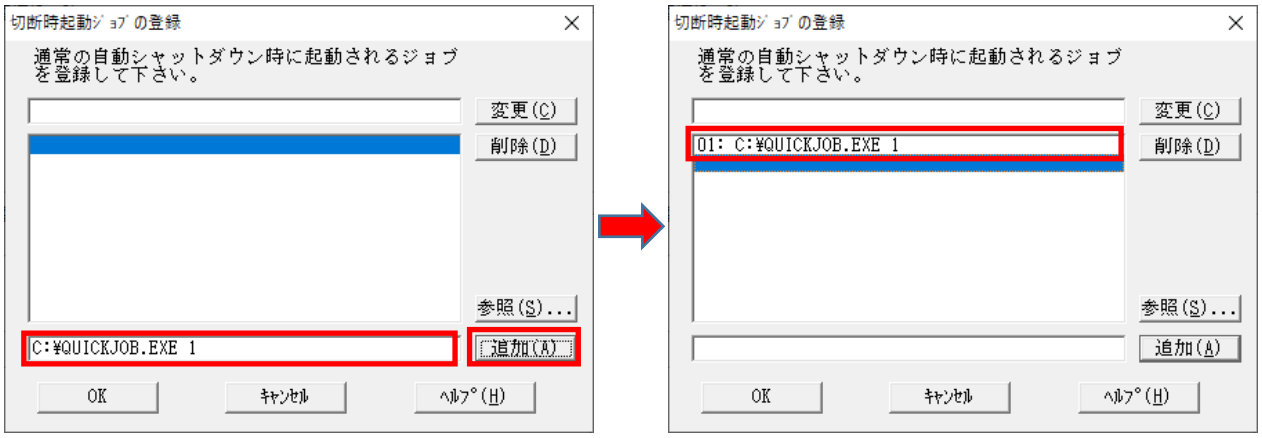


図 6.2-14

（６） 登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

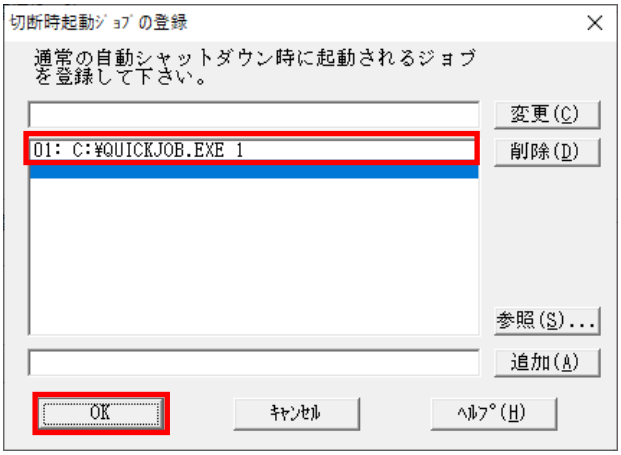


図 6.2-15

（7） 画面内の「電源切断時」－「タイムアウト時間(F)」の設定を行います。
設定範囲は、1 分～255 分となります。
このタイムアウト時間以内に登録されたジョブが完了しない場合は、その時点でサーバのシャットダウン処理に移行しサーバが強制終了します。

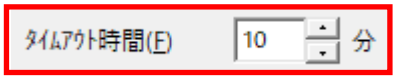


図 6.2-16

６．２．４　ジョブ登録の保存

（１）　「６．２．３　電源切断時のジョブ登録方法」にて登録された内容を保存するには、オプション画面の下段にある「OK」ボタンを押してください。

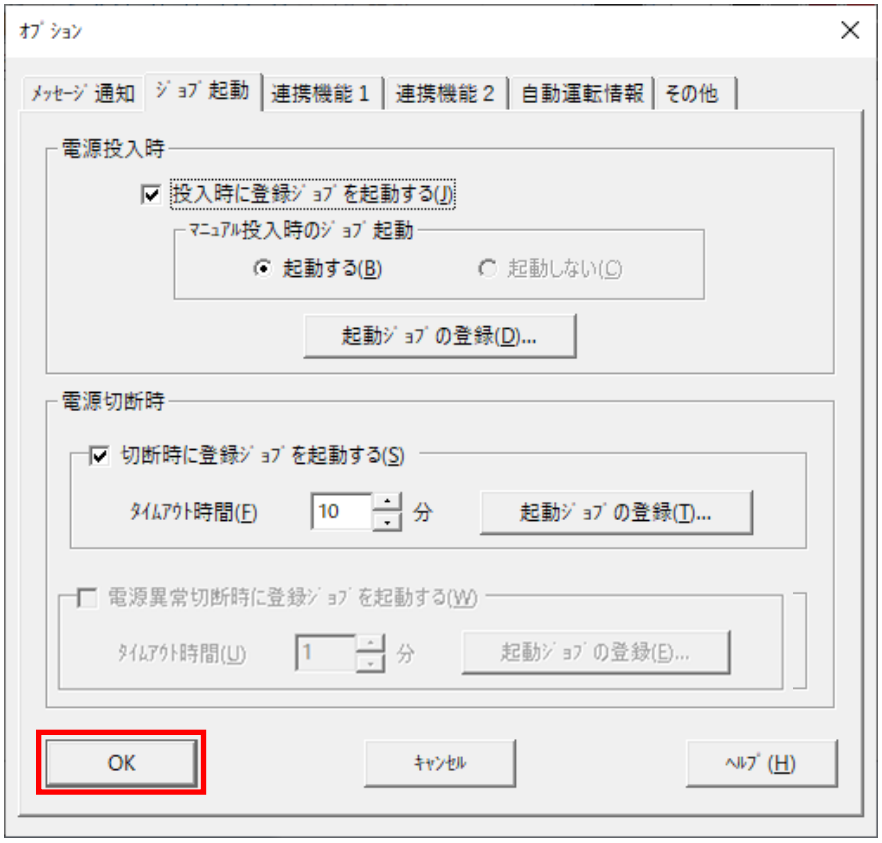


図 6.2-17

第 7 章　障害発生時には

障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

・ESMPRO/AutomaticRunningController ログ

・イベントログ

・バージョン情報

（以上の採取方法につきましては、「ESMPRO/AutomaticRunningController セットアップカード」をご参照ください。）

７．１　マルチサーバ構成でのログ採取方法

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。

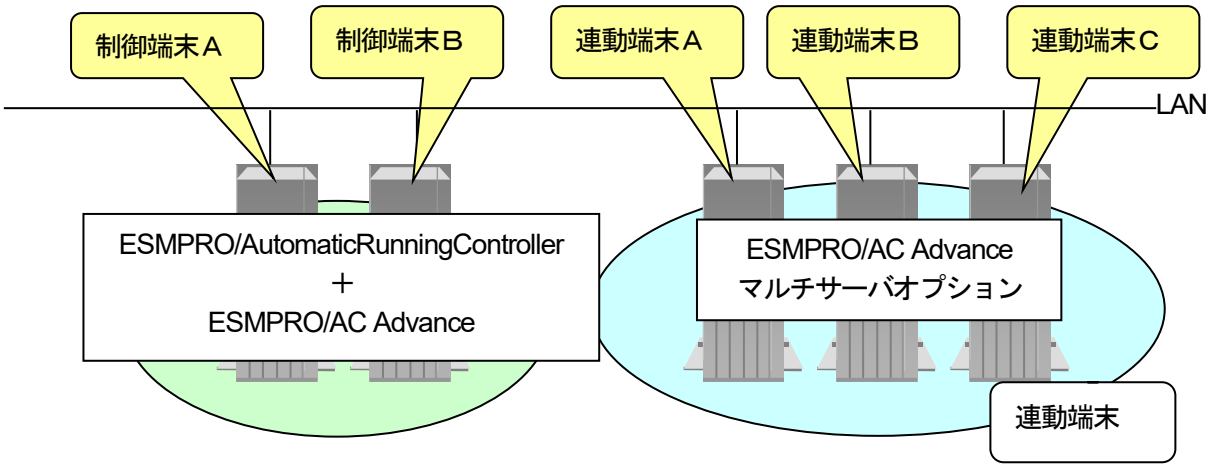


図 7.1-1

＜例：上図のようなマルチサーバ構成の場合＞

（１） 制御端末
すべての制御端末（この例の場合、制御端末Ａ、制御端末Ｂの両方）で
ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップカードを参照して必要なログを採取してください。
また、その他に下記ログの採取もお願いいたします。

（２） 連動端末（Windows サーバ）
制御端末および、管理 GUI のインストールされているコンピュータの ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を使用し、下記手順で、連動端末Ａ、Ｂ、Ｃそれぞれのログを採取してください。

＜例：制御端末Ａから連動端末Ａのログを採取する場合＞
①制御端末の ESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。

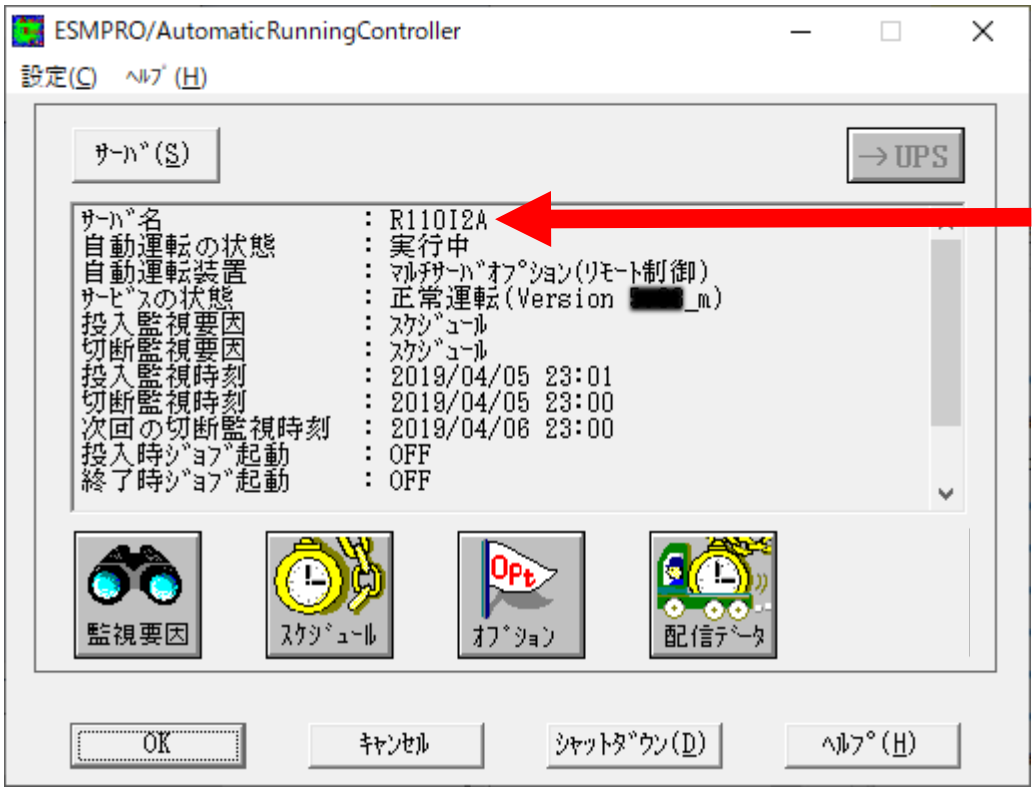
図 7.1-2

②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、連動端末Ａのサーバ名を入力し、OKボタンを選択して、連動端末Ａに接続します。

例：連動端末のサーバ名が、「R120B-1」の場合、上記サーバ指定で

R120B-1

と入力します。接続しましたら下記のように表示されます。



連動端末サーバ名

図 7.1-3

③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINTE

と入力し、「OK」ボタンを選択します。

図 7.1-4

④「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。

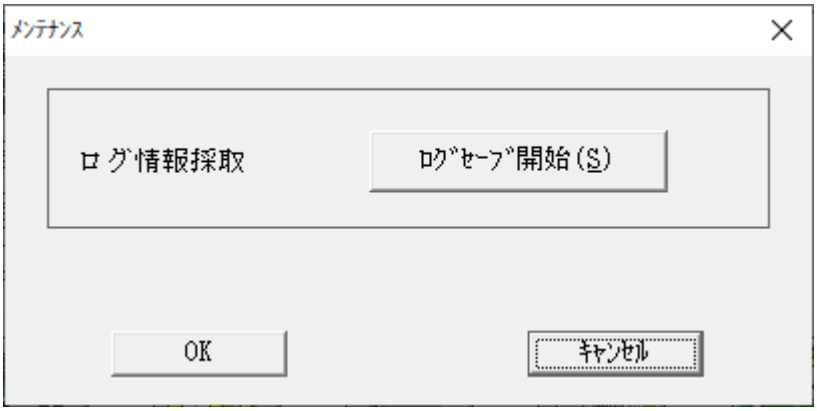


図 7.1-5

ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

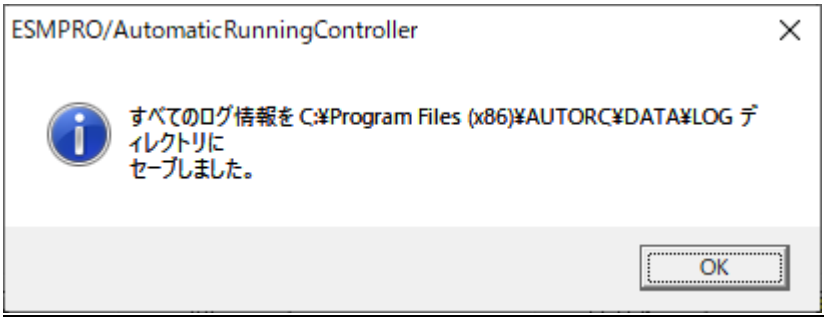


図 7.1-6

ログ採取正常終了のメッセージです。⑤の作業を実行してください。

ログ採取異常終了メッセージ

図 7.1-7

上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA¥LOG を確認します。ディレクトリにログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑤制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。

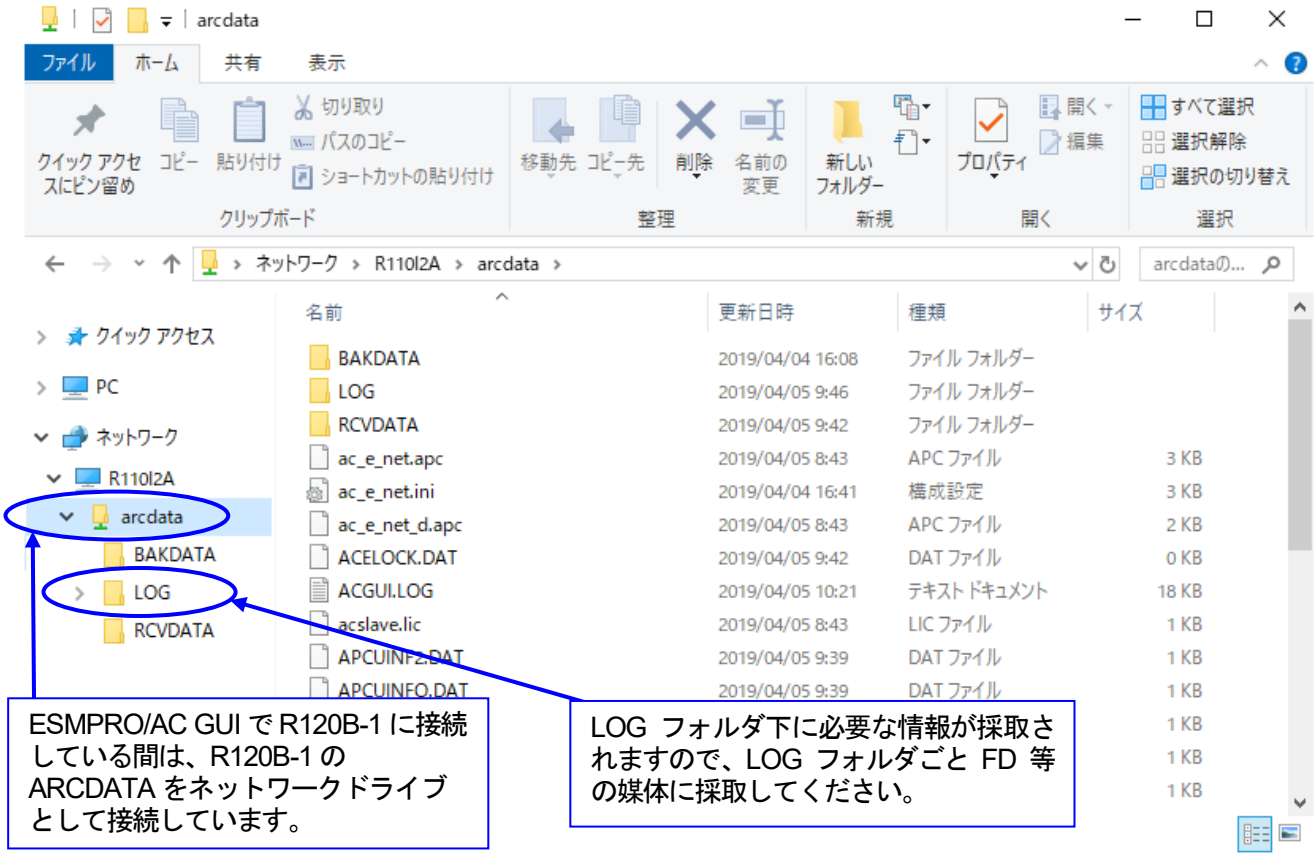


図 7.1-8

※LOG フォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。
（スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。）

サービスおよび GUI の動作不良のため上記操作でログ採取ができない場合は、以下の方法で採取をお願いいたします。

① エクスプローラ等を使用してください。

② 連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ¥DATA ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。

※ネットワークが不調な場合などは、連動端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

第８章 注意事項

８.１ セットアップ関連

(1) ESMPRO/AutomaticRunningController と ESMPRO/AC Advance をインストールする場合、インストールするソフトウェアのバージョンは必ず両方とも「Ver5.6」の製品をインストールしてください。

８．２ AMC 機能関連

(1) AMC にて管理可能な装置台数の上限は以下のとおりです。
制御端末　：３台
連動端末　：３２台

(2) AMC の構成情報保存後は、サービス(サービス名：ESMPRO/ARC Service) の再起動が必要です。

(3) ESMPRO/AutomaticRunningController および ESMPRO/AC Advance をインストールしたサーバを、連動端末として運用する場合、AMC にて作成、保存した構成情報ファイルを、そのサーバへ送付する必要があります。
AMC の画面において、送付対象となるサーバ(連動端末)を選択して、右クリックメニュー「指定サーバへ構成情報送信」を選択して、構成情報ファイルを送付してください。
ファイル送付後は、対象の連動端末の ESMPRO/AC サービスを再起動してください。

※ESMPRO/AutomaticRunningController および ESMPRO/AC Advance をインストールした制御端末、連動端末に対してのみ実施してください。

(4) AMC の機能を使ってサーバを手動停止する場合、シャットダウン指示されたサーバは即座にシャットダウンを開始します。AMC ツリーに定義されているすべてのサーバを停止するには、先に連動端末のみ手動停止していただき、最後に制御端末を停止してください。

(5) AMC の画面から [指定サーバの設定] を用いて、指定サーバの ESMPRO/AC GUI 画面を表示した場合、ESMPRO/AC GUI の起動が遅い（20 秒以上）場合があります。この場合は、ファイアウォール機能を停止させ、全ポートが通信可能な状態で現象が改善するかを確認してください。改善する場合は、下記手順で指定サーバのファイアウォールの規則を有効化してください。

1. サーバーマネージャーを起動します。
2. [ツール] メニューから [セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール] を選択します。
3. 画面左側ツリーから [受信の規則] を選択し、[リモート サービス管理 (RPC)] を右クリックし、[規則の有効化] を選択して通信を許可します。

８．３ 運用時における注意

(1) AC Advance 製品では、サーバに備わっている物理的な MAC アドレスに対して Wake On LAN パケットを送信することにより、サーバの起動を行います。

この際、制御端末から連動端末への Wake On LAN パケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。

また、AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)のチーミング設定などのネットワーク冗長構成を行ったネットワークデバイスに、ユニークな MAC アドレスを割り当てた運用を行うシステムに対しては、Wake On LAN 運用ができません。チーミングを構成する、いずれか１つの物理的な MAC アドレスをチーミングしたネットワークデバイスの MAC アドレスとして設定、運用してください。

(2) ESMPRO/AC Advance をインストールした環境でスケジュール運転を行う場合の注意

制御端末自身へは電源 ON 制御が必要となる停止期間を持つスケジュール設定（電源 OFF から ON までの間隔が 2 分間以上空いている設定）は行わないでください。

これは、制御端末が自サーバの ON 制御を行うことができないためです。ただし、電源 ON 制御が必要でないリブートを行うスケジュール設定（電源 OFF から ON までの時間が 1 分間に設定）は可能です。制御端末のリブートに掛かる時間中は連動端末に対する電源制御が行えませんので、制御端末のリブート時刻と連動端末の ON/OFF 時刻が重複しないように設定してください。

その他の連動端末に対しては各サーバで独立したスケジュールで運用可能です。

＜設定例＞

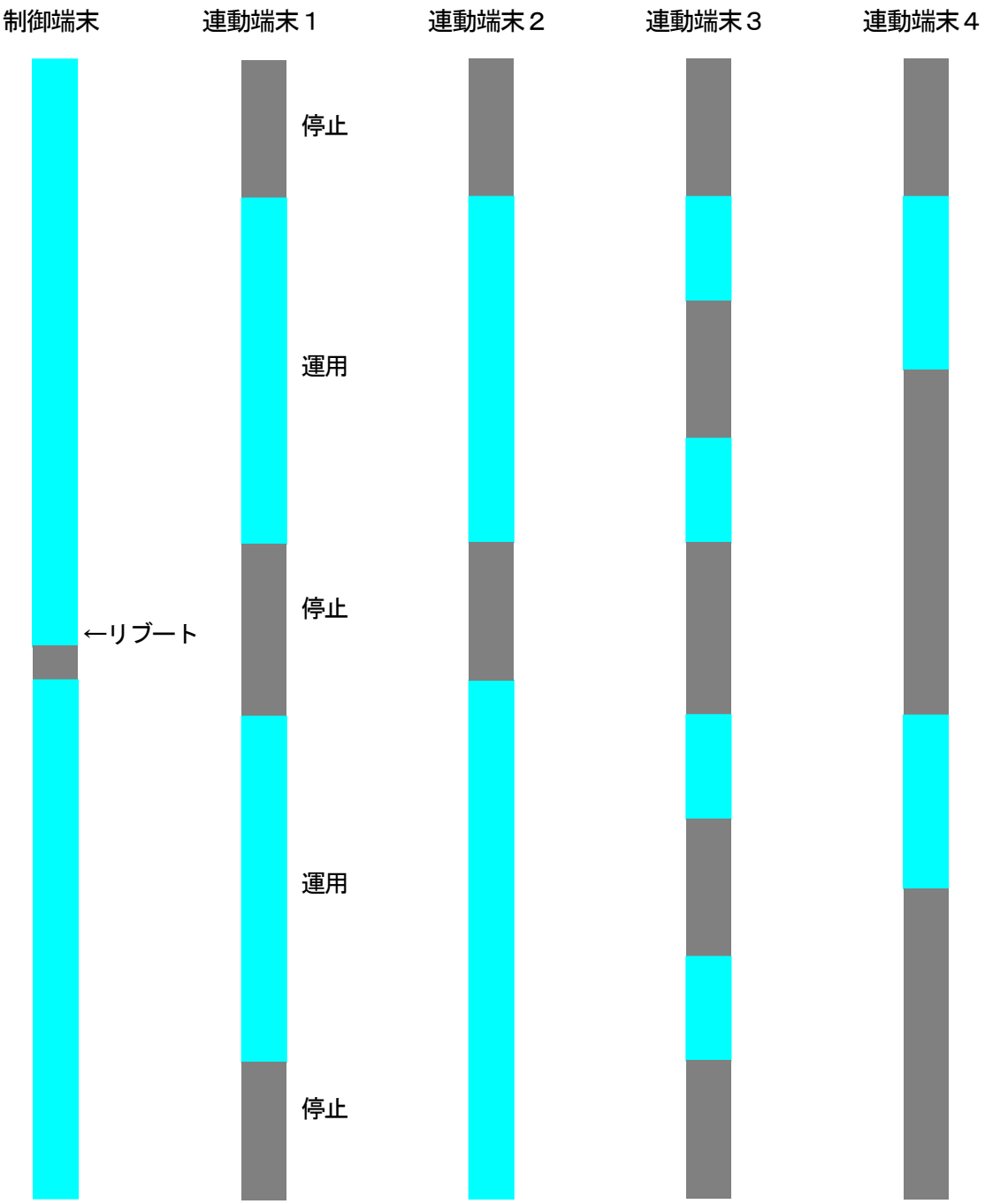


図 8.2-1

第９章 用語集

No	用語	説明
1	ESMPRO Platform Management Kit	ESMPRO の各種ソフトウェアを格納したソフトウェアパッケージ。
2	ESMPRO/AutomaticRunningController	無停電電源装置(UPS)を使用したサーバの自動電源制御機能を提供するソフトウェア。
3	ESMPRO/AC Enterprise	SNMP カード付き無停電電源装置(UPS)と接続した複数のサーバや共有ディスクの電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
4	ESMPRO/AC Advance	無停電電源装置(UPS)を接続しない複数のサーバの自動運転機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
5	ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Advance」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
6	ESMPRO/AC Enterprise(クライアント)	無停電電源装置(UPS)とサーバを監視する機能を持つパッケージ。
7	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Enterprise」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
8	ESMPRO/AC MSCS オプション	WSFC(Windows Server Failover Cluster)または MSCS(Microsoft Cluster Service)によるクラスタ環境の電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」＋「ESMPRO/AC Enterprise」環境のオプションパッケージ。
9	ESMPRO/ServerManager	ネットワーク上のサーバを管理・監視するサーバ管理ソフトウェア。
10	ESMPRO Extension for Windows Admin Center	Windows Admin Center に対して Express5800 サーバのハードウェア情報を表示するためのプラグイン。
11	ESMPRO/ServerAgent	ESMPRO/ServerManager と連携し、サーバの監視および各種情報を取得するためのソフトウェア。
12	ESMPRO/ServerAgentService	ESMPRO/ServerAgent の後継ソフトウェア。
13	ExpressUpdate Agent	管理対象サーバにてファームウェア、ソフトウェアなどのモジュールを ESMPRO/ServerManager によってリモートから更新することを可能とするソフトウェア。
14	WebSAM iStorageManager	ストレージリソースを効率的に一元管理し、構成表示、状態監視、障害通知を行うソフトウェア。
15	Windows Admin Center	Microsoft が提供する Web ブラウザベースのサーバ管理ソフトウェア。
16	BMC	Baseboard Management Controller システムの状態や OS に依存することなく、ハードウェアの状態・異常を監視できる Embedded controller。
17	EXPRESSSCOPE エンジン	BMC を用いて実現している NEC 製管理用コントローラ。
18	BMC（EXPRESSSCOPE エンジン）	EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載の装置
19	BMC（その他）	以下以外の装置。 ・BMC（EXPRESSSCOPE エンジン） ・iLO ・vPro
20	iLO	Integrated Lights-Out 標準インターフェース仕様の IPMI2.0 に準拠してハードウェアを監視するコントローラ。

21	vPro	インテルの企業向けプラットフォーム・ブランド（Intel® vPro™ テクノロジ）。
22	iAMT	Intel® Active Management Technology vPro を構成する主要機能の１つで、リモート管理をコントロールする技術。
23	SOL	Serial Over LAN Serial に出力されるデータを BMC が UDP Packet 化して LAN 経由で送信する機能。
24	WS-Man	Web Service Management IT システム全体の管理情報にアクセスするための共通手段を提供する技術仕様。
25	クラシックモード	ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 から起動する ESMPRO/ServerManager Ver.6 相当のユーザーインターフェイス。 サーバの詳細情報表示や ESMPRO/ServerManager の環境設定を行う。
26	コンポーネント	ESMPRO/ServerManager 上で管理する装置。
27	システム管理	ESMPRO/ServerManager で SNMP (ESMPRO/ServerAgent) / WS-Man を使用してコンポーネントを管理すること。
28	ダッシュボード	さまざまなコンポーネントの状態や詳細情報を統合して表示する管理画面。
29	ライセンスキー	ESMPRO のソフトウェアのライセンスを登録するためのキー。
30	インポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理においてライセンスキーをソフトウェアに送信し、ライセンスを登録すること。
31	エクスポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理においてソフトウェアに登録されたライセンスキーを取得すること。
32	WebSAM AlertManager	ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent などの関連製品の通報機能を拡張するソフトウェア。
33	iStorage (M シリーズ) ESMPRO/ServerManager 連携モジュール	ESMPRO/ServerManager から iStorage の監視をするために必要な連携ソフトウェア。
34	[まとめて設定]	ESMPRO/ServerManager が管理しているコンポーネントの一括設定および設定のダウンロードを行う拡張機能。 以下の設定が可能です。 ・AC Management Console で電源管理設定を行った Express サーバと無停電電源装置（UPS）の設定 ・以下のソフトウェアがインストールされている装置の通報設定。 - ESMPRO/ServerAgent(Windows) - ESMPRO/ServerAgentService(Windows) - ESMPRO/ServerAgent for GuestOS(Windows) - 他社機版 ESMPRO/ServerAgent(Windows) 以下のソフトウェアがインストールされている装置のリソース監視設定。 - ESMPRO/ServerAgentService(Windows) - ESMPRO/ServerAgentService(Linux) 本ガイドでは、まとめて設定機能を[まとめて設定]と記載。

35	拡張機能	ESMPRO/ServerManager では、拡張機能として以下の機能を提供。 ・イベントトリガーアクション ・[まとめて設定] 拡張機能を使用するには、ESMPRO/ServerManager 拡張機能マネージャライセンスおよび、管理対象機器台数に応じて ESMPRO/ServerManager 拡張機能ノードライセンスが必要。 詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 インストレーションガイド(Windows)」を参照してください。
36	Microsoft Teams	米国 Microsoft Corporation が提供するコミュニケーションツール。
37	イベントトリガーアクション	ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを契機に、指定するアクションを実行する拡張機能。 指定可能なアクションは以下のとおり。 ・メール通報 ・Microsoft Teams 通報

表 9-1